307
162

始

特116
817

# 志潔行廉

剛堂

大正
12.12.20
内交

律方

源

癸亥初秋題
時強炎如熾
雅山

憲政

# 茨城縣名家錄序

擧世澆季に向ひる歟、東西思想の錯雜混亂、暴富の徒驕奢に耽り、奇行の輩新異を弄し、以て名を俗界に衒ひ、凡人に聲し、得々として横行す、此の如くにして國家を泰すし、社會を隆にするを得べきや、余久しく惑なき能はざるなり。

政友瀧源次郎君憲政を以て國家を興隆し、國民に慶福を得せしめんことを志し、憲法實施以來席暖まるに暇まなく、縣内に東弄西走するもの三十年、郡として至らざる村なく村として知らざる人なし、老の將に至らんとして憲政の完美を見るに能はざるは、主として奇行の輩、暴富の徒、世を惑はし俗を紊すの致す處なるを慨し驕奢新異を以て名性を凡俗に聲衒するの徒輩を排斥し、溫良質實、清廉勤勉にして氣節ある士、千餘人を撰び、其眞影略歷を揭げ、題して名家錄と云ふ、之を世に公にせんとす、蓋し其志たる眞成なる德節を有し、篤實なる美行あるの名家を發揚し、世人據るべきの方針を思想の上に示し、之に因りて以て社會の秩序を保ち、憲政の完美を期し、國家を興隆せしめ、國民に慶福を得せしめむとするに在る歟、予頗る其志を嘉し、此の企の有益なるを疑はざるなり、然れども茨城の縣たる常總二國に涉り市一、郡十四に及び、人口百萬と稱す、名家亦此書に收め得ざるもの多きを知る、他日第二輯を發行せんとするか、果又他の同志者の撰に讓れるか、必ずや二者其一に依らざるべからずと信ずるもの也、今書の大略を述べて、予に一言せむことを永めらる方に、之を書して返すと云ふ。

大正十二年十一月

河野正義

# 趣旨書

茨城縣憲政名家錄を公刊するに當り聊か所思を陳べて序に替へんとす。

夫れ憲政々治程尊ぶべき政治は我建國三千年の歴史の上に又とあるべからず。憲政々治とは何ぞや。伏して惟んみるに恐れ多くも　上御一人にて日本の經濟を行ふものに非ず、國民各々に參政權を附與させんとの大御心より出でたる政治なり。併しながら我が國民七千萬同胞が悉く參政して論議するは爲し能はざるところなれば玆に代議制を置きて國會を開かせ給ふ所以也。憲政々治の神聖なること斯の如し。

然るに國會議員の選擧に當りてや此の神聖なるべき選擧權の賣買荐りに行はる、何ぞ慨嘆に堪ふべけん。先帝の下し給える五箇條の御誓文を拜誦せすや。萬機公論に決し上下心を一にして盛んに經綸を行ふべしと宣らせ給ふ。國民として感泣の至り也。

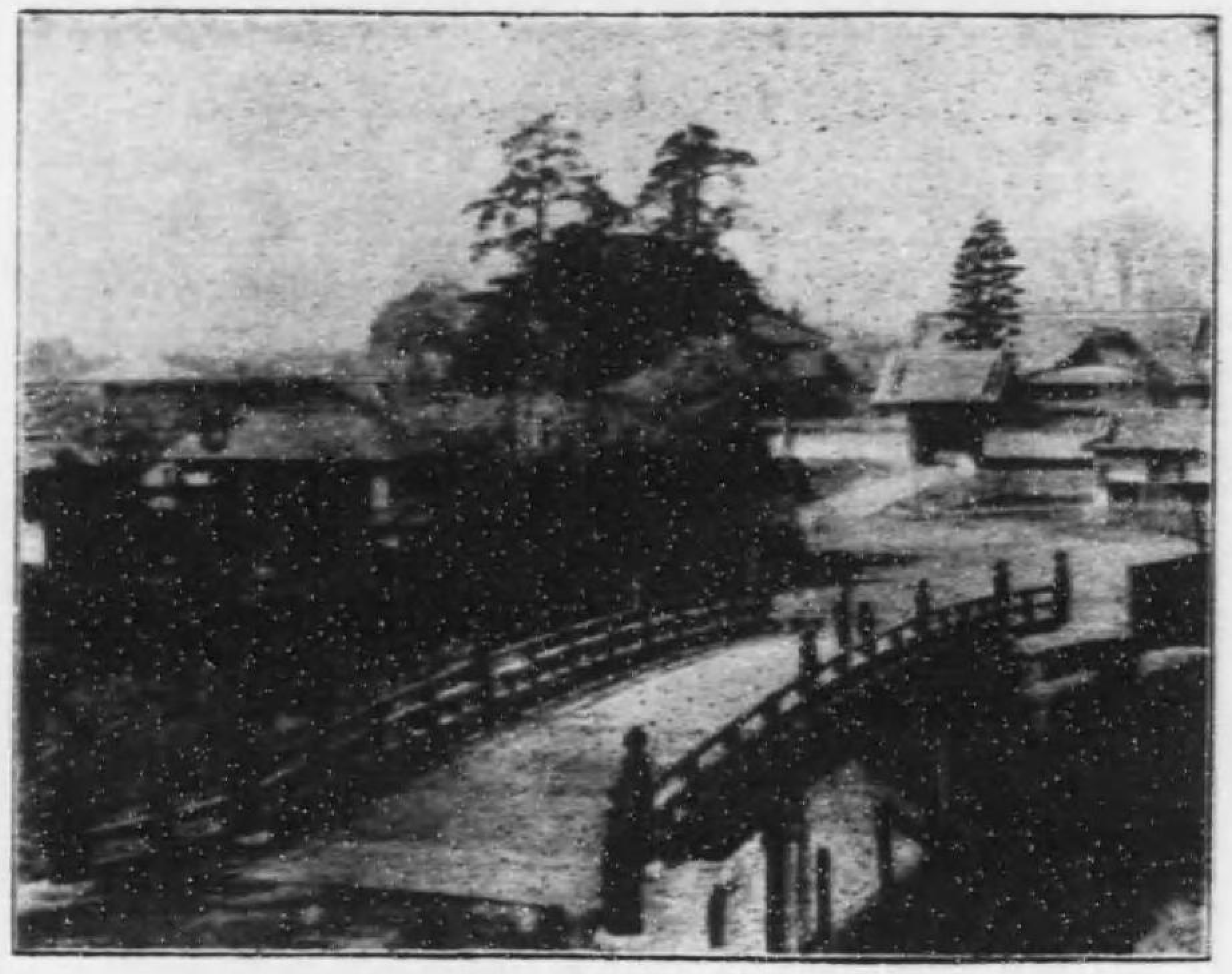
今や下は村會議員の選擧より上は貴族院議員の選擧に至る迄買收贈賂行れざるなく、上下學議の有無を問はず、國憲を紊り國法を犯し恬として愧つるところ無し。

余や五箇條の御誓文と更に明治八年四月十四日布告の立憲政體を立つるの詔勅を拜誦して憲政々治の忝けなさに感佩し徹頭徹尾之れが實行完美を期してより爾來四十有餘年、茨城縣下を始め全國各府縣至るところ東奔西走、席の暖る遑なく老の將に至るを忘れて今日となりぬ。熟々既往を顧みて意らく憲政の完美を見る能はざるは暴富の徒世を惑はし俗を紊るに由る、爰に於て正義にして篤實なる名士を擧げ以て憲政の完美を期するは國民に慶福を得せしむるの捷經なりと、是れ憲政名家錄の編纂を企てし所以也。

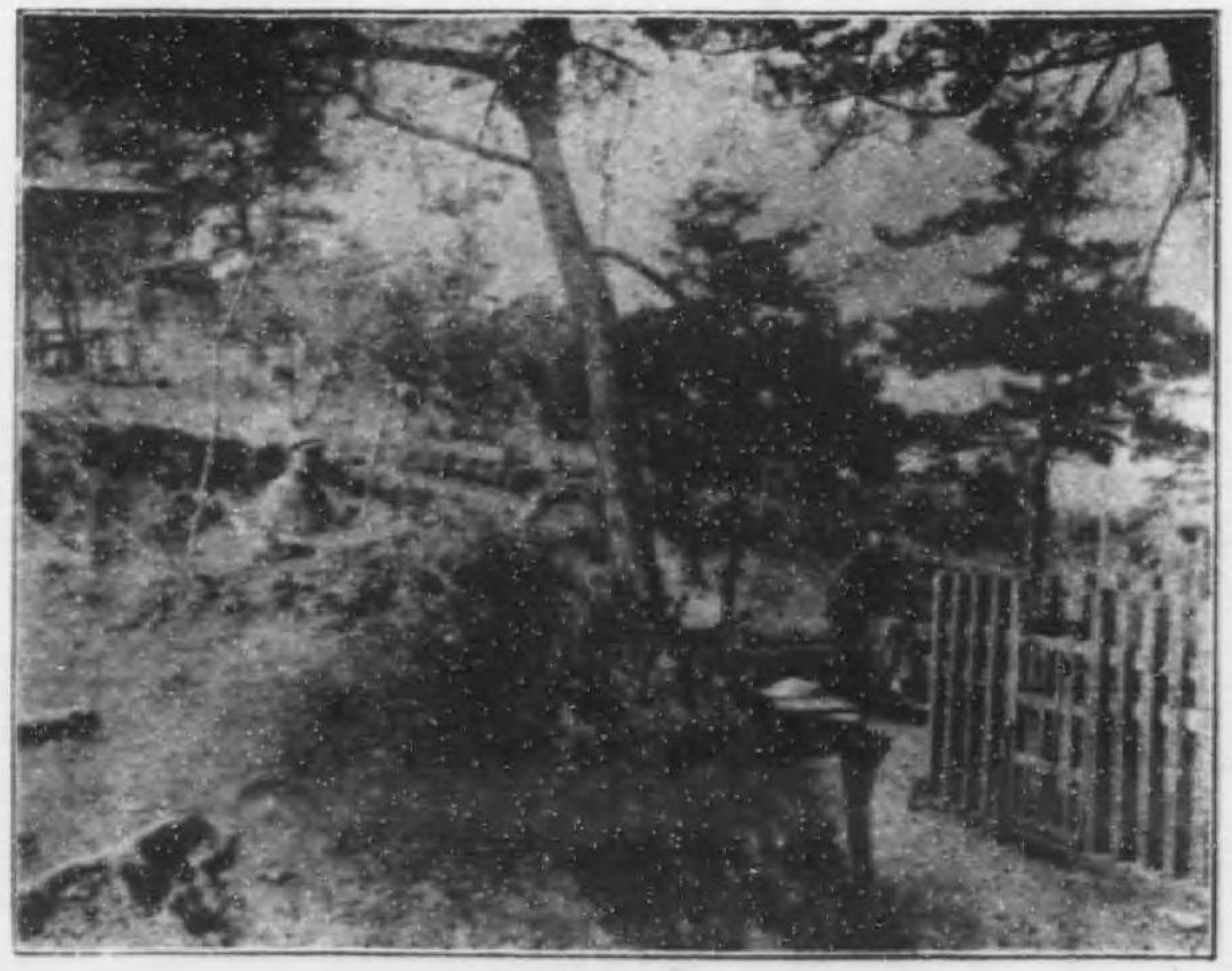
余や自治制布かれて以來町村會議員の選擧乃至は衆議員の選擧に係り奔走努力幾百回なるを知らずと雖も未だ曾て參政權の賣買に與りしこと無く獄裡の門を踏通せしこと無し。是れ憲政々治に忠正盡瘁せるものと竊かに誇りとするところ、此は全く賛助に吝かならざる諸賢が後援の賚にして獨り微力の余の爲し能はざるところ也。

今や刊成り座右に捧ぐるに當り謹んで感謝の意を表すると共に併せて微衷を汲ませくれんことを。　至囑々々

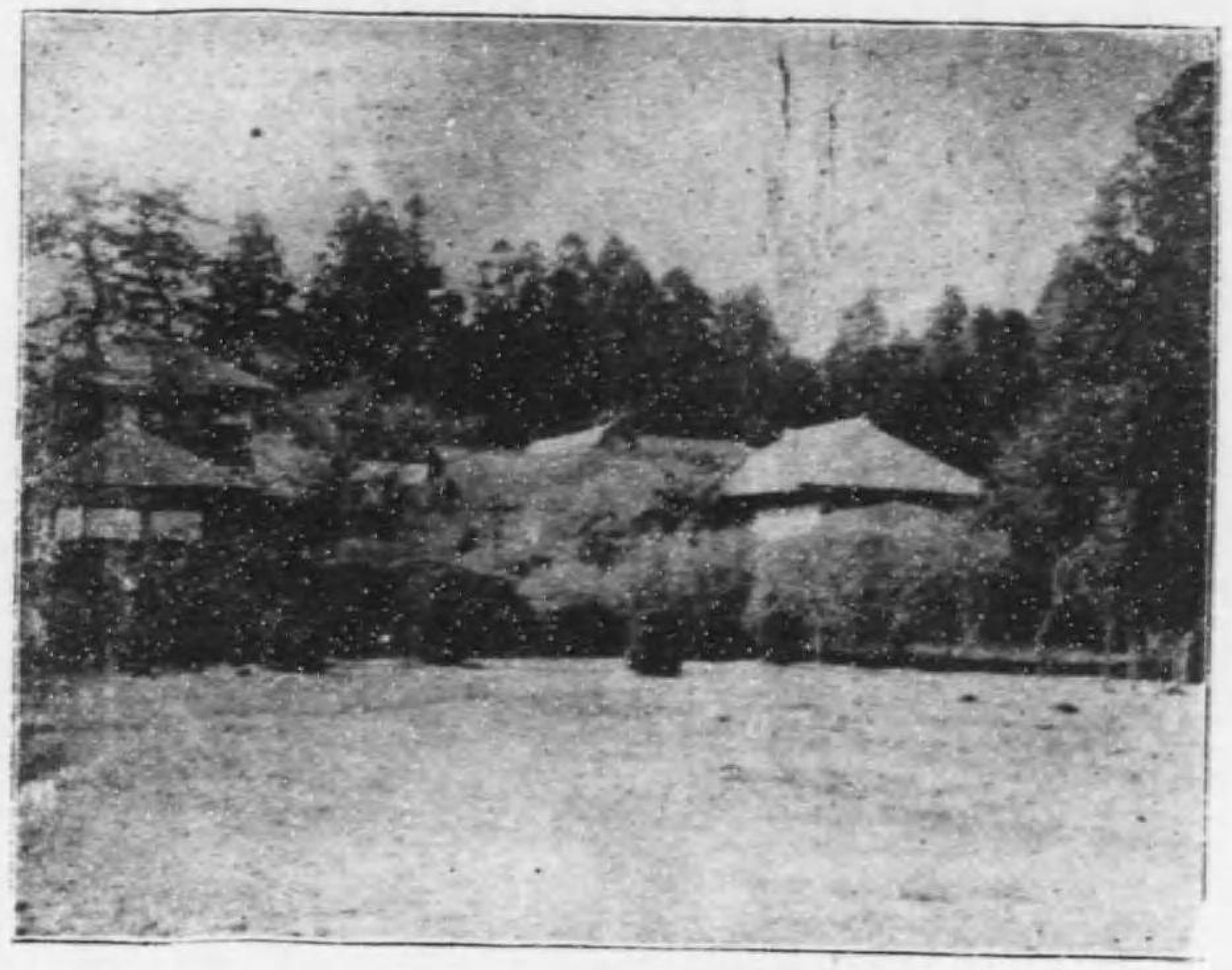
編者　誠



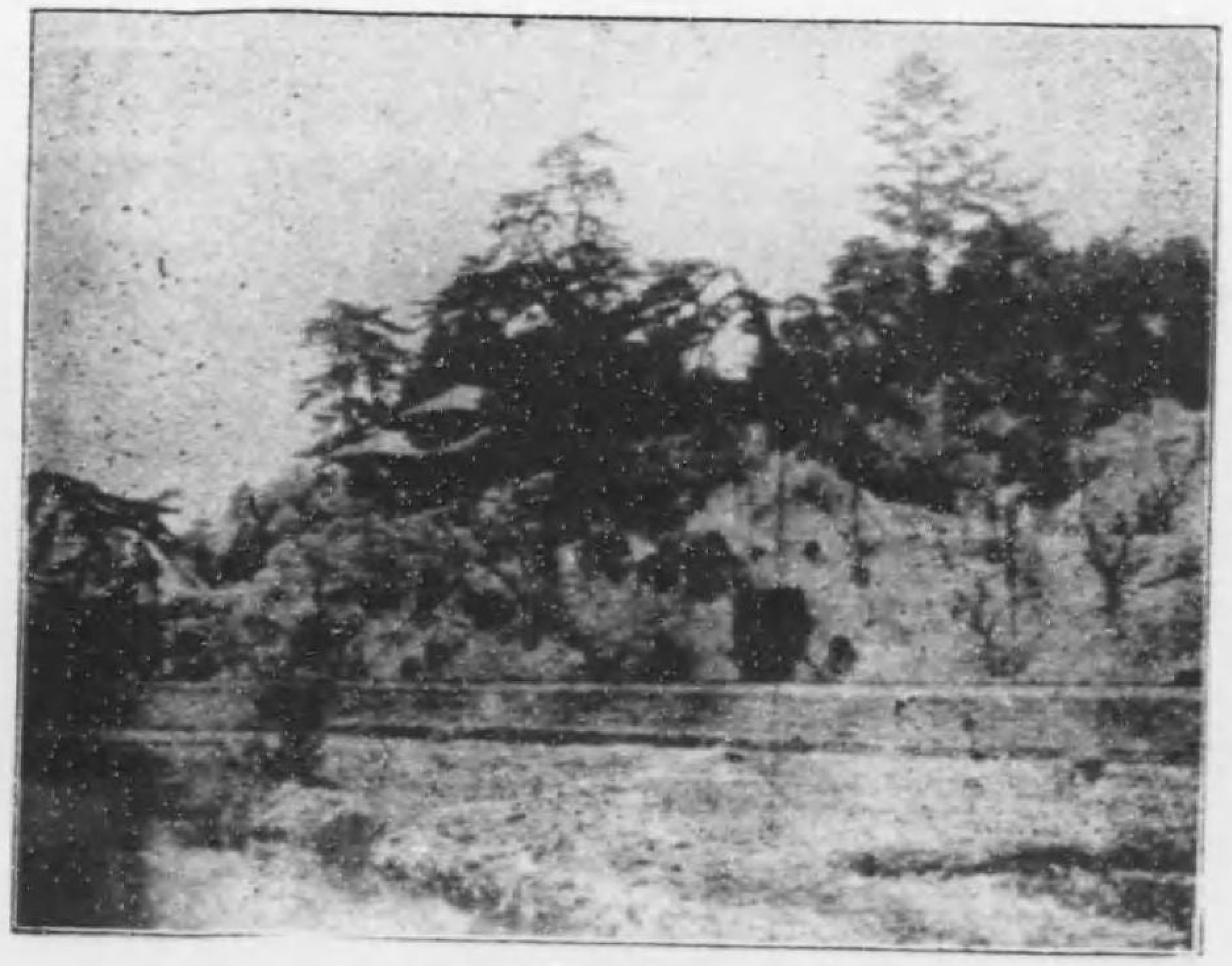
(舊水戸城大手橋より弘道館を望む)



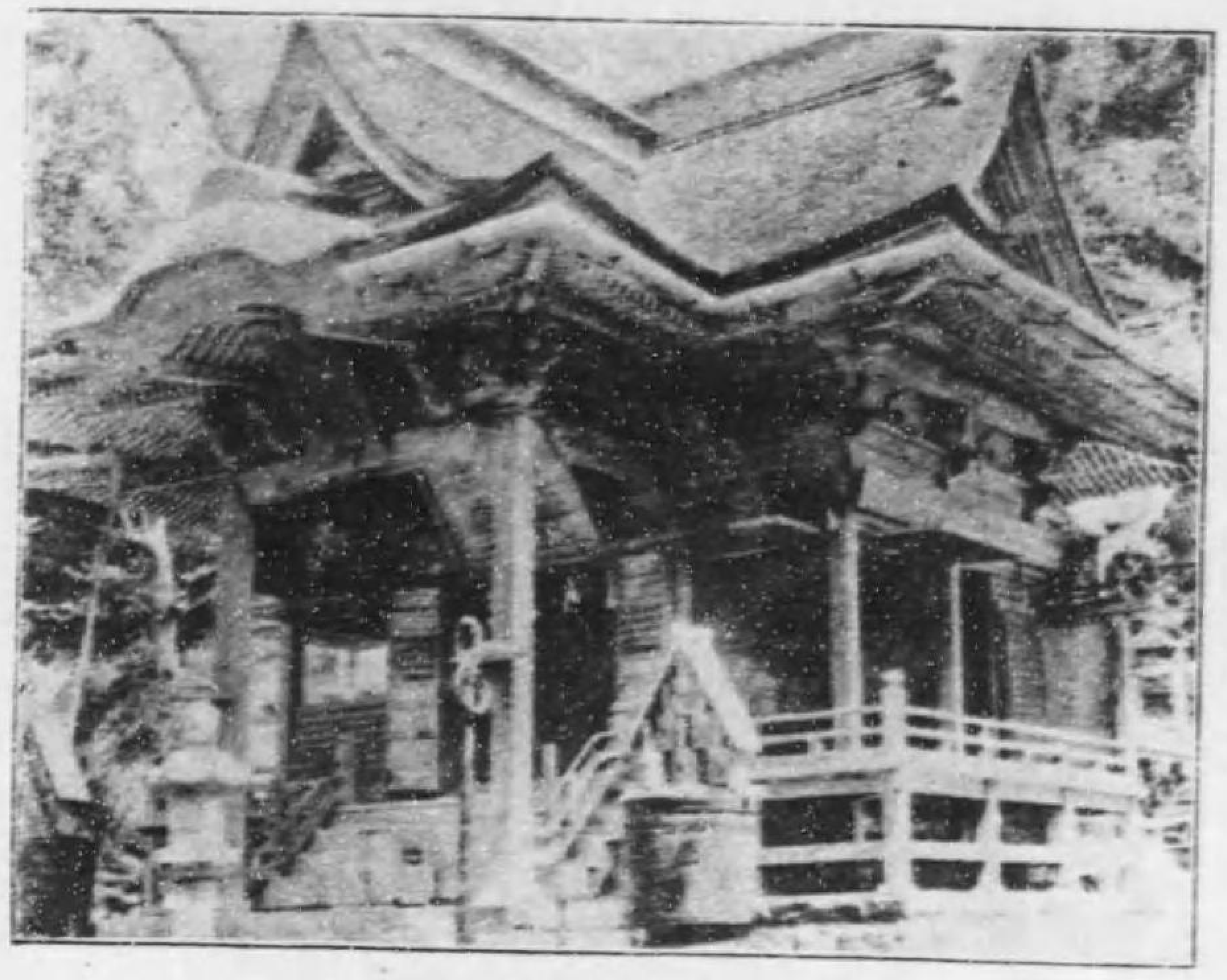
(國界の名所勿來の蹟)



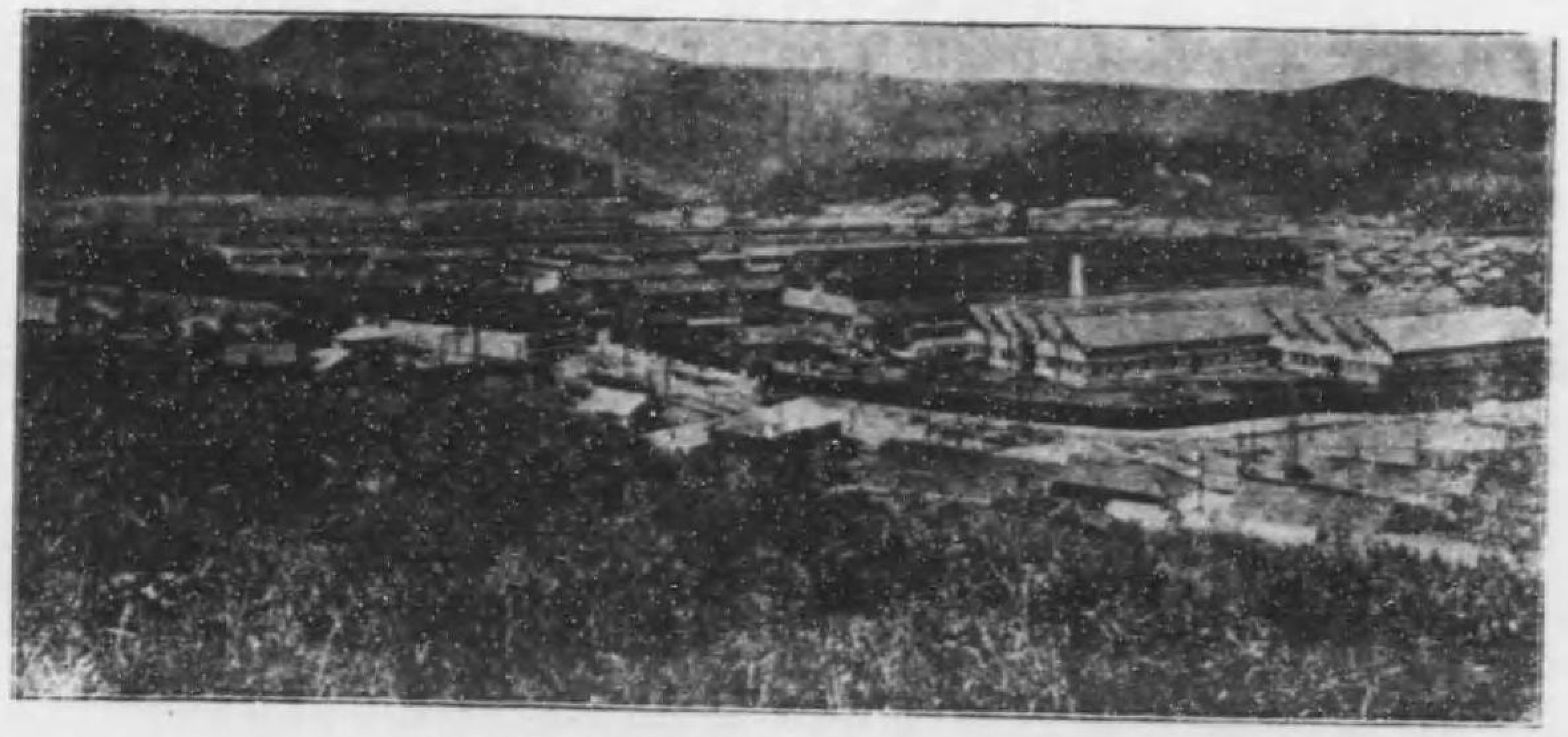
（常磐公園好文亭）



（常磐公園好文亭の遠望）



（常陸名社平潟八幡宮）



（東洋一の日立鑛山の全景）

# 世界第一ノ横綱力士

國技舘取締役

水戸市上市上金町

## 市毛谷右衛門君

故

## 市毛谷右衛門君

君は明治六年十一月水戸市上市北三ノ丸に生る水戸藩士劍客市毛高成の長男にして大日本武德會京都本部劍道範士内藤高治君は君の叔父に當る祖父の名を襲ふて谷右衛門と名く。

君幼少より膂力衆に秀で夙く東都に出でゝ出羽の海の門に入り御西山と名乘り常陸山と改稱して遂に相撲道の權威横綱を張り斯界の第一人者として横綱梅ヶ谷を敵手に久しく土俵上に覇を唱ひ明治大正の相撲道の一大盛觀たりき。

君の名聲は獨り國内に止まらず遠く米國に渡航して國技を海外に轟かし時の大統領ルーズベルト氏に握手し日米の交歡を厚ふせるは未だ人の記憶に新たなるところにして古今獨歩の大力士の風丰は彼の錦繪と共に永久に傳へらるべし。

君は又門弟の指導誘掖に甚だ努め其の門より横綱に栃木山、大錦、大關に常ノ花の如き偉材を出し土表退隱後も年寄出羽海を襲名し國技舘取締役として畫策し絕大の權威者たりき。

君は又他面情の人にして佳話頗る多きが中に殊に父高成翁に對しての孝養は實に至れり盡せりと傳へられ彼の水戸市上市上金町二丁目裏通りに構えたる宏大なる邸宅は兩親の老後を慰めんとして造營し邸内には雌雄の孔雀を飼ひたり、今此の孔雀一番は縣師範學校附屬小學校に寄附されて艶麗なる羽毛を風に翻へしつゝ兒童の研究資料となれるは洵に君を偲ぶ好個の紀念となりたり。

惜むべし大正十一年六月十九日病んで逝く、

享年四十九歲。噫

町長　**伊能林兵衛君**

君は東茨城郡小川町の人にして現に町長の榮職にあり。又一年志願兵として入營し陸軍步兵少尉となり其後成績拔群の故を以て中尉に拔擢せられ全町軍人會長として在郷軍人の訓練敎化に努め模範分會長の名を博するに至れり。

君人と成り溫厚平和にして然も毅然として内に動かす可からざる志想を有するが故に、町民より深く信頼せられて中樞人物として尊敬せらる。君が町長に就職以前に於ては全町は首腦者の適材を缺きたるの結果、常に紛擾を釀し町長を更へる事屢々なりしが君の就任に依て非凡なる手腕を發揮し、能く町民と折衝を重ね町民二分して爭ひる紛擾を融和して今日の理想鄕を現出するに至れり。

君は又高遠なる理想を有して政治的理解に富み、且つ辯論の雄者として四隣に其名を稱せられ縣議壇上の名士とするに足るの故を以て之が推薦を受けつゝあるは君が才學の賜として蓋し適任といふべきなり（大正十二年八月十日記）

前郡會議員　**石川鐵之介君**

君は東茨城郡橘村大字川戸の人明治五年一月六日仝村大字山野戸塚惣重方に生る石川家は代々居村の里正にして先代治左衛門は維新後戸長及び其他の公職にあり。氏は小學校卒業水戸輔仁學舍に入り專ら和漢の學を修め後才として名を博せり。仝二十四年軍隊に入營し、二十七八年戰役に從事し二十八年十二月二十七日戰役の功により勳八等に叙せらる。同年緣ありて石川治左衛門君の養子となり農業並に農事改良に精勵す。三十一年四月村會議員並びに區長に擧げられ、三十二年九月郡會議員となる、三十四年四月學務委員に選ばれ、三十五年郡會議員滿期となるや再び衆望に依つて當選の榮を荷へり。三十六年所得税調査委員に擧げられ其間村會議員たる事數回常に村政、郡政に貢獻する處尠なからざりき。君資性穏健にして思想堅實なるが故に一村より重視せられて榮職に選ばれ專心努力して敎育、產業の發展に資する事大なるものあり又常に農蠶は國本培養の根本義なる事を會得して之が發展進歩を圖れるが故に茨城縣是製絲株式會社の設立せらるゝや推されて取締役となるに至れり、實に君の如きは地方の門閥家に生れ、能く社會の爲めに盡瘁し國家の進展上多大の功勞ありたるものとして推稱し得べきなり。

## 飯村丈三郎君

君は眞壁郡上妻村大字黒駒の人嘉永六年五月十四日を以て長男に生る、その先は駒城守衛の一人なりしが城陷て後此の地に歸農す當時門柱として植栽せりと傳ふる周圍丈餘の大欅四本は今も尙表門裡門の西方に繁茂せり祖先累代地代官名主役を無上の名譽として繼承し來り君が廿一歲の時第六大區十小區の戸長に任せらるゝや君が祖父は赤飯を炊きて祖先に奉告祭を爲したりと云ふ。

君長じて水戸或は東京に出でゝ大いに力を伸べんとするや祖父達は頻りりに之を憂ひ『汝は小智に慢じて父祖二十七代の家聲を亡ぶ勿れ』と誡められしと云ふ以て如何に嚴格なる家庭の訓育を受けられたるかる偲ぶに足るべし。

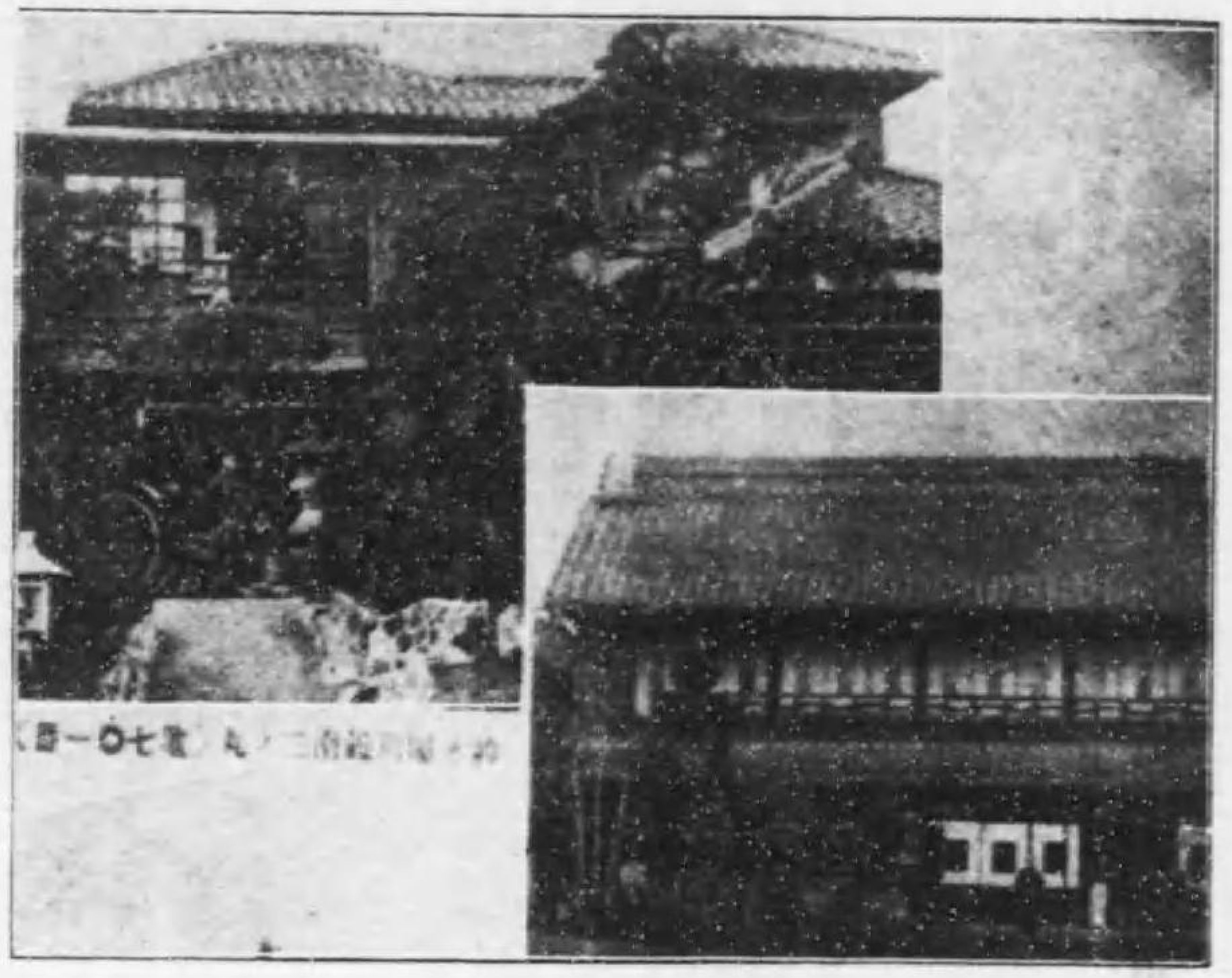
君は現に日本火災保險會社取締役、いはらき新聞社々長、常總鐵道株式會社取締役其他數社に關係し財界事業界に重きを爲せるは人の知るところ也。

往事縣會議員、衆議員議員に選ばれ或は縣治に或は國事に奔走せしが夙く政界を隱遁し老後私立茨城育才會の事業を援げて專ら後進の敎育誘道に努む。君の如き人格高く德風沿き先進を有するは實に鄕黨の誇也。





旅館老舗　**伊藤亥之吉君**



## 伊藤亥之吉君之傳

君は水戸市南三ノ丸の人、弘化四年四月の出產。性格正直律儀商賣柄なりとし世辭を振り廻し或は心にもなき愛嬌を作るが如き人ならず。唯々誠心誠意を以て營業に熱心し宿泊の客を大切に迎ふるを肝要第一とし假令一錢一厘の相違と雖も大嫌ひなりとて必ず正す。人皆君の精心を賞でゝ模範の館主となす。水戸鐵道敷かれ停車場の開かるゝや鈴木屋と名を打つて開業し今日の盛大を見るに至れるは是れが清廉の精神と不斷の勤勉に加ふるに君が妻君の愛嬌好く如才無き客の歡待振りとの賜物と言はざるべからず。君今は世を讓りて別館に起居す本館當主の妻君亦能く君の精神を繼いで顧客に信用厚く益々繁榮を來しつゝあり

辯護士
特許辯理士 **石大次郎君**

君は多賀郡松原町高萩の名門、明治六年八月の出生、同二十二年笈を負ふて東都に遊學し刻苦精勵大いに努む、同二十六年千島議會に投じて萬里の波濤を超え遠く千島に趣く、翌年日清戰爭の起るや君大に感ずるところあり、函館に至りて新聞を創刊し自ら健筆を揮ふて盛んに國民元氣の作興に任ず。次で同二十八年露領西伯利に趣きて活躍すること三年、西伯利の事情に通ず、三十年歸國し郷里に運送會社を起し兼て祖業の釀造業を經營せしが好學の君は再び東京に出でゝ法學を專修しその蘊奥を極めて同四十年辯護士の試驗に合格す。

君事に當るや極めて細心にして熱誠一度君に訴訟を依頼せる者孰れも君の手腕に敬服せざる無し、在野法曹界に名を爲せる所以亦實に玆に存す。

君は東京辯護士會常議員、日本辯護士協會理事に擧げられ、同業者間の重鎭たり、又特許辯理士として新方面の開拓を爲せる君が名は夙く全國に知らる、活動家たる君は獨り中央に重きを爲せるのみならず今や朝鮮、支那の都會には各出張所を有して手廣く活躍せるは法曹界の異數となすところ、君の勢力絶倫なるには一吃せざる者なし。

東京丸ノ内ビルヂング内に堂々たる事務所を置き多數の事務員をして百千の依頼の事務を秩序整然と處理し行くところ快刀亂麻を斷つが如く、如何にも現代的の執務振りにして一見して君が成功の偶然ならざるを知るを得べく實に立志傳中の人物たり。

元郡長 **岩田常松君**

君は新治郡新治村大字西ノ寺の名門、明治五年九月三日を以つて生る。其先は代々平氏に仕へたる武家たりしも元祿年間世を遁れて舊信太郡大岩田村郷に在り新治郡西野寺に轉じ麹酒製造に從事しつゝありしが天明年間農に歸す。

君は明治廿年本縣巡査を拜命し古河、鉾田、東下鹿島の各警察署に奉職し同三十五年巡査部長となり谷田部、水戸、湊の各署に轉任し四十年七月警部となり水戸署に勤務し次で龍ヶ崎、取手署長を歷任し大正三年十月警察部高等警察主任となる。

大正九年拔擢されて行方郡長に任せられ次で筑波郡長に轉じ、至るところ敏腕を揮ひ名聲嘖々たりしが偶々病を得て職を辭するや强えて湊町民に推されて一旦町長となりしも病痾復た立つ能はず、遂に隱退して悠々自適す。

君最も和歌をよくし、徒々に風月を詠じて自ら慰む玉稿尠からずといふ、又風流の士なる哉。





故 **飯塚朝次郎君**

君は新治郡林村の人、嘉永四年正月の出生、壯年大隅侯の組織せる改進黨に入り政黨と終始すること實に四十年、黨務に熱心なるの餘り獄に下ること數回、多くは無罪となれる通算すれば獄中生活實に三十有餘ヶ月に亘る。

明治十八年伊藤内閣の當時友人石岡町森老澤八十吉氏と倶に憲法制定に關して請願書を提出すその副本に參考の爲め留め置きものとの附箋を以て下附せらる今君の家に藏せり。

君は明治廿三年條約改正論の盛んなるの時三千五百九人の賛成を得て内閣に請願書を提出し大隅侯を護衛して刺客の途を要撃さる君は幸ひ無事なりしも侯は遂に隻脚を失ふ、君は此の日を記念し侯の健康長壽を祈願し一に長壽紅白餅を供ふ、侯の遭難日たる毎年十月十八日に至れば即ち長壽餅へ携へて侯に見ゆること滿三十ヶ年一回も缺せしこと無し。侯亦君を愛し明治卅六年京都桃山御陵御參拜の折は行を倶にす、曾てプラチナ懐中時計を贈らる、君プラチナたるを知らず無造作に所持せしが偶々時計商のこれを見てプラチナの優品たるに驚けりといふ。

侯の病篤しと聞き君は病床に侍すること數日侯の永眠するや一百日の墓守を勤めたり。

君は俳諧に巧みにして往年島田三郎、中野武營、波多野傳三郎、大津淳一郎、高田早苗田中正造、尾崎行雄、阿部興人、吉田嘉六、犬養毅、箕浦勝人、武富時敏、矢野文雄等の諸名士と共に全國に遊説して足跡周ねく至らざる所無し。

晩年操觚界に健筆を揮ひたりしが侯逝いて一年君亦逝く、悼哉。

土木請負業

## 飯塚松太郎君

君は筑波郡谷田部町の舊家に生る、出てゝ那珂郡大宮町に住居を構へ商業を營みしが資性剛膽志操堅實にして素より技量滿々たる君は大いに爲すところあらんとして現職を得たり。是れ君が今日の成功を爲すに至れる楷梯にして人を統御するの才に長ずる今後益々發展を見る期して俟つべき也

元郡會議員

## 磯崎勘三君

君は那珂郡平磯町の舊名門明治四年十一月五日を以て生る。資性穎敏聰明にして正義廉直の士なり少壯時代より良く町事に心を傾注し町會議員郡會議員參事會員町長漁業事務組合長等君の手腕に與らざるなし。郡內有志君の人材を惜み數回縣會議員の候補者に推薦せしことあるも君は固く辭退して曰く『自分の名譽を飾らんよりも私は永久に町の遺物として公共に盡し度考慮中である』と君は私利を捨て專心町政の爲めに盡すの人也。實に得難き人格者といふべし。





郡會議員
醫師

## 今瀨長君

君は那珂郡長倉村大字野田の人、明治十三年十二日廿八日を以て生る。舊鄉士格にして士族たり。明治三十三年水戶中學を卒業するや醫師たらんとして仝年千葉醫學專門學校に入學し研鑽空しからず同三十七年十一月仝校を卒ひ續いて仝校附屬病院內科部に勤務して實地の經驗を積み仝三十九年三月辭して鄕里に歸り現住所に開業し地方人の信頼頗る厚し。

君事に當り熱心仝村學校醫として他の模範となり四十五年一月縣知事より表彰さる。其後衆望を荷ふて村會議員郡會議員に擧げられ村治郡政に盡す所尠からず、君年齡尙壯其の活動の天地は今後にあり、鄕黨の爲め國家の爲め切に自重加餐を祈る。

元郡會議員

## 石川藤藏君

君は那珂郡柳河村大字靑柳の人、同地方の名望家にして少壯より能く村治に盡す、明治三年四月靑柳村組頭を申付けられ以來仝六年二月仝村副戸長仝十年九月仝村長、仝十二年九月村會議員、仝十三年二月森林看護、仝十七年七月聯合會議員等に屢々選ばる、仝十八年二月中河內村外七ヶ村戸長役場書記となり仝廿二年四月柳河村會議員選擧掛を命せらる。仝 年月柳河村會第二級議員に當選、仝年 七月收入役に擧げらる。越えて仝二十八年六月助役に選ばる續いて三十四年再選此の間二十七年仝村農商務統計調査委員を囑託さるその村治に當るや精勵恪勤數々勉勵賞與を受く。

君公共事業に盡瘁せること尠からず又敎育の普及に力を致し明治十九年中河內小學校へ旗一流を寄附して安田縣知事より賞狀を受く。その他百般の村治に功績多くは村民の等しく賞贊するところなり。





村長

## 飯野繁太郎君

君は西茨城郡南山内村大字木戸の人明治元年三月廿一日を以て生る。資性温良積善の志深く資金を投じて窮民の救濟公共の福利に力を致し村民の信賴頗る厚く選ばれて區長村會議員村長の要職に就く。

淸酒釀造を以て業とし舊名門の資產家也。常に出入の人多く日に月に家業繁榮し家庭誠に圓滿入りては一家の慈父となり出でゝは一村の束を爲す、有德長者の風丰洵に羨望の至り也。

素封家 稻田善九郎君

君は久慈郡機初村大字機の名門、弘化四年七月廿日を以て生る。資性温良篤實にして仁義を尙び禮儀を重ずるの人格者たり。夙に町村制實施の當時より村治に心を盡し學校新築道路改修等百般の事業に盡瘁せる處尠少ならず、能く公共事業に資金を投するを以て快とし多數村民の輿望に依つて村長村會議員、區長、學務委員、土木委員、衞生組合長等の名譽職に擧げられて功績頗る多し。今や悠々風光霽月を友とし書畫の趣味に浸りて自適す。多幸の人也。

小田部藤一郎君　一色勝之助君

縣會議員 一色勝之助君

君は西茨城郡西那珂村大字大泉の人、眞壁郡大村の清水家に生る、明治十九年七月栃木縣師範學校高等科を卒業し爾來七箇年栃木縣內小學校の訓導たり後出でゝ一色家の養嗣子となり專ら家業に勤しむ。

一色家の鼻祖詳ならず天明年中八郎左衞門と稱する人不幸嗣子無くして絶家し家祿は領主に沒收せらる、天明八戊申歳四月十二日の建碑に八郎左右衞門夫妻の法名並辭世を刻す。曰く『安祥院淨利清觀居士』『榮松院德邦壽性大姉』『ありかたやくとくの池のはちすにて誠の道をおもふぬるかな』、『一心は極樂へはすのうてなに道いそくへし』。後文政年間領主中根壹岐守家御用人道原友之亟年貢取立として當時の地代官名主深谷才助宅へ出役中同人妹滿壽子をして一色家の再興を計らしめ以て今日に至る。君は則ち其三代目の戸主たり。宅地敷六段餘歩の敷地に內御堂と稱する地藏堂及墓地現存す。

君は資性穩健質實謙抑己れを持して常に自ら家庭擁護を以て任すと雖も鄕黨の先進は君の隱忍を許さず明治三十三年同字區長に推薦以來氏子總代に村會議員に或は耕地整理組合長に或は縣會議員に或は產業組合長等幾多の公職に選ばれて公共事業に盡瘁し鄕黨の信望最も厚し。

君素より政黨政派に偏するの意志無きも近時政友會が多數を恃み官憲を左右して橫暴を極め黨利を謀りて民福を思はざるを痛慨し遂に意を決して憲政會に入るといふ以つて君が人格の高潔にして國士の俤を偲ぶに足るべし。

村會議員
## 石井爲之介君

君は久慈郡小里村大字小妻二十四番の舊名門にして明治二年八月十九日を以て生る。資性穎敏頭脳明晰にして頗ぶる溫和の人也。村務に盡しては用意周到事業に當つて總て遺憾無きを期す。身を持する清廉潔白言論の優れ村會に重きを爲す衆敬愛せざる無し。區長學務委員村會議員に選ばるゝこと數回、又久慈郡産馬畜産組合議員同評議員消防組頭の各名譽職に擧げられ將來有爲の人格者にして經驗と共に人物の大を加ふ切に自重加餐を祈りて罷ます。





元村長
## 飯村紀七郎君

君は久慈郡黒澤村大字町月の名門天保九年三月十日を以て生る。資性豪潔にして穎敏義俠の志士たり。一旦志を決するや百難を排して物に當る事として貫徹せざる無し。公共に能く心を盡し區長村會議員村長郡會議員等に選ばるゝこと數回今や老後を風月に養ふて樂觀自適す。

酒造家
## 石井覺一君

君は久慈郡佐原村大字左貫の人、本村に於ける第一流の資産家たる故石井寅之介翁の長子にして大正八年四月水戸中學を卒業し翁の遺業たる酒造業を繼承し專ら實業界に奮勵努力しつゝあり、君未だ年少その手腕は未知數に屬すと前途有望の士として村民の囑望するところ也。

村長

# 飯島力之介君

明治三年七月十二日東茨城郡小松村大字上入野に生る父は廣直母は中妻村大足谷津氏より來る君は其長男なり幼にして學を好み谷津氏の門に入り八歳の時父を失ふ明治十二年十一月栗原勇に就き和漢數學を學ぶ廿一年二月水戸輔仁學舍に研鑽す郡鄕志考神社名鑑雜誌の編著あり廿四年五月下妻小學校雇教員となり廿六年八月辭任す爾後酒造業を營む卅年八月區長卅三年十一月小學校建築委員卅四年四月村會議員となる四十五年二月關西地方農事視察を命ぜらる小松戊申青年會農業組合に盡瘁し大正三年三月村長となり農會長を兼ぬ亦赤十字社特別社員にして地方公共事業及産業の發達に盡せり君は松里と號じ或は松城と云ふ農蠶業に熱心にして家産從々富めり役場の位置變更には反對なりと雖も之を排して決行新築し其他校舍建築をなし隔離病舍新築をなせる等成績少くなからず。



辯護士 前代議士

# 石橋茂君

行方郡要村大字高岡の人、明治十五年五月の出生。名門家前村長石橋茂作君の長男也。幼より穎悟慧敏、夙に神童秀才の名を擅にす。明治三十五年水戸中學を卒ゆるや直ちに笈を負ふて上京し第一高等學校に入り研鑽大いに努む、卅九年卒業し次で東京帝國大學法科大學獨逸法科に學び四十三年優等の成績を收めて卒業し法學士となる仝年四月貴族院委員課に奉職し立教大學の講師を勤め法學通論を講ず四十五年一年一日水戸市に辯護士事務所を置く。其後臺灣に移り諸大會社の顧問辯護士たり。

君曩に選ばれて代議士となる。年齡尚壯、其前途や洵に洋々たり。

市會議員

# 石川清太郎君

君は明治十三年六月一日の出生、水戸市上市向井町片町に旅館兼温泉業を營む、性温和にして德望家なり、大正十年五月市會議員改選に際しては大多數より選ばれて當選す。

君は頗る建築に趣味を有し市營住宅の計畫なるや委員に選ばれて大いに努力す。市營住宅の好果を博せる亦君の効に俟つもの多し。

君は第八消防部長として消防事務に從事し功勞尠からず、夫人亦君に劣らざる働き手にて君が市政に公共の爲めに時々活動して内を顧みる暇なき時もよく家業を指揮し、優しき美貌に愛嬌湛えて以て客を迎ふ、此の人として此の夫人あり日々月々家業の盛んなる故なきにあらず。

村會議員 石崎菊次君

君は那珂郡野口村大字野口の人、安政五年十一月十日仝郡八里村大字小舟に生る。同地方の豪農にして名望家たり。君が公共の爲めに盡瘁せるもの枚擧に遑あらず、明治二十年地租調査による地主惣代同二十三年地價輕減に依る地主總代となる。同年十月野口區會議員、同二十五年四月村會議員、同三十一年同再選、同三十四年九月野口村役場書記、翌四十五年四月收入役越えて大正三年十二月二十八日助役に推薦されて村政を處理し同七年十二月滿期退職す此間明治三十年四月野口村消防小頭、同四十二年七月消防組頭に選ばる。

更に產業方面に於いては明治三十五年一月より大正七年一月迄煙草耕作總代をなし同三十七年三月以來三度村農會副會長を經て同四十四年五月農會長同年三月郡農會議員三回、同四十三年十一月野口村地主會副會長、同四十四年十月同會長、同四十三年一月煙草耕作組合長五回、地方專賣局の指名にて大正五年八月長倉煙草耕作聯合組合副組合長、同九月野口信購販賣組合理事組合長に任し、大正十年四月廿九日には野口村二級議員として多數に選ばれて當選し既に其職にあり。

君又公職にある間數度表彰を受く、明治卅七年村學校建築費及び學校基本財產へ寄附して縣知事より木杯一個宛、同三十七八年役の功にて賞勳局より銀杯一個、同四十一年水戶專賣支局長より木杯銀杯等を賜らる、又大正二年三月には農事功勞者として縣知事より又同七年三月には自治功勞者として郡長より表彰さる、洵に家門の譽れ鄕黨の誇り也。





元縣會議員 犬塚瀧次郎君

君は結城郡飯沼村の人、名門犬塚家に生る資性正義活發にして辯論卓拔、一度大多數を以て縣會議員に擧げらるゝや議政誌上稀れに見るの雄辯家として知らる、今や其職を退いて帝都に遊び風月と共に樂めりといふ。

村長 今喜多美喜造君

君は眞壁郡雨引村の名門の出にして資性穩和順良なる德望家なり。事を處する頗る敏腕、人に接する極めて謙讓、未だ馴れざる人に向つては良く指導し恰も愛子の手を引くが如し。故によく衆望を荷ひ村長としての敬意を拂はる。實に地方得難き人物なり。

郡會議長

## 飯田幸之助君

君は眞壁郡黒子村大字木戸の人、文久三年十二月十三日を以て同郡西川村の名家柴家に生る。明治廿二年出でゝ飯田氏を嗣す。飯田氏の先は小田氏の一族にして與國年中小田氏の將として砦を犬塚山（今の木戸の西北の地にして現住の宅地是也）に築き是に據つて關城を援く、事平いて後世々玆に居を構え慶長年中下妻城主多賀谷氏諸豪族を招致するや飯田高貞亦之に應じ軍事外交に鞅掌す。降つて元治甲子には藤田信等と兵を筑波山に擧げたる飯田利貞を出せる名門也。

君は人物手腕兼備へたる徳望家にして明治三十三年村會議員に當選してより或は黒子外二ヶ村耕地整理組合長或は郡會議員等の公職に就きて孰れも重任し、今に至るまで四度郡會議長に當選せる如きその信望厚きを想ふべき也。





町會議員

## 石橋艮太郎君

君は行方郡潮來町の人、資性溫順なれど多くの優秀なる技量を有す。大正九年町會議員に擧げられ公共の事業の努力し就中產業の發達に寢食を忘れ奔走し効績尠なからず

君は又頗ぶる義俠みに富心常に弱きを助け暴者を屈せしめずんば罷まざるの氣慨あり。爲めに衆皆君を推輓し賞揚せざるなく洵に一町の代議員として深く崇敬すべき人格者也。

村會議員

## 石引與一郎君

君は稻敷郡君原の人、資性温良實直人として懇切なり。代々豪農の名家にして衆望厚く村民擧つて區長、土木委員、衛生委員、村會議員等に選擧す、公共の事業の如き君の力に俟つもの多く君亦公共の事として言へば時を惜まず奔走し金品を投ずるに吝ならず。而かも公私に拘らず人義の道を尊重して苟もせず、洵に資産人格兼備りたる君の如きは地方稀なる人物と言ふべき也。





前郡會議員

## 飯田林平君

君は新治郡小幡村の名門に生れ資性温良にして恭謙、同地切つての資産家なり、村治二盡瘁し多年區長、村會議員村長の要職に就く公共事業に盡すところ尠少ならず。

大正九年九月三十日執行されたる郡會議員選擧には大多數を以て當選す、次で數回縣會議員候補者に選ばれたるも君は足を病んで身常に不自由を感せる爲に辭退して出でず、君の資産君の人望を以て一度縣政郡治に爲すあらんか必すや見るべき事業を爲すべきに可惜人材をして隱れしむ、郷党の爲め縣民の爲め遺憾の事なり。

郡會議員　元要村長

## 石橋茂作君

君は行方郡要村南岡の人、萬延元年十一月十二月を以て生る。明治十九年三月行方郡山田村外六ヶ村聯合會議員に當選せるを始め同二十二年三月要村村會議員同三十一年四月要村收入役、同三十三年三月同村助役次で同三十八年三月には村長に選擧されて二期八ヶ年を努め村政の効勞尠からず、同四十五年六月には消防組頭に推され引續き現職にあり、大正二年三月學務委員に選ばれ、同五年十一月日本赤十字社分區委員に囑託され大正九年九月には選ばれて郡會議員となる、村長在職中日露役の功に依り勳八等白色桐葉章を下賜さる。

郡會議員
村長

## 飯野勇治君

君は稲敷郡朝日村大字吉原の人、嘉永三年正月を以て生る頭腦明晰にして村治に通じ公共事業には精神的に物質的に盡せるところ尠からず、村民の信望亦頗る厚くして明治二十二年四月村會議員に當選して以來、同二十八年四月再選、同年六日收入役に就職、同二十九年四月には助役となり、同三十四年三度村會議員となり、越えて同三十六年七月には遂に村長に當選するに至る、同四十年十月稲敷郡會議員、同四十四年十月再選、大正元年十一月には再び村長に擧げられ、同六年八月學務委員、同十年六月龍ヶ崎税務署管内所得税調査委員に當選す次いで君が公務に如何に盡力せるかを證するに餘りありといふべし





町長

## 磯崎爲吉君

君は行方郡潮來町の人、同町の名門也。資性高潔溫讓にして敏腕家の聲望高し。長く町長の職にあるは町民の信望厚き證差たり。敎育の普及道路の改善、勸業の振策に當つては親しく町民と協力して地方百年の大慶を企圖するの士にして地方稀れに見るの人物なり、故に常に衆民の崇拜するところとなる。益々町發展の爲君の健在を祈りて罷ざるなり。

土木請負業

# 石川吉太郎君

君は水戸市下市大宮町に住す。明治九年五月を以て那珂郡大宮町の舊家に生る。土木請負を業とす。資性穎敏にして又俠客を以て任す。暴者を戒め弱者を助くる大正の幡随院長兵衛たり。業に從ひては頗る大膽にして大資金を支出して業務を擴張する如き到底他の同業者の企て及ばざるものあり

君は常に義俠心を懷いて博愛勸善に志深く今や縣下に於ける同業者間の信望頗る厚く百般の事に當りてその局を結ばざるなし。君一度起つや必ず貫徹せずんば止まず。徹頭徹尾是れ誠、是れ膽、往昔の俠客の風格を思ふべし。擧世滔々として腐敗墮落せるの今日君の如き俠者を見出せるは洵に曉天の星ともいふべく將來大成の器なること期して俟つべし。

前縣會議員

# 岩上孝太郎君

君は那珂郡瓜連村大字小徳の人、明治五年十一月廿六日を以て豪家岩上家に生る。祖先は大職官藤原鎌足公の末裔小山城主從四位小山小四郎の孫、累代横目庄屋を仰付らる實父魁介翁戸長學務委員官林監守聯合村會議員等の公職にあり七十六の高齡を以つて逝く。

君は鄕里の小學校を卒るや水戸に出でゝ手塚縣進先生の門に入り漢學を學び澤畑先生に就いて武道を修め免許皆傳を受く。次で明治大學に法政學を研修し大いに會得する處あり明治三十八年七日同郡戸多村の有給村長に選ばる。戸多村は全國三難治村の一と稱せらるゝ亂麻の如き村政を滿四年に亘り良く整理して感謝狀に記念品を添えて贈らる。後東茨城郡白河村の村政紊亂するや同郡長より有給村長に選任され後名譽村長となり村整理を完成して退職し記念品感謝狀を受く。

村郡公職としては村農會長青年會長煙草耕作組合長郡教育會幹事村會議員地主會長神職督務分所協賛員軍友會顧問株式會社昌榮貯蓄銀行重役水戸支店長太陽商事會社水戸支店長縣會議員縣參事會員赤十字特別會員武德會員海事協會特別會員其他頗る多し君憲政會の組織さるゝや起りて入党し發會式には地方代議員水戸支部幹事として列序し又宮內省より御賜饌を賜ること三回勳八等旭日章を賜る。

君醬油釀造業を營み曾て師團の御用に應じ輸出す。又瓜連驛前に運送部倉庫部を設け地方金融の途を圖る、瓜連驛今日の隆盛を爲せるは君の力に依らずんば非ず。君私財百萬を超ゆ、博覽會名譽幹事全國地方幹事に推薦され地方長官共に盡し縣郡村より木盃金銀牌を受けたること枚擧に遑なしと云ふ。

町會議員
# 伊藤禮司君

君は行方郡潮來町の人、資性穎敏頭腦明快にして志操情廉平素良く公共に盡し町發展に心を傾注し私費を投じて至誠一貫犧牲的に盡瘁す。

君は公務上に於て畫策するや理ありせば飽迄これが貫徹を圖つて止まず、町中有爲の人格者たり、故に町會議員として大多數の推すところとなる、町會議員の重鎮として將來君に俟つべきもの多なるべし。





前郡會議員
# 石井禮三君

君は久慈郡上小川村大字頃藤の人明治四年八月六日甲子の日の午前六時に生ると云ふ。同村の名家にして祖父は水戸藩の當時組頭として小金井のを勤の後村役人となり八十九歳の長壽を保ちしが嚴父は夭折したり。

庭内には佐竹家の族小川大和守の家臣石井修理大夫家の守護神たる三島神社の社殿あり邊り森林にして樫一丈餘廻り杉八九尺廻り其他の雜木にて幽邃の境地なり。

君は半農半商を營みて信望あり。衆に推されて郡會議員、上小川村助役、農會長、消防組頭等の名譽職に就き同地方の一大勢力家なり。

大子病院長

# 石井榮次郎君

君は多賀郡高岡村大字上君田の名門宇野家に生る。明治卄年帝都に遊學し後帝大醫學部に學び優秀の成績を以て卒業し歸郷するや懇望されて大子町石井家を嗣ぐ事となり大子病院を組織し廣大なる建築を爲して君はその院長たり。

爾來奮闘努力し以て今日の成功を見る非凡なる君の手腕に據れるは言を俟たざる也。

君一面公共事業に盡し諸團體九資金を投じてその活動を援く。人皆君が篤行義俠を稱揚せざるなし。





素封家

# 石井八之介君

君は久慈郡佐原村大字佐貫の人萬延元年七月二十四日を以て生る。本村第一流の德望家にして寡言沈默溫厚篤實の人なり。

君衆望の推すところとなり村會議員、助役、郡會議員、產馬組合評議員等に當選し現に久慈郡畜產組合副組長たり。

君夙に畜產の奬勵と森林の增殖に力を致し公共の爲めには私財を投じて吝ならず曾て部落の小作農に對し牝馬卄頭を購入して貸付し馬匹の繁殖を圖り且つ厩肥を產出せしめて金肥の節約を實行せしめ農作物の多穫を圖り仔馬產して遂に其の母馬を飼養者に無償交付して小農の救恤に努む、斯くて部落内の貧民にして家政恢復せしもの其幾許なるを知らず。是より久慈郡馬產組合事務所新設或は馬糶市場新設等に當りては土地を提供して之れが便益を圖り組合の創立以來殆んど三十年内外の事務に當りその整理に當りては數百金の私を投じて完成し、更に左貫より植野地に通する里道の内約二十町の改修を行ふに際し卒先して私財約千圓を寄附し部落關係人民を督勵し之れが竣功を爲し以て交通の便を圖れり。

其他公私公益の爲とあれば一身を忘れて盡瘁しつゝあるは當代稀れに見るの篤行家と言ふべし。

大正七年四郡君が產馬業に貢献せる功勞に酬ゆる爲め組合員一同相謀り銀杯一組を贈呈するに至る。以つて如何に君が畜產に勍績多きかを偲ぶに足るべし。

前郡會議員
## 石井敬之介君

君は多賀郡黒前村大字高原の名門に生る。嚴父新助君は夙に村の改善に努力されたり。

殊に百年の大計を樹てゝ植林事業を奬勵し又衆望を荷ふて區長、村會議員等の名譽職を長く勤む。

君亦其後を嗣ぎ公共に奔走す。曩に郡會議員として村治及び郡治に對し大に盡瘁して倦まず、將來有爲の人物として期待さる。





前郡會議員
## 石川博君

君は久慈郡山田村大字松平千四百五十四番の人明治三年一月九日を以て門閥家たる石川家に生る。資性穎敏強骨にして言論卓絕の人也。君は能く公共事業に奔走努力し公益に關しては私費を投じて惜まず、就中產業方面にては地方煙草の改良指導の先覺として技術優秀の聞えあり。衆望の歸すところ村會議員郡會議員郡參事會員等に擧げられ村治に効績尠からざる名望家たり。

元縣會議員

## 稻田信左衛門君

君は久慈郡機初村大字機の名門家にして萬延元年三月四日を以て生る。資性穎敏頭腦明快にして諸事に心を通じ村會議員にあつては村治に精しく縣會議員にあつては全縣に通す。或は敎育の普及發達或は勸業の獎勵發展に奔走し縣會議員在職中は道路の改繕港灣の修築に努力せり。土木委員に擧げられ縣下の視察として出張せる當時は少壯議員として同志間の重鎭たり。今や久慈銀行頭取として太田町に出張し日曜の休暇には圍碁將棋を樂しみて悠々たり。





前郡會議員

## 石井　淸君

君は久慈郡小里村大字小妻の名門家たる石井家の人として明治九年十月一日を以て生る。後出でゝ同郡生瀨村石井家を嗣ぐ。資性溫順聰明にして算筆に秀で能く公共に盡瘁す。區長村會議員郡會議員の要職を勤めて郡村會議に於ける雄辯家として重きを爲す。常に地方發展に力を注ぎ現に久慈電氣會社を起してその重役たり。

## 石崎蕃藏君

君は新治郡高濱町東大橋の舊門閥家にして明治元年四月二十日を以て生る。資性温良にして穎敏事に當りて不屈也。君の家は代々村長を勤め嚴父又兵衛の如き良く村治に盡し公共の事業に力を傾注し村治の發展に盡瘁せしもの擧げて數ふべからず、故に村民の徳望厚く戸長學務員其他の名譽の要職を勤めたり。君又その後を嗣いで公共に盡すところ尠からず。曩に改進黨本部にあり同黨代議士政務調査會に參加して書記を擔任せり。其後土浦町に居を構へて現住し、父の意を繼いで公共に奔走し孝子の道を守る、洵に敬すべし。

荒物老舗

## 石塚七郎兵衛君

君は新治郡土浦の人、資性温順人に接するに應對極めて親和にして洵に商賈の典型なり。屋號を笹屋と號し諸荒物疊表蚊帳類紙類を手廣く販賣して信用厚き同町唯一の老舗たり。君の親戚は孰れも縣下に於ける豪商にして石岡町高野家、水戸上市馬口勞町中田家、太田町猿田家の如き各商店の衆望厚きは人の知るところにして全く名譽の事なり。同店の標語は商品嚴格薄利多賣の趣旨を徹底するにあり君の代となりて一層勉强家の聲望を高め日に月に隆盛を來しつゝあるは實に業望の限りといふべし。





前村長

## 井坂熊三君

君は久慈郡小里村大字小中の舊名門明治六年九月十一日を以て生る。代々酒造業を營み地方の豪家として譽れあり。君資性温厚篤實蓄財家としての敏腕を有し今や巨萬の富を積む。併しながら一面義侠の志深く公私共に救濟の資を惜まず能く資本を惠與して公衆の尊敬を招く。君學務委員、村會議員、村長等の公職にあり熱心村治に盡せしが辭して悠々自適す。君は將碁の名人にして地方に於ては及ぶ者無く優に三段として敬意を拂はれつゝあり。

# 石川市郎君

君は西茨城郡笠間の人、明治十三年十二月十一日を以て水戸市上市鷹匠町の寓に生る。遠祖は源家の嫡流にして父重房君は元本縣中學敎諭を勤めて高名の人なり。君は其長男にして水戸中學卒業後東京成城學校に移り三十四年卒業の後一年志願兵として軍隊生活に入る。除隊後私立青年學社に敎鞭を執り居る内日露の役起り第七師團に從ひて出征し旅順攻圍戰に參加し三十七年十二月二〇三高地攻擊の激戰に奮闘して負傷し廢疾となる除隊後專ら實業に熱心し寡言實踐默居熟考大いに將來に備ふところあり有爲の士として期待さる。

明治運送支店長

# 岩上仙藏君

君は那珂郡瓜連村大字小徳の人、明治十一年十二月五日を以て生る、同二十一年九月水戸尋常小學校卒業後二十六年四月那珂郡芳野村梅津馨氏に就き漢學を修業し同郡木崎村勝山先生の門に入り爲我流柔術を究め二十九年免許を得て各縣の警察署監獄署に招がれ敎授となる。其後同郡菅谷驛前に於いて明治運送株式會社支店長たり。君座談に巧みにして一度交際すれば快活の應待對者をして忘るゝ能はざらしむ洵に惆發の人といふべきなり。





村會議員

# 稻野正義興君

君は西茨城郡西山内村大字稻田の素封家にて夙に村治に盡し公共心に富み道路橋梁の修繕特に水戸に聯隊の設けありて以來宇都宮兵營の往復頻繁なるに當り氏の村は宇都宮水戸の中心に縣道たるを以て青年を鼓舞し便宜を謀り又同村學校位置に就て東部は稻田を主張し西部は福原を是とし甲論乙駁殆んど吳越の感を爲すこと數年なり君慨然として曰く『稻田に一ケ所福原に一校を兩立す可し敷地は最寄にて寄附す可し』と唱道し主として自から畑數段歩を寄附す兩字の論難初めて止み尋常高等小學校を福原稻田に兩立するに至る大正六年推されて村會議員となる君の論壇に歸するや豈に黨派心を以て爲す可からずとして村治を以て本能とす爲めに撰れて稻田尋常高等小學校の學務委員たり學事の進歩大に見る可き物抑も又君の力與りて大と云ふ可し、村民悅服する處となり再び村會議員となる、嗚呼君の如きは立憲治下の民と云ふ可し。

前郡會議員
## 井上村司君

君は久慈郡高倉村大字下高倉の舊名門明治十六年十二月五日を以て生る。嚴父貞助君は當郡唯一の敏腕家として紙、煙草、蒟蒻の大賣捌所謂地の問屋と稱す東京、關西地方に輸出し天下に名を知られたる豪商なり。

君其後を嗣ぎ學を修めて能く公共に盡し學務委員、村會議員、郡會議員、郡參事會員の公共職を勤め又銀行電氣會社の重役を兼ねたり。

君よく名を成し家名を高むるは是れ孝子たりと鄕黨の稱賛するところなり。





元町長
## 飯田榮三郎君

君は西茨城郡笠間町大字石井の人志操廉潔の性格にして能く世事に通ず衆望の期すところ出でゝ町長の職に就くや町務の爲めに一世の力を傾注し敎育の普及、道路の改繕、勸業の發達一として君の力によらざるものなし今や職を辭して風月を友にし悠々自適す。

## 石井雅一君

君は西茨城郡笠間町の門閥石井家に生る、君の嚴父石井雅太郎君は資性穎敏の人にして少壯時代より能く公共の事業に奔走し町務委員、社寺總代衞生組合長、町會議員、郡會議員、郡會土木委員等の名譽職に擧られし事數回に及ぶ。君亦その後を嗣ぎ温和にして而も敏腕家の聞高く將來有爲の人格者として町民の等しく期待するところたり。

煙草耕作組合長

# 石塚新左衛門君

君は西茨城郡南山内村大字本戸の人、明治七年三月十日を以て栃木縣芳賀郡田野村大字山本の名門に生る、出でゝ石塚家を嗣ぐ。資性溫直にして頗る敏交際家をして衆望厚し。君常に溫顏に笑を含み俗に云ふ大黒様に髣髴たり。人に接して好感を與ひ表面頗る緩和なれど内心鞏固の人なり。農事に熱心にして煙草耕作組合長並に農會評議員に擧げられ崇敬され居る人格者也。

町長

## 磯崎茂三郎君

君は那珂郡平磯町の名門慶應三年八月二十五日を以て生る。資性頗る溫良誠直の人也。公共の事業町の發展に當つては寢食を忘れて盡瘁し効績尠からず爲に町民の曾敬措かず町長に選ばるゝこと今期既に三回に及び現職にあり。君の公職を以て人に接する誠に溫和にして高潔當世稀れなる人格者として鄕党の誇りとするところなり。

村長

## 石川秀藏君

君は那珂郡長倉村大字長倉の人、呉服荒物を營む村民の信望厚く前に同村助役に選ばれ敏腕揮つて村政に當り衆の認むるところとなり遂に全會一致村長に擧げらる。

當地は茨城栃木兩縣の境にして茂木町に至れば汽車の便あり本縣に於ても目下鐵道敷設の計畫あり、君此の間に處してこれが實現を期して大いに奔走す。必ずや近き將來に於いて交通機關完成し君が効の酬えらるゝ時來らん。





# 石毛亘君

君は水戸市上市上金町の人、目下縁兄に當る南町の豪商小林久吉氏家にて専ら業務に勉勵し誠心誠意以て一貫す。將來大いに商人として發展すべき有爲の人物たり。

石毛良君　同令閨

東茨城郡小松村

素封家

## 飯村七次郎君

西茨城郡大池田村大字大橋の名門菅井勘七の三男に生れ明治廿八年東茨城郡小松村大字増井飯村保衛門の智養子となり其家を嗣ぐ君の實兄那珂郡壇田村大字壇子故大貫一氏は縣議として令名ありたり君人となり著實農業を勵み子女の敎育に力を盡せり曾て區長代理者消防組副組長氏子總代たり君が兄弟は何れも憲政會に屬し君も終始一貫憲政會と行動を共にし茨城支部の評議員たり。

老舗

## 伊村吉之助君

君は久慈郡太田町東の中の人、文久二年十二月廿七日を以て生る。和洋小間物の豪商として知られたる老舗也。編者とは明治廿五六年頃の知友にして良く語り良く歌ふたる事もあり回顧すれば早三十年の昔語り君素より商人として敏腕なる技倆を有し今日の成功を致すその公共に奔走する處至誠あり人皆賞賛して措かず。君老ひて益々旺ん尙一層の隆昌を期して飽迄奮鬪せんことを希望して止まざる也。

郵便局長 **今川淺吉君**

君は多賀郡松原町大字高萩の人、元治元年五月二月を以て同町大字島名の舊名門小峯家に生る。後出てゝ今川家を嗣ぐ。

君明治三十七八年の戰役に從軍し殊功を樹て凱旋して陸軍步兵中尉從七位勳六等功五級に叙せらる。高萩郵便局長、多賀銀行支配人、三十五年五月高萩運送株式會社々長、同六月日本運送株式會社取締役三十六年所得稅調查委員、町會議員、營業稅調查委員其他の名譽職に擧げられ公共事業に貢献すること尠からず。

助役 **稻田謙藏君**

君は久慈郡機初村大字機の名門慶應三年五月十九日を以て生る。資性極めて溫良敏腕にして快活能く公共の爲に盡す處あり、村民の信賴頗る厚くして村會議員次で助役に擧げらるゝ事數回事務に經驗を有し以て百般の繁務を處理す、又良く村民を指導し期日を誤まらざらん爲め注意を拂ふこと細心にして爲めに村民尊敬の的となる今や、本村には無くてならぬ人物となりたり。

五十銀行頭取
町會議員 **一色範叙君**

君は安政二年十一月三日を以て新治郡土浦町舊城內藩士一色家に生る同町に於ける門閥家也。幼にして穎悟頭腦明断算文筆に秀で德望家の聲高し縣下第一と稱する土浦五十銀行に頭取たり、町民の信賴頗る厚く町會議員に擧げられ且つ公共事業に資金を投せしこと數ふべからず、赤十字社特別社員に列し又御大典記念章を拜受せり。

夫人つる子との間に男範宏、沖三郎小四郎、五郎達夫あり、中にも五郎君は少壯彫刻家として中央に知らる、長女千代子の君は岐阜縣士族にして水戶典獄奧田畯氏に嫁ぎ、各家庭とも圓滿なること人の羨むところなり。

村會議員 **石井與市郞君**

君は久慈郡小里村大字小妻の人、明治十六年八月四日を以て名門石井家に生る。資性極めて溫和にして行廉の士なり。他に接するに極めて叮嚀決して豪家の主人たるを誇らず、位ありて靜かなり。故に地方人の信賴厚く區長村會議員に數々擧げられ名望愈高し。君が名望と家名の聲譽の益々增進されんことを希望して罷まず。





所得稅調查員 **一木安介君**

明治八年東茨城縣石塚町那珂西に生る、家は農の傍ら酒造業を營む、往年收稅官吏が往々跋扈し亂暴にも營業者を輕蔑土芥視せり、爰に憤慨して年少氣鋭の君は大藏省文官試驗を受け登第して稅務官吏となり此弊を除かんとせり、北海道、福島、宮城、東京府、栃木山形本縣等に轉任し母病むに當り官を辭して孝養し家業を扶け產業組合を起し農業倉庫を建設し成績顯著なり、郡農會議員、町會議員、所得稅調查委員、營業稅調查委員たり、思想堅實政黨政派に偏せず至誠以て國家及社會に貢献するの覺悟を存す。

前村會議員 **石川吉太郞君**

君は久慈郡中里村大字岡上の人、性質溫良秀和にして又義俠心に富む。良く村治に盡瘁して懇切なり故に衆の信賴する處となり區長村會議員等に擧げられ名望高し。

君は又日露戰役に出征し帝國の爲め一命を捧げて奮闘す。一貫して誠心誠意の人なり。將來益々村民の爲健在たらんことを祈る。

村會議員
故 **石川瀧之介君**

君は久慈郡山田村大字岡安の人、萬延元年十一月十日を以て德望家たる石川家に生る。資性溫良勤勉蓄財家にして巨萬の富を積む一面又公共事業に對しては資を散するに吝ならず。故に村民の信望厚く區長學務委員消防部長等を勤め功績尠なからず。家庭亦圓滿にして常に春風堂に滿ち一門益々榮えつゝありしが天此の人に餘命を藉さず今や亡し。悲哉

助役
故 **磯崎作造君**

君は那珂郡平磯町の君門、明治十三年一月二日を以て生る。資性溫良頭腦明断にして幼時より算筆文案衆に優れ町吏となりて長期間同町役場に在勤中町民多數の推すところとなり大正五年助役に擧げられ引續き勤務中俄然病に殪る。一門の悲嘆のみならず町治の爲誠に惜しむべき人物なりき。噫。

法學士
銀行頭取 稲田策君

君は久慈郡太田町東一の名門、明治十九年九月二十七日を以て生る。君不幸にして早く父を失ふ實に同情に堪へず。然れども君性豪毅にして學を好み帝都に遊學し後帝大に入り法科を卒業す是れ君が力行の賚なり。君の嚴父稲田謙吉氏は恰も明治廿八年日清戰爭の後純調事件當時の縣會議員にして民黨議員の一人言論卓絶優秀以つて反對黨を壓し同志中の重鎭なりき。君其後を嗣ぐ人也社界の爲一應夜を拂袂ふて起たざる哉。

老舗 石川利兵衛君

君は久慈郡太田東一にて有名なる荒物小間物商の老舗なり。明治元年二月二日を以て生る。君は商人に似げなき學識に富み人格者として衆より崇敬さる。編者君とは一世の苦樂を共にしたる信友なり、能く言論する事あり又良く解決す。家庭頗る圓滿にして五男五女を擧げ皆孝たり。君公共事業に奔走盡瘁すること多年今や隱居といふに非らざるも閑々悠々として好める俳諧を友としその名遠近に知れる。

村長 石井關太郎君

君は久慈郡中里村大字下深萩の人、幼より穎悟聰敏にして勤勉の譽れあり村會議員助役に數回擧げられて事務に精通し遂に村長に擧げられ其名近郷に響く。

君よく教育の普及道路の改繕勸業の發達に至る迄率先盡力し村氏の意をよく叙ぶ。名村長として洵に郷黨の誇り也。





實業家 伊藤直彦君

君は千葉縣の產にして資性温良穎悟敏捷にして實直幼より學を好み研究後東都に出て行政部司法部に奉職せし事あり其後實業に志し本縣多賀郡華川村に炭礦會社を起し今や同地方に於ける炭礦業隆んなるは君の大に與りて力ありとす。衆人の敬ふ處尠しとせず。

區會議員 石川浪之助君

君は那珂郡柳河村大字青柳の舊家にして明治二年四月三日を以て生る。性質活發にして義俠心に富み弱きを助け暴徒挫く俠客者たり。常には農事蠶業に熱心なれども公共事業に當りては義兄弟ともいふべき同姓石川藤藏君と親しく相謀り協力一致して力を注ぎ盡瘁す。故に字中好評を以て迎ひらるゝ誠意の士たり。

東茨城郡石塚町
助役 一木一君

明治十二年九月十一日大字那珂西の素封家故一木東之允君の長男に生る、性質樸にて勤儉難に農會副會長となり亦名望の歸する處となり助役となり國勢調查員となり村長を輔佐のし功績大なり父東之允は溫厚にて嘗て村長として令名なり君の令閨は山根村長大高鷹介の息女なり。

元村長
## 稻田卓君

久慈郡機初村の人權門家に生る。資性溫良高邁賢哲にして正義の士幼時より學を好み研究の後家事に精勵し酒造業を營み縣下唯一の酒造業者たり又公共事業に盡し村事にも心を傾注し現職中教育普及に力を致し今の校舎浩大なる事縣下にも魁なし是等君の手腕と盡力によるものなり崇拜し居る者多し。國事に關し基金を支出する事數ふに遑あらず正に地方富豪家たる責任を全ふし權門家として衆の敬ふ處隆々たりと云ふ。





東茨城郡西鄕村
分會長
## 出澤勢太郎君

大字上古内の人明治二十一年三月廿七日生る、當家は元祿年間祖雲軒時代より祖父松柏に至る八代に亘り醫師たり三代壽貞其子壽軒孫玄壽は其名遠近に聞え水戸領外茂木町烏山方面まで患家より迎へらる、文化三年廳上下苗字帶刀御免となる留瘲症藥小兒益藥の二方家傳の銘藥なり、父卯之吉氏より農業に從事す君は農事に丹精にて專賣局葉煙草耕作指導委員たり亦帝國在鄕軍人會西鄕村分會長にして有材を以て世に知らる。

東茨城郡西鄕村
故
## 出澤幸太郎君

大字上古内の名門なり輿望の歸する處となり區長代理者區長學務委員氏子總代村會議員等の要職に就き盡力少なから村の有力者として重きを置かれたりしが大正十一年沒す享年六十一歳長男龍太郎明治十六月十一月卅日生る小學校教員として克く職務に勵精し父兄に信用ありしが職を辭して農業に從事せり。

前郡會議員

# 市村八十壽君

君は那珂郡勝田の人、名門市村家に生る。幼にして卓偉穎敏學研究の後專ら家事に精勵し農事改良に心を傾注し村民信頼厚く大多數の推す處により區長土木衛生勸業等の委員となり其他村會議員郡會議員に選ばれ村治郡內に於ける其功績沒すべからざるもの多し。

前郡會議員として議席に於て大に辯論卓絕にして良く公共の事業には奔走する處有りと雖も郡制廢止するに當り自然退職の止むなきに至りしは最も惜しむべき人物と云ふべし。

君は勝田村の名望家たるを以て度々村長に推薦さると雖も深く辭退して請けず益々人格者と讃するものなり、現代式は自分名擧を誇りとする者世を擧て多ふしとする今日全く能ある鷹は爪を隱す兮假にして實に得難人物と賞讃す。





市會議員

# 一色善三郎君

君は新治郡石岡町の名門明治二十年十二月を以て生る。資性溫良にして勤勉努力家なり。年齡僅かに十九の時水戶に來りて代々家業とせる酒舖を營み專ら先代經業の隆昌を圖ること玆に年あり、至誠一貫獨力今日の一色家を成す。君の非凡なる手腕の致すところなり、今や少壯議員として市會に活動し精力家の聲髙し。

郵便局長

# 石井宗三郎君

君は久慈郡久米村大字久米の人、資性溫良にして高潔なる勤勉家也。常に蓄財の志深く家に巨萬の富を積む。又能く公共の事に心を傾注して當地に交通機關を開くや君進んで局長となり大いに地方開發に盡瘁し村勢の發達に努力せり。又賢弟石井三郎君衆議院議員中の少壯家にして將來頗る有爲の士を以て目せらる。

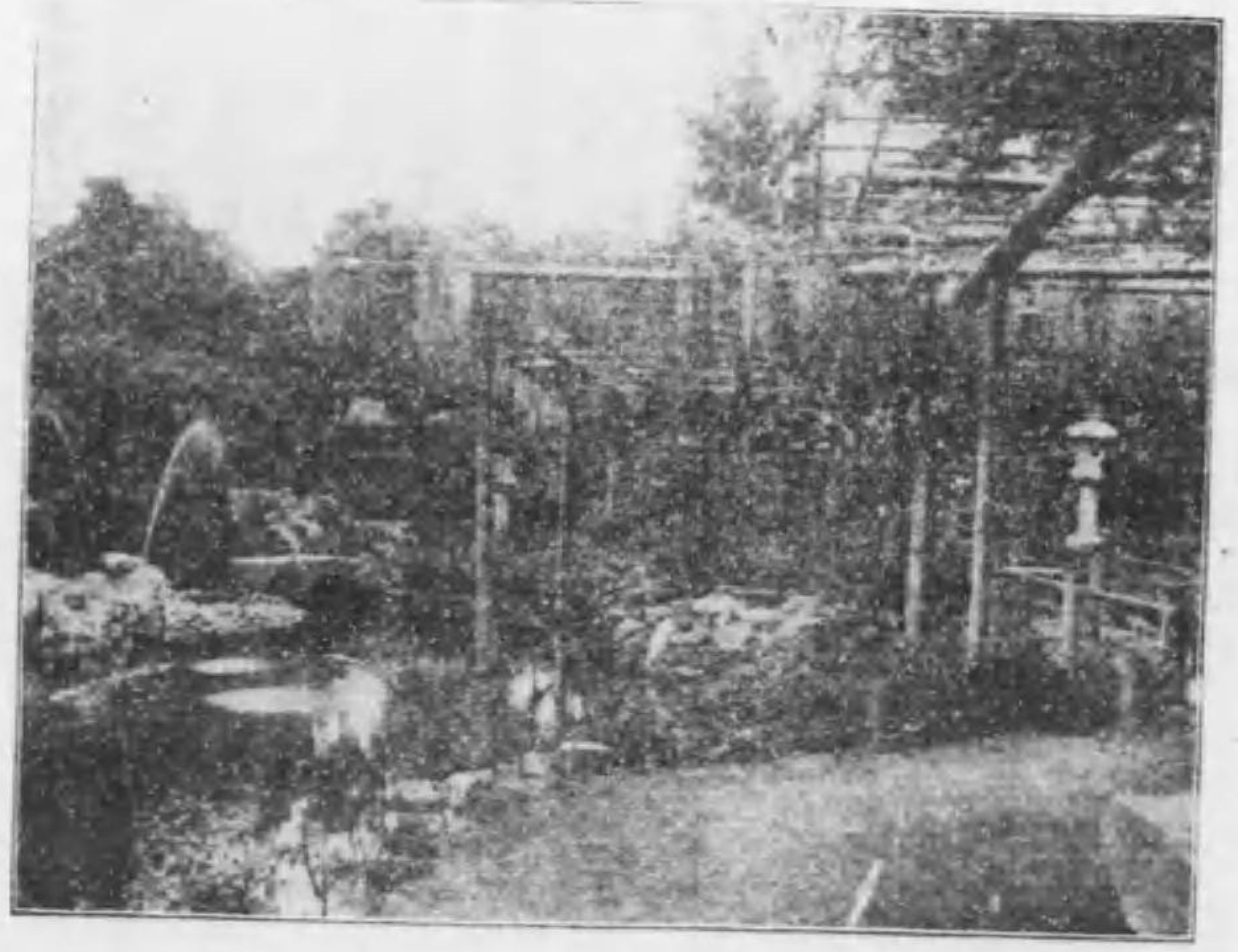
金物商

# 石藤太君

君は多賀郡北中鄉村磯原の人、實家は松原町高萩の舊家にして大爐戶と稱する大鍛冶屋に二男なり。家兄善吉君は中年失明したれども穎悟聰明にして商法には鋭き眼力を有し巨萬の富を積む。君は又敏腕なる勤勉家にして誠意努力萬難に屈せず今日を成す又世人の信頼頗る厚く世事に盡せしが目今風月を友にして娯しめり。

## 笠間稲荷御本社

## 笠間稲荷庭園







笠間稲荷神社社掌

## 塙嘉一郎君

西茨城郡笠間町塙豊樹氏の嫡男に生る、家世々神官たり、其先は常陸大掾國香に出づ、國香後裔大掾資幹其邑塙、大藏、伊藤、德宿、借宿、瀬落、島羽田の地を割て畑田秀幹に與ふ、其子重茂始にて塙氏を稱す、世々鹿島郡塙に居る數世を經て四郞政茂に至り新田茂貞に屬し北條高時を伐て功あり其子孫相續鹿島郡及下總國海上郡の間に居住し鹿島郡に在る者鹿島神社に仕奉す、嚴父豊樹君は縣下有數の神官たり、君は國學院に入り皇典學を研究し其薀奥を極め敬神愛國の念厚く父業を襲き神社に奉仕す地方の名望洽く笠間町繁榮の今日に至る君が策畫の功多きによる。

× × ×

豪商

## 幡谷辨吉君

學識の豊富にして然も政治の理解に富み一旦蹶越すれば易々として縣會議員たるの素質を有しつゝあるも敢て盲動せざる處に人格の閃めきを見するものを幡谷辨吉君に見る。

君は東茨城郡小川町の人幡谷仙之介君の實弟にして水戸市漢學者岡友先生の敎訓を受け漢學の造詣頗る厚く而して家業に精勵して機を見るに敏なるものあり見る間に產を起して今や縣下屈指の豪商に數へらるゝに至るは君が頭腦明敏の賜といふべきなり。

資性温健にして大度の量あり、克く金諾を重んじ操守堅實なるが故に一町の信望を擔し町會議員に選ばれて中樞人物たり博識多才にして公共心に富み一町の發展に留意する君の如きは世人の模範とするに足るものあり、將來益々其の地歩を固めて令兄仙之介君に劣らざるの產を作り天晴の事業に於て活躍する日あるを確信するものなり。

東茨城郡西鄉村
醫師

## 白田虎四郎君

新治郡林村明治十二年三月一日に生る。夙に醫に志し學理と實地とを研究する事多年試驗を經て醫術免許狀を得たり、先に西茨城郡北川根村大字長兎路に開業せしが其後東茨城郡西鄉村大字下古内に轉住して醫業を營み村醫たり患者に接する丁寧懇切なるを以て高評あり資性温良交際頗る圓滿なり

久慈郡坂本村
郵便局長

## 塙信平君

明治十二年二月久慈郡坂本村大字大和田に生る。父祖の業を繼承して吳服太物商を營めり。四十三年十一月坂本郵便局長に任ぜらる。

大正四年九月郡會議員に當選し名譽職參事會員に互選さる、局長に任ぜらるゝや一意專心其職に盡くし成績を擧げんことに努め、大正五年七月遞信大臣より褒狀及勤功章を賜はり其功績を表彰さる、六年五月久慈郡長より東北地方產業視察を命ぜらる、八年二月消防議會より功勞章を授與、八月九日郡會議員に再選さる地方に於ける一人物として世に知らる。

久慈郡幸久村

元縣會議員 **萩谷精一君**

慶應元年久慈郡幸久村大字藤田の素封家に生る。資性温良篤實酒造業を營み個人經營にて萩谷銀行を營み頭取たり。

明治三十九年村長となり、四十年縣會議員改選には衆望を荷ひて縣會議員に當選さる

君は籍を政友會に置き地方の有力者を以て重きを置かる、子孫繁榮資産益增殖將來恐るべき大をなさんか。

久慈郡幸久村

前郡會議員 **萩庭喜市君**

久慈郡幸久村大字下河合の名門に生る。君は諸般の事を研究し地方に於ける學者にして議論卓説を吐けり而して經濟家なり。教育には頗る熱心にして經驗を有せり。

令弟は現に大學に在りて研究中。亦村内の德望家にて村會議員、前郡會議員たり。君は亦地方に於ける有力者として相當技意を有し居らる人物なり。





市會議員 **原 寛君**

君は明治元年二月十日を以て鹿島郡大同村素封家に生る。幼にして學を好む、資性温厚謙譲の人、帝都に出て醫學を研究し、後ち水戸市下市十軒町に偉大なる住宅を構へ、専ら醫術を勵む、最初は明治廿六七年の頃なり、素より正義の士決して言を飾ざる人に非らず、至誠一貫患者に對して、貴賤貧富を問はず、親切と叮嚀を主として事務に勤む、素より醫業は仁術なりと稱す、實に

高評の人潔なり、益々地方の信頼厚くして市會議員にに選ばれる事數回にして、言論卓看衆に優れり、數次の容れる處にして、縣議員に選ばれ現に其職にあり、又公共の事業には一層の注意を拂へ盡す處少なからず、當市發展上最も力を傾注し下市水道、公設電車市役所の改築等ならざるなし、極めて醫師又議員としては人格の高き崇拜する人でありと賛讃しても尚止まざらん。

多賀郡櫛形村
## 故 橋本延君

嘉永三年九月十八日多賀郡櫛形村大字伊師本鄕の素封家に生れ士族に列し代々農を營めり。

明治二十二年四月村會議員廿五年四年再選四十年四月三選大正二年四月退職。明治二十六年五月村長となり滿期毎に四度擧げられ明治三十三年三月退職せり。亦學務委員たりし地方に於ける有力者にして村内より信望高し嫡男熊之介氏現に村長の椅子にあり村政を料理し好評を博せり。





猿島郡八俣村
## 初見周吉君

猿島郡八俣村大字谷貝の人。君は眞壁郡下妻町字本宿の萩原家に生れ出でゝ初見氏を冒す初め小學校敎員となり居る事三年登記所官吏となり鄕に歸り町村制實施の際擧げられて村會議員となり間もなく收入役たり明治二十九年三十二歳にして縣會議員となり常設土木委員たり。本縣茶業組合聯合會議員となり二十年以上繼續せり。尙同會議所會頭たる事四回茶業組合中央會議員十二年間繼續し現に其職に在り。明治卅四年新潟市開催一府十一縣聯合共進會製茶審査員に選ばれたり本縣茶業をして聲價を得せしめたるは君の功に依る長井戸耕地整理組合會議員及評議員たり地方に於ける有力者を以て目せらる君は風流心に富む流行の遊藝と浪花節は玄人にして微吟を催し興湧けば唸り出し隱藝は亦君の特徴と云ふべきか

## 長谷川善次君

西茨城郡南山内村大字本戸の人。東京府立職工學校卒業、後陸軍兵器本廠機關銃部員となり後大倉商業學校に學び、東京市街鐵道大島鐵工所に入り感す所あり英文を修め、明治大學にて法政經濟の學を修む、明治三十七八年戰役に從ひ一時賜金を得、歸りて茨城善修學院長磐城點燈會社長、栃木點燈會社長、太田點燈會社長、笠間衞生組合長、同青年學會理事水戶青年會幹事、太田青年會幹事、常磐生命保險會社參事、茨城木工社專務取締役、江東動力株式會社長、下野自働工業株式會社監査役、萬歲製藥株式會社取締役、富士林株式會社監査役、東京府囑託大乘學園相談役たり、亦茨城萬報社、珂北新聞社を經營、國民、中央新聞より東京夕刊新報に轉し筆を採り栃木茨城支局長たり。實業界に奮躍を試むと共に政界に奮進せんことを期せり。





前水戶商業會議所會頭

## 塙七平君

文久二年四月水戶市上市上金町に生る、名門にして士族たり。吳服太物を商ひ舊家を以て聞ゆ、明治二十三年水戶商業會議所議員二十五年縣會議員、二十六年水戶運送株式會社取締役、二十九年破產管財人、二十九年商業會議所議員並常議員、三十一年水戶商業銀行取締役、卅二年太田鐵道株式會社取締役、東京隅田川倉庫株式會社監査役、三十三年商業會議所議員、常議員、卅六年副會頭、卅七年會頭、四十四年會頭再選會議所役員就職中は全國商業樞要地は勿論支那迄商業視察をなせり、地方唯一の豪商にして吳服太物老舖たり君は詩に巧みにして風月を樂めり。

## 原脩一郎君

新治郡土浦町に住す、正七位勳六等前衆議院議員たり、明治四年五月二日京都府綾部藩に生る、明治二十二年帝都に上り苦學多年の後中央大學に入り法政經濟の學を研究せり、臺灣の我版圖に歸するや渡航し臺灣總督府の官吏となり覆審法院書記長臺南縣辯務署長に任せられ、土地調査事務官を兼ね、後臺灣總督府警視に轉し保安課を命せられ正七位を叙せらる、在職中生蕃討伐に殊功あり勳六等に叙せられ三十八年臺灣製糖株式會社取締役たり輓近財產を增植して巨萬の富を重ぬ、君や政界に入るや桂公の同志會に入り今や憲政會にありて重きを置かれ茨城支部長となり牛耳を執らる、性剛直にして豪邁抱負あり手腕あり將來益々大をなすに至るべきか。

元長倉銀行頭取

# 塙 和敬君

文久元年十二月廿日那珂郡長倉村大字長倉に生まる。醬油釀造業を營めり。父源次郎氏は長倉村長倉銀行頭取たり。

和敬君は明治卅六年四月消防組頭、卅七年一月長倉銀行取締役卅八年十一月長倉區長四十年村會議員、大正八年長倉銀行頭取十年五月赤十字社特別社員たり、大正十年三月組頭辭職に付大宮署長より銀盃一個と感狀受領、十一年十一月頭取辭職に付長倉銀行より三ッ組銀盃臺付受領、長倉小學校舍新築に付五百圓寄附し其公益上に盡せし事鮮しとせず。





村會議員

# 塙 市郎君

久慈郡坂本村大橋に生る、地方の名門家にして家代々舊庄屋を勤め名主たり、令閨は同郡金鄉村須藤寛氏より出づ、資性溫良人に接する叮嚀親切極めて世間より信頼厚く名望高し人格者を以て鄉閭より崇拜され曩に郡會議員たり、現に村會議員となり村政に參畫し地方公共事務に盡瘁し其功積少からず。

區長

# 原田藏之助君

明治四年十一月二十八日西茨城郡南山内村大字吉原の素封家に生る、性資溫和にして義俠心に富めり、嘗て陸軍に職を奉じ、戰功少なからず砲兵曹長勳七等に叙せらる、鄉に歸り宏大なる農園を開拓し、梨桃葡萄等四町餘を栽培し側ら養鷄を爲せり、又區長學務委員等の公職に就き誠心誠意盡せるを以て村內より信用厚く之を賞讃せざるものなし。

郵便局長

# 塙　芳君

那珂郡村松村大字押邊の人家世に里庄を勤め資産家也、祖父は曾て石神村長也、父菊之介氏は本田惣藏氏の二男なり。大正五年村長に當選、其後病氣により退職せしも村治に盡瘁し郡より表彰され銀時計を賞與さる、芳君は明治十六年菊之介氏の長男に生る、夙に秀才の譽あり山方、佐野各村の小學校教員たりしが都合により退職し現に村會議員、學務委員、消防第二部長赤十字特別社員たり、而して現に郵便局長として成績を擧けべく眇々たり。





元官吏

# 袴塚三喜藏君

君は明治七年十一月一日増井の邸に生る、名門袴塚右馬之允の長男なり、明治三十一年三月北相馬郡書記に任せ、られ、町村紛擾に際し町村長職務官掌として派遣され其紛擾を鎮撫し亦事務をなし其功鮮なからず、四十一年一月病の爲め休職となり、四十二年依願退職、四十二年九月いはらき新聞社に入社高萩支局長となる、大正三年一月退社、其後國民新聞社記者、やまと新聞記者、報知新聞記者となり或は國民中學會に入り、大正五年六月獨力にてイハラキ時事を經營し居たり、老親扶養の爲め十一年六月歸省せり、近年政治に趣味を有し筆に口に秕政の痛論す、憲政會に屬し幹事として黨務に盡瘁し地盤の開拓に從事せり、君は甲斐武田の後裔祖先袴塚に城を構へ居りしが其後當地に來り村内に分家八戸を有し鹿島、行方、那珂、多賀、の各郡東京、新潟にも分家せり、君の家は袴塚の惣本家なり、君は資性剛直にして豪宕勢擁に阿諛せず威富に屈せず斷々乎として處信を貫く常に政界の革新を期せり、君が樂みは讀書と研究せる論議の發表なり、新智識の增進に腐心し學識豊富思想高逵世俗に超然たり。君や歸郷間もなく衆望郷閭に洽く現時雌伏すと雖もいつしか風雲を捲起するにあらずやと期待さる、偶新農會法の實施に當り郡農會議員に選擧されたり。

素封家

# 袴塚行光君

君は嘉永六年正月十三日水戸市新屋敷濮小路水戸藩の名門安島善友の三男に生れ幼名金三郎其後善道大正四年今の名に改む、幼時藩の儒者北條秀綿引泰佐々木篤に就き漢學を修む、明治四年十九歳上京遊學殖儒金内角藏の塾に入り漢文を學ぶ、七年警視廳に入り九警年部に任ず、九月中熊本神水連の亂に際し高崎親章等と鎮撫の爲める出張を命ぜらる、十二年亂平き歸京十年一月長崎出張を命ぜられ其後熊本に入り植木御船等に轉戰の鹿兒島宮崎に入り七月下旬宮崎陷落の功に依り歸京、九月一日西郷隆盛城山に浸入せり三日鹿兒島に出張九月二十四日城山陷落直に國分警察署に在勤次て濱の市警察署長を命せられ十一年五月歸京八月參議伊藤博文郷護衛を命せら十二年職を辭し茂松學舍に入り法政學を研究し十九年大倉組に入り土木事業に從事す、二十五年會社解散個人にて事業を營み四十年業を止め歸郷す、性廉貞明治十四年東茨城小松村瑎井士族袴塚家に入り嗣ぐ、君の家は郡吏として名あり袴塚三右衛門行義は祖父に方れり

（袴塚行光の邸）





村會議員

# 萩谷龜吉君

明治十四年十一月十五日久慈郡幸久村大字下河合二十八番地に生る。資性温良皎潔克く農事を勵み傍ら養蠶に從事し資産益々增殖せり。村内に名望あり村會議員、下河合區長、村社宕般神社氏子總代等の公職にあり尚ほ日本赤十字社員、帝國軍人後援會通常員たり。君は家業に奮闘すると共によく公共事業に盡すを以て前途有爲の人士を以て目せらる。

村會議員

# 萩野谷精次君

那珂郡瓜連村の人。性頗る正直行正義を以て世に知らる、萩野谷一家一統は潔白にして清廉業に努むと共に克く公私とも盡す所少なからざるを以て世に尊崇さる、名望郷閭に高く村會議員に擧げられ、村政の刷新を期圖され、村内の有力者を以て目せらる。

前村會議員

# 萩谷金次郎君

那珂郡上野村上岩瀬の人。蠶業に熱心し地方同業者に對し開發指導する事少からず、之れが爲に年々幾々同地方に於ては蠶業家の增加少なからず、斯業の奬勵發達上功績顯著なり、君は性活潑にして弱きを扶け强きを挫き地方に於ける豪俠家なり、又慈善心に富み貧窮者を救濟するを以て世に賛稱さる。

學務委員 **芳賀鶴吉君**

多賀郡南中郷村大字上石岡の豪家なり。文久二年二月廿三日生る、資性温順寛宏にして勤勉家なり、君は嚴父時代より專心農業に力を致し、俗に石岡紙と稱する紙を製造し、太田水戸東京の各所に輸出し稼る所大にして資産を積めり、君は其頭丁年未滿なるも人に接する愛嬌よく人に好かる、克く家業に努力し父の事業を繼ぎ、亦公私の事業に盡くし地方の信頼厚く、性質潔白清廉有德の人として將來囑せらる。

東茨城郡澤山村
郵便局長 **萩谷德之介君**

大字阿波山の人性溫順現に澤山郵便局長たり消防小頭ともなり郡會議員ともなり地方に於ける有力者にして信用多大なり地方公共村の各種事業に參加し功績少なからず職務には忠實にして通信事務の能率增進を圖り地方の名望家を以て知らる。

辯護士 **林賢之助君**

君は北相馬郡小文間村名門家に明治九年五月五日を以て生る資性温良正義の人勘作君の長男にして幼年時代より學を好み、明治三十年明治大學を卒業し司法官試補盛岡仙臺福島の各地裁判所に奉職す其後ち當市仲町に事務所を開き至誠其業に盡す衆望の信頼する處にして偉大なる住を構へ當市有爲の辯護士として尊敬さる、是れ即ち正義の士たる者と賞せざるはなし最も模範の辯護士たりと云ふべし。

# 馬塲清重君

明治十二年東茨城郡河和田村の舊家大内家に生れ同村馬場家を嗣げり明治三十三年近衛歩兵第一聯隊に入り三十六年八月本縣巡査となり龍ケ崎署勤務三十四年大宮分署に轉し十月日露の役に從ひ奉天會戰に參加負傷し勳八等に叙せられ、三十八年八月除隊となり菅谷署に勤務、四十年石岡署四十四年五月縣高等課勤務、大正二年巡査部長に昇進し、大正六年警部補に昇進し九年十一月勳七等に叙せらる、十年三月警部に任せられ北條分署長を命せらる、十年菅谷署長に轉じ十一年三月鉾田署長に轉せり、性質圓滿にして社交に巧みなり妻さき子との間に四男三女あり警察界に於ける有爲の人物を以て目せらる。

新治郡石岡町

## 濱　平右衛門君

新治郡石岡町の人、實業家を以て江湖に名聲を博せり、資性穎敏聡明にして官民の間に疎通を謀り才氣煥發なり克く公共心に富む常に町の發展に力を傾注し、石岡電氣株式會社を起し現に社長たり、醤油醸造業を營み各地に輸出し多量なり業務益々發展せり君愛嬌に富み高風紳士の評あり、資産家にして公益上に盡せるを以て衆望高し。

前郡會議員

## 二田　籌君

君は多賀郡華川村大字上小津田に生る、舊家にして嚴父幸翁は學識才能あり、縣下に於ける優秀神官として名あり地方部落は翁の支配する處となり勢力範圍たり君翁の遺志を繼ぎ神官たり、神職會よりは參事員評議員理事に擧げらる、温良にして恭儉衆に敬愛され信頼厚し、村會議員、郡會議員郡參事會員に選ばる、地方の名望家にして其名高し。

前郡會議員

## 西田市郎衛門君

君は明治十七年七月一日那珂郡長倉村大村長倉九百九十五番地に生る、君は勤勉家を以て名あり米穀仲買をなすと共に電氣精米をなし之を薄利多賣に販賣して利潤を得。君は精力家たると共と村内公共事業に盡すを以て名望あり

大正元年四月村會議員、本縣生產檢査員、並輸出檢査員、村農會長消防小頭等、大正八年郡會議員に擧げらる地方の有力家なり

前郡會議員
## 西野邦造君

君は慶應元年十一月十七日那珂郡佐野村大字高場十五番地に生る、幼にして穎悟英敏なり資性剛直にして清廉なり、明治廿四年五月村役場書記に任せられし以來廿九年六月助役となり、三十一年四月村農會長、卅一年十一月茨城縣保護地方幹事、卅三年三月那珂郡學齡兒童保護會佐野支部長、三十四年三月菅谷外三ヶ年組合高等小校學務委員、三十五年一月那珂郡尙武會佐野支部長、三十五年七月郡農會代表者、四十四年十月郡會議員、大正二年六月村內高場村社靜神社氏子總代、大正四年郡參事會員、大正八年九月國勢調査員等の職にありたり、大正十一年二月磯原銀行佐野出張所主任の職にあり金融の緩和を謀れり。地方に於け才能家なり。君は憲政會に屬し大正六年二月以來茨城支部役員たり。

前郡會議員
## 西野次郎兵衛君

君は太田町東ノ仲名門家の出なり、安政六年三月二十一日を以て生る、西野家は世々町役を勤め德政を施き子々孫々全慶あり藥種店の老舗なるが頗を繁昌し縣下に屈指の高評あり、名望多に衆出して町會議員學務委員に選ばれ克く其職を盡くす信用頗る厚きと共に資產增加しつゝあり性温良篤實町內に於ける有力家を以て世々知らる、郡會議員二回當選制廢止と共に郡の爲め盡力する處少なしとせず地方唯一の人格者として賞すべき豪商家の御主人である。

村會議員
## 西山敬一君

君は明治十年十月十五日行方郡延方村に生る、父定次郎氏剛直にして容易に人に屈せず、郡制實施の際議員となり、日露の役功に依り勳七等は叙せらる、祖父敏房より敏行義隣に遡り文化文政より萬延年間に及び藩公より役儀に依り苗字並帶刀を免さる、敬一君本縣米穀檢査施行に際し生產檢查員となり消防組頭、村會議員、地主會代會員、學務委員等を兼ぬ、又選ばれて古刹善門院壇徒總代となり愛國婦人會有功章赤十字特別社員たり公共に盡す、君竹園と號じ古人の邊墨を愛し詩を作りて餘技となす、人格崇ふべし。





町會議員
## 仁原雄三郎君

君は眞壁郡眞壁町の舊名門に生る、稟性温良正義の士たり、家世々舊藩時代より庄屋名主の村役を勤め今に至るまで其全慶により村內より尊敬され信頼頗る厚し、區長、村會議員に選擧され克く其職を盡くす、思想堅實操守の堅き世の稱する處なり、君益々公共事業の爲に盡し祖先の名を大に擧げられんことを望んで止ます

眞壁郡北條町
町長
## 西尾貞一君

君は明治三年八月二十五日福井市江戸下町に生る同市の名門家なり、現に眞壁郡北條町に住す、性資穎敏學識豊富算筆に長せり、中等敎育を修め水戸地方裁判所書記に任せられ土浦區裁判所に轉し明治二十六年五月北條登記所主任たり、廿餘年間一日の如く勤勉人格の崇高を以て世に稱せらる、名望高く北條町長に擧られ公務に努力し成績擧れり。

郡長
## 保坂德兵衛君

君は西茨城郡西山內村大字福原名門の家に明治十三年十一月十日を以て生る資性穎敏にして温良なり幼年時代より學を好む文筆優秀にて衆に勝れ遂に志を官吏と致し警察署に勤務し保安課長に昇進し最初の郡長として多賀郡に榮轉す而して港湾暴波堤大津平潟豊浦會瀨の各所是れ等に就て心を盡し又中學校設置に付き問題起る哉奔走す尙本郡に坑山炭礦の諸會社の發展に力を傾注し又君は人に接するに極めて温容毫も城府を設けず平民的の才能者たり故に郡民擧つて崇拜せせるはなし君は官界に於ても信用厚く從て郡民は長く留任し以て地方の爲めは盡力せられん事を希望して尙止まぬ次第である。

前縣會議員 **穗積竹次郎君**

君は多賀郡松岡村大字上手綱豪家舊名門の家に生る幼にして穎敏聰明の聞へ高し中學を出て鄉里に於て專ら家事に從事す良く村治に盡し國家事業に盡瘁す村會議員村長に舉られ敎育に力を致し當時學校の新築等道路改繕百般に盡す處尠なからず故に郡民大多數の推薦する處にて縣會の議員候補者となり最高點にて當選す縣治に於ても盡す處偉大なり尚又大正四年にも再選され尋て手綱郵便局長所得稅調査委員宅地價修正委員酒造組合長醬油釀造業組合長其他百般公私共に盡す處少なからず地方豪商の責任を全ふし頗ぶる名譽人格者として讃賞しても尚止まざらん

元縣會議員 **穗積　武君**

君は多賀郡北中鄉村大字相田豪商舊き名門近藤家の二男に生る資性溫良にして好く人に接す後同郡松岡村富豪たる穗積君の新家を嗣ぐ村治に盡す處少せしとず民道代表者として輿論の推す處縣會議員に舉られ神永秀介翁と交り厚ふす日曜其他休暇には良く碁を樂しむ又將棋を戰ふ當時の縣會議員として人格者たり現職中收賄贈賄の件兩派に起り其筋の取調ぶる處となり其際兩將の如きは一點として醜類に加はりたる疑ひ無きを以て益々人格優秀にして崇拜されしに至り今や世評に殘りつゝあり。





元助役 **堀江亥之太郎君**

君は明治四年三月十一日を以て多賀郡北中鄉村大字大塚に生る、十八歲にして父を哀へ農事に務む明治三十五年二月衛生組長に選ばれ三回重任明治三十八年六月同村第二區長となる四十年七日收入役に舉らる區長を辭す四十四年收入役重任せられ四十五年五月本村助役となるに及んで收入役を辭し同月花園川堤防四百餘間の新工事を竣功す磯原停車場通りの水害を防止に勉とむ大正三年國道より四百間餘の磯原通り道路の改修を成し以て同町の發展を斗り大正二年六月村會議員に當選村の圓滿發展に勉む同年四月實業視察を囑託せられ村會議員和田熊次柴田自由郎野口仁平大越貞四郎諸氏と東京府神奈川縣靜岡縣の模範町村を視察す大正四年に御大典記念として村役場新築協議成り實業及び役場構造等の視察囑託せられ同年十二月十五日發村會議員綠川民太郎野口仁平書記鈴木德次氏等と本縣南部東京府千葉縣埼玉縣町村を視察し以て村の發展を斗りしも兎角村會毎に軋礫を生じ圓滿を欠き依て野口仁平外二氏と協力一致村の發展を斗るを得ざるは不德の致す處と大正六年三月連袂村會議員の職を辭す。

明治神宮御造營工事に勞力獻納大正六年四月四日より東京府下代々木町富ヶ谷各敎中學校を宿舍として五日間御敷地內本社西北隅の國阜土侍女御手傳へしたる光榮を得日淸日露の戰役第三師團の雪中行軍の慘狀三陸海嘯奥羽の飢饉其他に就き多少の微志を奉じたり二男淳は明治神社御造營工事に茨城縣青年團第二回奉仕六十名の內に選拔せられ大正十年三月廿四日より向十日間奉仕の千載一遇の舉行父子にて奉仕するを得たるは實に一家の光榮と深く肝銘感涙に咽ひたり失敗談に移る去る明治三十年初春東京に始めて上り晝時に至り神田區にて左顧右顧或るそばやに入り二階に昇りうどんを出せと女中に注文す女中はうどんなしと答ふ然らばそばを出せと云ふに何そばに致しましようかと云はれてそばの名を知らずに窮したりふと見るにそばの種貫の札あり目に附く月見のそばと注文して月無き時に日見とは思はす月見は失敗の成切二杯を平らげ三十錢を投じ田舍氣質丸出しにて逃げ出てたり最初の失敗談にこれあり其後脫線種々なる悲劇喜劇の類多ふし

村會議員
# 本田三之介君

君は那賀郡村松村大字押野邊素封家本多家に生る資性善良溫順たり勤勉家の聞く高し農事に熱心夕べに月を踏んで朝したに星を戴く又村治に盡瘁す君の家は世々村役を勤む現在村會議員二回滿八年區長現職にして是れ又七ヶ年間經續す特に赤十字社特別社員氏子總代先代より引き續き勤め居れり君は良く村治に奔走し又公私共に力を傾注す極めて世の模範人物として高評たり將來共に名譽の人と賞すべし
令閨は同郡勝田村名醫川崎信夫君の尊姉にして賢婦の聞へ高し家庭の敎育上下の取締り百般に注意深く寸暇家事に心を注げり

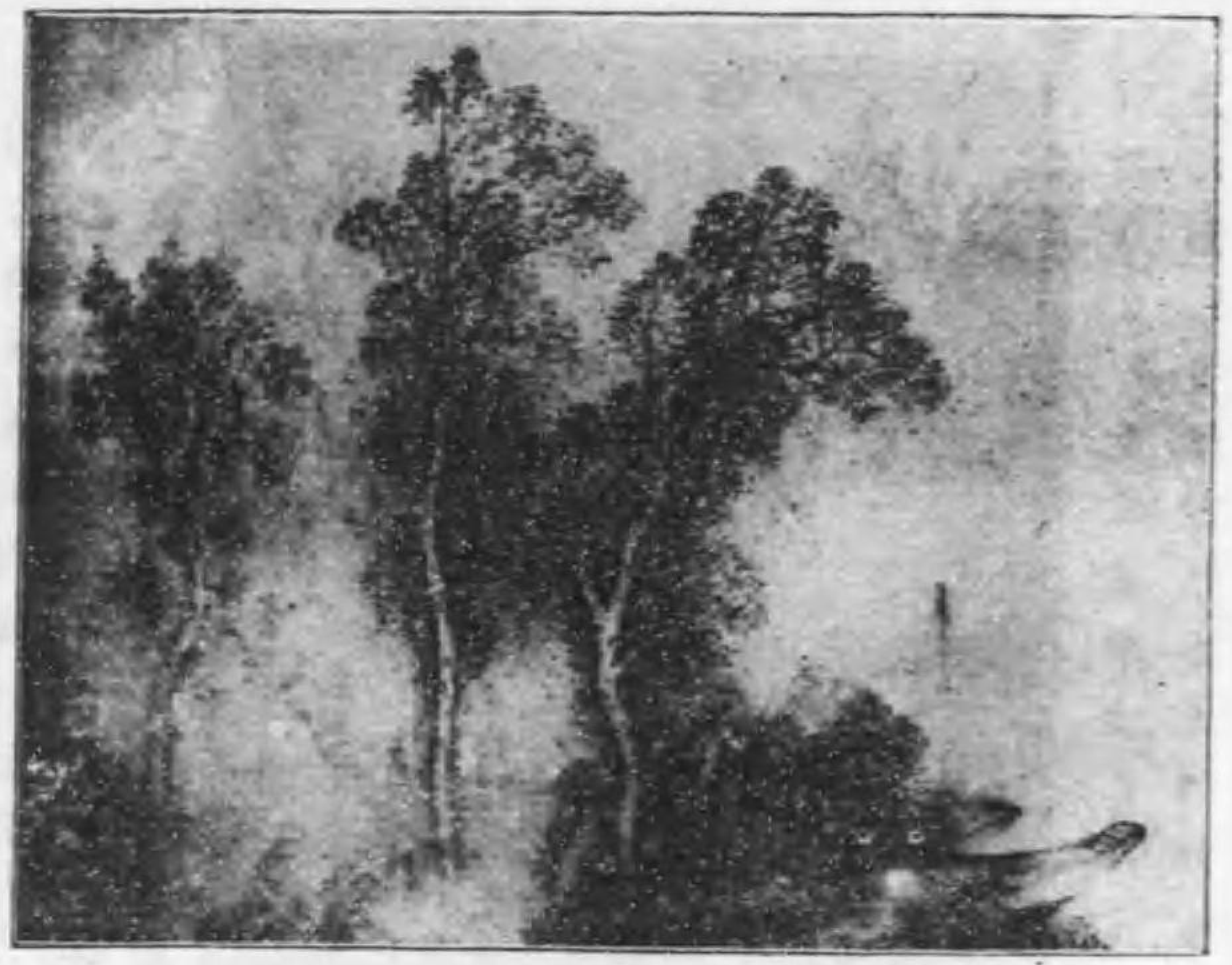




素封家
# 細谷源文君

君は東茨城郡川根の舊名門に生る資性極めて溫良にして穎敏の聞へ高し救濟の志し深く故に村民の尊敬する處にして明治三十七年四月村會議員に當選して以來今日に引續き當選す明治四十四年川根村地主會長に當選す同四十四年四月恩賜財團救濟會員に列す大正二年七月所得稅調査委員に當選す大正四年九月東茨城郡會議員に當選大正五年五月赤十字社特別社員に推薦せらる大正六年六月所得稅調査委員に當選大正九年四月川根村農會長に當選大正七年六月明治神宮奉賛會員に列す大正十年八月大藏省より相續稅審査委員を命ぜらる大正十一年六月二日赤十字社水戶支部總會の時總裁閑院宮殿下より有功章を拜受す政事上に關しては終始憲政會に屬し水戶支部幹事となり敎育上に關しては賢息五人何れも高等敎育を授け目下夫々有力なる職にあり長男源之亟君は早稻田大學日本大學に學びて其業をへ專ら家業に從事す一村靑年の指導に意を用へ憲政會水戶支部の當時常任幹事たり。

# 飛田周山先生筆



## 畫伯 飛田周山君

君は茨城縣多賀郡北中郷村大字大塚の人、明治十年二月を以て生れ、素封家にして家世々名主庄屋を勤む、嚴父正君は戸長、區長、村會議員、助役、衛生組合長等の公職を帯びて村治に盡粹し殊に勸業に傾注して耕地整理を起し委員長と也二百町歩の耕地を整理し、名聲頗ふる高し周山畫伯は早く東都に出でて彩筆に親しみ文展に出品して入選以來君の靈腕天下に洽ねく揮毫を請ふもの常に絶えず、資性温良にして美術界の人格者なり。





## 町會議員 鳥居淺次郎君

多賀郡大津町字西町の人、明治二年三月十七日を以て生れ、資性穎敏にして正義の人なり、同町の舊家にして君は義侠心に富み常に町務に盡瘁するところ尠からず、專ら教育、勸業等に心を傾注し、公共事業に力を致し町民の信頼厚く將來有爲の人物として目せられ現に町會議員たり。

## 前町會議員 鳥居塚彌太郎君

多賀郡大津町字西町の人、文久二年八月二十五日を以て生る、鳥居塚家は名門にして、君の資性は極めて善良、五十集商を營み東京、宇都宮、武州、栃木等の各地に移出して取引信用厚くまた同町の名望家にして信頼厚く尊敬を拂はれ居れり。

## 村會議員 富山德壽君

那珂郡靜村大字村田の人、君は頗ふる公共諸般に心を傾注しまた家事に勉勵せる結果今日あるを見たり、資性堅實現に村會議員として村治に盡瘁しつゝあり、將來有望の人にして敬ふ處なりと。

元村長 故**豊田長作君**

多賀郡北中郷村大字大塚五十二番地の人嘉永二年四月二十七日を以て生れ、同地方の名門にして義侠心に富み、村長、助役、村會議員收入役等の公職を歷任し村治に力を傾注したるも、二豎の犯すところとなり、大正十一年三月二十五日遂に不歸の客となれり。噫々悲哉。

元村會議員 **豊田倉吉君**

多賀郡南中郷村大字日棚七十五番屋敷の人慶應元年七月十二日を以て生る、士族商を營む、明治四十一年一月二十四日常設委員、同四十三年三月二十七日滿期。同年五月十九日村會議員に擧げられ、大正二年五月十七日滿期退職せりと雖も君の功蹟致すべからざるもの多ふしとて今噂さに登りつゝあり。

村會議員 **戸倉辰吉君**

多賀郡北中郷村大字上相田四十三番屋敷の人、文久二年三月七日を以て生る、君は農業に以て世に立つべく稼家に力を盡し、後ち肥料雜貨商を營み、一代にして巨萬の富を致し同地方有數の豪商なり、性溫厚篤實曾て村會議員に擧げられ、また區長に推され地方名望家の譽れ高し。

前町長 **鳥越道雄君**

多賀郡平潟町三十三番地の人、明治二年九月十二日を以て生れ、資性護道にして敏腕家の聞えあり、茨城醤油株式會社々員、資本金壹百萬圓の多賀銀行磯原支店員として常に行務に鞅掌し信用厚く嘗て町長に推薦され町政に盡瘁して町民より推賢せらる。





蠶業技師 **所 剛次郎君**

君は明治十四年三月廿三日東茨城郡澤山村上阿野澤に生る、三十六年三十九年縣立農事講習會に入り農事を研究し三十九年より四十三年まで稚蠶共同組合擔當員たり四十年郡農會技術を囑託さる四十二年郡立蠶業講習會四十三年郡立蠶病豫防講習會に入り研究郡農會より蠶業技術員養蠶教師を囑託さる四十四年一月縣立高等蠶業講習會に入り多賀郡農會より養蠶教師を囑託さる其後東茨城郡養蠶教師となり斯業に盡瘁す九年四月穀物檢查員となる農蠶業の智識豊富を以て知らる。

元縣會議員 **道口精一郎君**

君は東茨城郡川根村大字野曾の人門閥道口家に生る、資性溫良高潔にして公共の事業には寢食を忘れて奔走す君の家は世々庄屋名主等の家格にして維新後も常に村役を勤め衆人の尊敬を受く君壯年時代より縣會議員に擧られ今の參事會員たる常置委員の職にあり事數回日清戰爭後縣會に鈍張事件なるもの起るや故樂師寺清右衛門翁及金子源兵衛君等と共に盡力する處少なからす村內の公職は土木衛生學務勸業村會郡會村長等の百般村治に心を傾注したり今や風月を侶にし郷閭の爲めに教導に努めつゝあり。

# 鳥羽田重德君

君は東茨城郡上野合村大字鳥羽田の人、君の家は門閥にして學者を出せるが故に祖父恒次郎氏は永年村長の職にあり能く一村を理想化して名聲嘖々たるものあり、又嚴父寅之介君は本縣師範を卒業し西茨城郡西那珂小學校長たる甚多年遂に文部省選奬せられ後奏任待遇となり令名縣下に普ねきものあるに至れり君は此の血派を受けて本縣立農學校を卒業して敎育界に身投じたるが常に社會敎育の志に篤く或時は書籍を出版して指導誘掖に努め、或は講談會を開きて民衆敎育の根本に觸るゝ事を期せるが故に其感化著しきものあり敎育界より一頭を擡づるに至れり。然れども素志の大なる君は現實に甘んずるを欲せず小學敎育界を辭して專心實社訓導の通を研究し、又政治の根元を研めて他日の雄飛を期するものあるに至れり。君の如く高邁なる理性に富み、識見卓越せるの士は將來風雲に乘じて縣下に名を馳するに至るべきや必せり。

村長

# 飛田忠君

君は東茨城郡大場村門閥家に生る資性穎敏頭腦明晰學識優秀にして良く村治に盡す君の家は權門家にして庄屋名主の役を勤め從て區長村會議員村會議員等の名譽職に擧られ又本郡々農會重役に選はれ該職數ふるに追あらず又郡會議員の内に於ても辯論卓舌衆に勝れ一言を以て贊同す君は將來有爲の人物として崇拜せざるはなし益々努力奮鬪を望むで止まず。





縣會議員

# 飛田德次郎君

君は東茨城郡下大野村の人で現縣會議員である、明治三十二年普通文官試驗に合格し茨城縣屬となる三十四年稻敷郡書記に轉じ三十五年茨城縣農會に入り專ら農業の振興に貢すものがあつた然るに三十七年日露の大戰起つて召集され樺太占領軍に編入され凱旋後再び縣農會に入つた庶務に當り其間縣下農界の發展進步を促し來つたのである大正三年下大野村長に擧られ大正六年十月現職の儘にて縣會議員補欠選擧に臨み大多數を以て當選大正八年九月更に縣會議員に當選して今日に至つた而して其間に縣是訂正の蠶業委員となり千波湖水利組合議員に選ばれ今尚森林會議員となつてゐる君は縣議中に於ける功績者たり專ら地方の便利を圖る事に留意し平戸橋の架換に努力し磯濱船溜りの完成に貢献し尚東茨城郡衙に移管などは其の主なるものである君は農會に身を置ける關係上よりして常に其發達進步に着眼し本縣の農會が今日有るに至つたの君の活躍の功に依るもの丶賜である事を是認するに足るものがある、大正十二年九月縣會選擧に際し君又獨舞臺として當選す名望の高きによると敬服せざるはなし。

## 辯護士 富岡寅之介君

君は東京市本郷區曙町十六番地に辯護士事務所を開きて辯護事務を取扱ひ居れり、君は優等を以て茨城縣立太田中學校を卒業し、大正六年三月東京帝國大學法律科を卒業す、資性溫良にして頭腦明晰氣骨稜々として法曹界に令名あり將來有望の辯護士なり。





## 前郡會議員 東谷武君

君は那珂郡鹽田村大字北埴子三十三番地の人、文久元年六月二十四日を以て生れ、明治二十年四月北埴子村地主總代となり尋いで東野村外五ヶ村聯合、野口村四ヶ村聯合地押調査內視委員となり、同二十二年五月役場書記、收入役二回、助役村長郡會議員三回現に郡參事會員、赤十字社茨城支部那珂委員部埴田村分區委員、郡地主會評議員、山形縣農家副業調査視察員、福島宮城兩縣下教育視察員等を囑され、同三十九年四月日露戰役事件の功に依り勳八等白色桐葉章を下賜せられ、同年日本赤十字社長より三十七八年戰役救護事業實施の功に依り木盃を贈られ、同四十四年三月日本赤十字社々業盡力の功に依り特別社員に推薦さる、君はまた多年村長の職に在り教育の普及發達に盡力せし廉を以て明治四十五年郡長丹誠氏より銀時計壹個を贈呈され、また二十五年間役場書記收入役、助役、村長を勤續せ子佐太郎氏より木盃壹組を贈り旌表せらる。

元村長 **所 寅之介君**

君は安政元年三月廿六日東茨城郡澤山村上阿野澤に生る、曾祖父鹽歳氏は上阿野澤の庄屋祖父善右衛門上阿野澤及赤澤のの兼帯庄屋として名あり地方の名門を以て知らる君は學問の普及に志し明治九年村役人と謀り自宅内に夜學會を起し秋の彼岸より春の彼岸まで讀書算術を教授す舍監は君にして助手は川野邊東太郎、所佐市郎所留吉等なり十三年に至りては近村にても設置するに至れり、廿年郡學事聯合議員廿二年澤山村長となり三十八年退職十六ヶ年の長きに至る卅七八年戰役の功により勳七等に叙せらる廿九年防消組を組織す廿四年縣道修繕の請願

を縣廳及郡會に運動中壯士に襲はれしも請願の目的は達し縣道に修繕せられたり三十年婚葬に關し時間勵行を奬勵せり三十四年牛馬耕を奬勵す卅七八年戰役中出征軍人後援の爲め堆積肥料等の製造をなして手傳を奬めたり廿八年布引大根製造を全國に普及せり其後郡會議員となり或は農事に奬勵をなせし爲め四十二年中實業功勞者として表彰さる君の長男は夭せるも次男は判事の職にあり三男は朝鮮にあり農業技師四男は國際汽船會社の二等運轉士なり君は憲政會派に屬し思想堅實にして地方に名あり。





前郡會議員 **豊田哲之介君**

君は久慈郡賀美村大字上深荻千二百十番地の人、士族にして明治七年九月二十九日の生れなり、材木商を營み商略に長じ居れり、人に對する極めて懇切丁寧且つ敏腕家なるより同四十三年初めて村會議員に推され、同四十四年區長となり、現に郡會議員として名聲嘖々將來雄飛すべき智能を有し居れるを以て必らずや名を爲するに至るべし。

前村長 **豊田 誠君**

君は久慈郡佐都村大字茅根の人、安政五年八月二十一日を以て生れ、賀美村大字深荻十七番屋敷に住む、性極めて温厚人に對する親切丁寧にして明治三十四年助役に推薦され、同三十七年區長となり尋いて村會議員に舉げられ、大正二年衛生組長となり、同八年村輿の輿望を以て村長と推薦され、現に村政を料理しつゝあり、近代稀れに見る良村長たりしが滿期退職す。

元村長 **富永源次郎君**

君は久慈郡久米村大字大里の人、長く村長の職に在り村民に對する親切丁寧にして郡内の町村長中稀れに見るの良村長なり、また資性温良にして公共の事業に盡粹するところ尠からず、將來大に事を爲さんとせしに偶ま二竪の侵こすところとなり遂に起たず、惜むべし、令息剛一郎君また嚴父源次郎君の志を繼ぎて人の信頼厚く村長に推され、資本金百萬圓の磯原銀行重役となりて常に行務に精勵し將來有爲の人物なり。

組合書記長 **茅根 英君**

君は久慈郡山田村大字和田の人明治四年一月五日を以て名家なる茅根家に生る資性穎敏にして温良なり幼年の時代より良く文學を好む又優秀にして活躍者たり故に本郡に於て最も重大なる產物として煙草生產共同組合に書記長に選ばれ國家の爲め大に盡す處少なからず君は地方發展に力らを傾注す益々幼績を舉げ產物の利益大なる事を希望する者である。

村會議員 **堀江藤助君**

君は那珂郡嶐郷村大字鷺子に慶應元年二月十五日生る明治三十二年村會議員に選擧され爾來引續き今日に至る明治二十三年區會議員となり大正元年辭職明治三十三年鷺子區長となり明治三十七年滿期退職明治三十三年郷社鷺子神社氏子總代に當選現に其職にあり氏子總代在職中能く神官を補佐し神社基本財産の造成に盡力して以て今日の神社財産を得るに至り功勞大なりと賞す、明治三十四年赤十字社正社員たり、明治四十三年葉煙草耕作總代となり大正十年辭職し耕作指導員たり模範耕作者として賞を受け又表彰せらるゝ事數回あり君の如き長く村治公共に信用厚く村民に敬意拂はるゝ世に珍敷卓偉者と賞讃す。

陸軍一等主計 **堀江武君**

君は多賀郡北中郷村大字大塚の舊名門の家に明治二十三年九月廿三日を以て生る資性潔白にして豪傑なり君は幼年時代より良文筆優秀人の敬ふ處なり軍人に籍を置く事あり又横濱税關官吏たる事あり何れも官民に心を容れ大に社界の主味を了解せられたる公明なる大人物として賞讃す。

東茨城郡山根村
助役 **富田信君**

君は慶應二年九月二日東茨城郡山根村大字全隈に生る夙に農は國家の根本たることを知得し實業に熱心にして郡農會理事盡力す村會議員、收入役の公職に在る多年現に助役として就職村民の幸福を希圖すべく克く村長を補佐して努力しつゝあり。

町會議員 **穗積泰三君**

君は多賀郡南中郷村大字石岡舊門閥大塚家に生る。中學を出しより專ら家事に盡し後同郡松岡村富豪穗積太郎太翁の分家を嗣ぐ現住同郡大津町西町に偉大なる居を構へ同町發展に力を傾注し素より正義勤勉の志にして蓄財の道深く遂に巨萬の財を積んで多賀銀行大津町支店の重役となり穗積武君の令嬢を嗣子に迎ひ又生家なる實兄大塚厚君の二男を迎び相互樂歡家庭圓滿名望家の格式を具備し今や隆々として譽れ高し。

實業家 **本多秋太郎君**

君は那珂村村松村大字押野邊の人資性穎敏聰明にして頗ぶる勤勉家の聞へ高し公共心に富む義侠者たり常に弱者を援助す暴徒を壓するの志士にして衆人の良く敬ふ處なり又公共資金に對しては毫も吝ならす支出す故に衆人の敬ふ處なりと云ふ。

實業家 **堀江寅松君**

君は多賀郡北中郷村大字大塚名門の聞へ高き堀江家に明治七年二月廿三日を以て生る資性快活切齒扼腕慷慨悲憤の人常に同情の念深く所謂地方の豪侠者たり故に人皆敬ふ處なり君は將來に於ける有爲の人物として崇拜せざるを得ず君益々奮闘努力以て社界公益の爲め奔走を望むものである。

社長

# 沼崎八右衛門君

慶應元年五月稻敷郡根木村に生る明治十四年小學校卒業後不昧謙翁氏に就き漢學を修む歳十八軍人を志願し父兄の阻む處となり終に果さす毅然家を去り千葉縣に走り職を警察に奉す時偶々大隈外務大臣の條約改正案に物議を惹起し天下騷然たり此秋に方り立憲政進党は天下に呼號し大に之を援て東京新富座に大會を開く君奮然職を捨てゝ之に參加す爾來籍を改進黨に置き政海に馳驅する事三十五年。明治二十八年春光先輩加藤政之助氏と共に北海道函館北海新聞社に入りて筆硯に從事するも家事永く之を許さす翌年故郷に起赴し而して郡會議員、村會議員、高等學校組合議員、學務委員、下利根川小貝川沿岸豫防組合創立委員、同組合議員等の公職にありて地方公共のために盡す所あり。

大正二年廣原龜之助等と土浦町に常南新聞を起したるも議合はすして中途廢刊す大正六年更に龍ケ崎町に常南新聞社を再興し獨立經營以て今日に至る。

元郡會議長

# 沼田邦彦君

君は元治元年六月十七日を以て多賀郡櫛形村大字伊師舊き名門の家に生る資性極めて温良の人にして幼年時代より學を好む明治十五年茨城醫學校を了へ東京順天堂佐藤博士の門に入り明治廿一年十一月開業免狀を下附さる廿一年秋田病院に奉す二十六年多賀郡大津町に開業大津平潟關本關南各町村の囑託醫となり各學校々醫となり其後郷里櫛形村に開業三十七年村會議員に當選四十年七月茨城縣沿岸水產組合伊師消支部長に擧らるゝ四十年郡會議員に選ばれ次いて郡會議長となり其他學務委員氏子總代の公職を帶び村治に奔走す君は醫術技能優秀にして又幼年より改良に趣味を有し郡內有數の人に重きを置かる。

前助役

# 沼田吉雄君

君は元治元年八月十日を以て多賀郡松原町大字北方なる名門沼田家に生る君の家は世々富豪にして編者幼年の時代に君の家を尋ぬるに只々北方の大盡と呼ぶ姓名を呼ばずして直ちに君の家を訪問する事が出來ると云ふ名門であつた君は資性極めて善良温順にして頭腦明晰衆に勝れ人の敬意を表する處なり土木委員衛生學務勸業に至る迄力を傾注し故に町民の推す處にして區長町會議員助役等何れ君は要議を負はざる者なし君は町の圓場を斗り終始よく奮起す最も尊敬すべき人格者と云ふべし。

## 辯護士　沼田照義君

君は多賀郡櫛形村伊師濱の人君の家は祖父伊衛門と稱す庄屋名主を勤めたり又父は忠次郎と稱し編者は今世の千秋氏とは四代交りを厚ふす君の父忠次郎君とは無二の辱友にして伊勢參宮の同行者たり君は幼年時代より良く學を好む又君の親父も是れを容れ父子心の一致せり帝大に入學順を迎ひて優秀を以て卒業し今や東京市上野櫻木町四十五番に居を構へ依頼人の求めに應じ至誠一貫辯護の事務を鞅掌す倒ら星製藥株式會社の顧問辯護士たり其他各會社の顧問辯護士に依頼され寸時なき隆盛にして頴敏聰明今や天下に響く少壯辯護士として將來共大に有爲の士たらん。

## 村會議員　沼田祐之助君

君は久慈郡世喜村の人資性温良篤實にして硬骨者たり地方の資産家たり救濟の志し深く弱きを助くるの義俠者たり故に村民の良く敬ふ處にして區長土木委員村會議員に擧られ少壯議員としては偉大なる勢力者にして多數の敬意を表する處少なからず君の高母は仝郡山田村大字和久名門家たる猿田家より來り同家は地方の名望家にして舊藩時代より名主庄屋を勤めたる門閥家たり。

## 前村長　沼田德太郎君

君は久慈郡世喜村の人資性温和善にし良て名望家たり良く公共に盡粹す區長村會議員郡會議員に選ばれ大多數を以て當選す村民の尊敬する處少なからず故に村長に選ばれ至誠一貫敎育の普及道路改繕勸業の發達に力を傾注し其功績少なしとせず其後久慈郡製糸株式會社なるものを創立する哉君は該社長に擧られ誠心誠意を以て其事業に盡す處正義際日人格者として賞讃せずんばあらず。





## 前縣會議員　額賀豐藏君

君は行方郡武田村の人舊名門額賀家に生る資性温順にして學識者たり頭腦明快勤勉の閑へ高し衆に接するに極めて叮寧なり温容毫も城在を設けず村民より尊敬されて區長土木委員學務委員村會議員村長に擧られし事數ふるに遑あらず大正四年九月には縣會議員候補者に推選され大競爭を以て選擧を執行せし處大多數にて當選續て縣參事會員に選ばれ營業調査委員所得稅調査員に選ばれ地方豪農家としては一点人の指す處なし令閨は同郡麻生町前貴族院議員高崎三重郎君の尊姉にして賢婦の聞へ高し家庭の敎育内外の取締り使下の指導等に行き届き家庭圓滿隆々として譽まれ高し尋て錦田町川口町に額賀倉庫業なるものを創立し地方商人の爲め活躍し大に便ならしめんとしつゝあり。

衆議院議員
従五位勲二等　大津淳一郎君

君は多賀郡豊浦町大字折笠の產なり、君は同地名門家として聲聞高く家世々庄屋横目を勤め後戸長町長郡會議員、縣會議員等の名譽職に在りたる故大津彰君の令弟にして資性穎敏聰明幼にして學を好み年十八歳既に皇漢學に通じ漢詩を善くす、郷里川尻小學校に敎鞭を執りしが君此頃より政治に志し治國平天下を以て己が任となし齢漸く壯出て縣會議員に擧られ次て帝國議會開設建白書を政府に提出せんとする議の擧あるや本縣代表者として出府す、君實に齢廿七歳今を去る四十有三年なり、君は明治廿三年七月初期の衆議院議員候補





者に推され第二區那珂、久慈、多賀の三郡より衆議院議員に擧られ爾來拾五回の選擧に立候補となり二回落選拾三回當選す其間幾多の艱難辛苦を嘗め許多の腐敗瀆政變と共に去就を異にするにも不拘君は節操鞏固にして識見卓越眞に民意を代表する政治家の龜鑑たり、君は大正四年大隈内閣成立の當時拔擢せられて文部省參政官の要職にあり、現に衆議院議員たり君益々勇健餐を加へ奮闘努力一世國家に身を捧げられん事を。

至囑々々

大津淳一郎君（拾八歳當時）

元村長

## 大高鷹助君

君は東茨城郡山根村大字木葉下の人元治元年八月一日生る父を清藏と稱し祖父淸左衛門は名主役を勤む村の舊家を以て知らる資性篤實にして常に公共の爲に盡瘁す明治二十五年村會議員に選ばれし以來學務委員郡會議員等の公職にあり村政の刷新敎育產業の獎勵に努め多年村長の椅子にあり治績を擧げ信用鄕黨に高し君は憲政會と多年行動を共にし公事に奔走する事尠からず地方に於ける有力者を以て重きを置かる勤儉力行一家一村を率ゐる美風起る長男亮太郎氏は多年敎育界に在りしが今回辭職されて本縣社會課に入り民力涵養に努力す。

前郡會議員

## 大信百太郎君

君は東茨城郡石崎村大字上石崎の人豪農にして名望家たり資性極めて溫順志潔正義の人士たり常に酒上席に於て辯論卓舌にして能く論じ能く解決す故に村民擧つて信賴厚く村治百般君の手腕によらざるなし區長土木衛生村會議員村長に選ばれ責任を全ふし後郡會議員に選ばれ大多數を以て當選郡會議席上に於ても郡道其他重要問題に付き盡力する處尠なしとせず君の穎敏聰明なる郡會議員をして當局に充らしむるは郡民として希望止まざる次第なるも郡制廢止と共に退職す今や風月を共に樂しみ家庭圓滿にして隆々たり擧まれ高しと云ふべし。





縣會議員
縣參事會員

## 大島久一郎君

君は眞壁郡古里村大字桑山の人名門たる大島家に明治二十年一月廿三日を以て生る資性溫賢にして活達卓偉の志士たり常に公共心に富む村治に奔走する處より村會議員に推され郡會議員に選ばれ議長となる名望高し大正十二年九月縣會議員の候補者に推され惡戰苦鬪實に近縣稀れなる競爭激烈なる泰然として運動訡たらず大多數を以て當選の榮を負へたるは君の全く名望と手腕によるもの敬服し居れり。

縣會議員

## 大部鋭太郎君

君は多賀郡松原町大字秋山名門大部家に生る、家世々中山備中守に使ふ鄕士にして名望高し賢性溫良正義にして義俠者たり常に民衆の賞讃する處なり嚴父助八君は明治廿九年九月郡改制正の結果地租金貳百五拾圓以上納むるものは選擧を要せずして郡會議員となる規定により郡會議員に擧げらる後町會議員日立銀行取締役勤儉產を興し範を世に示す處尠からず君は其後を嗣ぎ町會議員に擧られ地方又會社を起して之が重役となる大正拾貳年九月卅日執行縣會議員選擧に同郡第二區に於て候補者に推され獨り無舞池に爭ふ者なく是れ則ち君名望の高き事讃賞して止ます益々健全を祈る。

故醫師

## 大貫傳次郎君

君は東茨城郡石崎村大字石崎坪は寺山と稱する處名門家たる大貫家に生る、資性極めて温厚篤實にして人に接するに叮嚀親切温和なり故に衆人より歡迎さる、君の家は世々地方の名醫たり、醫學大學を出しより帝都に於て諸博士により内科を研究し地方有志の勸誘により歸鄕開業したる結果大に衆望の信頼厚く患者の絶ゆる間なく門前に市を成す程の盛況に至り不幸にして不治の病に罹り不歸の客となる生命は神力の及ばざる處なりと雖も噫悲慘の涙だ尙惜しんでも止まず。

前郡會議員

## 大森信敬君

君は新治郡園部村大字眞家舊き名門家たる眞家家に生る、後ち東茨城郡圷村舊家大森家を嗣ぐ裁判判事となりたる事あり亦縣農會評議員たり公共の事に良く盡し郡會議員、郡會議長、村長、村會議員の要職にあり事數ふるに遑あらず、長男は家事を守り温厚篤實にして村内より信頼厚く尙次男守信君は停車場前に齒科醫院を開業す而して時代の進歩鑑み大に考ふ處あり意を決し大正十年六月齒科醫研究の爲め渡米し大に奮鬪努力研究を了し本年九月を期し歸國の筈守信君の大奮發家なり又頭腦明晰にして研究者たり地方齒科醫として手腕優秀君に勝さる人誰れかあらんと高評。





校長

## 小貫孝通君

君は東茨城郡長岡村大字矢田部の名門家たる小貫家に明治七年九月十九日を以て生る、資性極めて温良篤實にして穎敏の聞へ高し、幼にして學を好む成績良好なるも中學は病氣の爲め途中退校の止むなき不幸に立至り其後勉强檢定試驗を受く幸に優秀なる位置にて合格し石崎小學校校長に就任以來父兄の信頼最も厚く子童の尊敬する處尠なからず當石崎村教育普及し各學校の新築を見たるは君の大に與りて力ありき賞讃する人多し、君の家は世々名主庄屋を勤め擧まれあり、又、君は校長を以て名譽を擧ぐるは孝の第一と尊敬す、

前郡會議員

## 小田倉透君

君は那珂郡上野村大字留野の人、明治三年一月同壺八氏の四男に生る。同廿九年茨城縣税務屬となり麻生税務署檢税係宇都宮税務署詰を經て卅年臺灣に赴任、次で同年十月嘉義縣屬となり卅一年九月蔴荳辯務署へ轉務、同年第一課長となり收入官理兼務、卅四年十一月蕃　薯葵　廳屬、同月税務課長、卅五年通譯兼掌詮衡委員、同六月大日本武德會蕃薯廳地方幹事を命せらる。同八月臨時臺灣土地調査委員囑託、卅六年七月臺北縣屬に轉じ國税係長、同九月地方土地調査委員會委員、同十月衞生及土木調査委員會委員、卅七年二月街庄長事務練習講師、卅八年六月文官分限令第十一條第一項第四號に依り休職を命せらるゝ迄炎熱の地に恪勤將に十年に垂んとす。

越えて四十一年五月には酷寒の地樺太廳囑託となり遠く赴任し會計係となり敏腕を揮ひ居ること五年、四十五年五月囑託を解かれ故山に起臥す。君村民の衆望に依りて大正二年四月上野一級村會議員に當選し村治に努力し或は武德會員、或は赤十字社正社員となり社會事業に貢献し、大正八年遂に推されて郡會議員に當選し副議長として郡政に盡力尠からず同志間に重きを置かれつゝあり。

辯護士

## 小沼操君

君は鹿島郡沼前村大字城ノ內の人、明治七年九月十八日を以て名門たる小沼家に生る、資性溫順にして頭腦明敏、幼年より學を好み同三十一年辯護士試驗に及第して同年水戸市に事務所を設け辯護に應じ大小の事件に辯護人として携はらざることなく辯護士會の副會長、市會議員に推され後ち市參事會員、市會議長に擧げらる。君は亦法曹界に於ける德望家として推賞せられつゝあり。





酒造業

## 岡山昇平君

君は那珂郡隆郷村大字高部の素封家士族岡山次郎左衛門氏の長男として慶應元年五月の出生、代々酒造業たり、釀造の銘酒『花の友』は各地の博覽會共進會に出品して優等賞を受くること數十回に及べり。

君の先代に郷士にして邸宅壯大に庭園は廣く地方の名園、當時の勢力を偲ぶに足る。

君少壯にして儒者笹島氏に就き漢學を修め朋輩の模範たり、僅か廿五歲にして衆望を荷ひ村會議員に當選し爾來再選さるゝこと數回、遂に明治三十六年五月隆郷村村長となり、更に再選され四十三年辭職する迄能く村政を整理し滯納の弊を矯正し村敎育の統一を圖つて學校を併合し校舍を新築する等効績尠からず。本村が優良村として表彰せらるゝ君の力與つて多し。

君村長在職中三十七八年の戰役起り功に依つて勳七等に叙せらる。又三十七年日本赤十字社特別社員となる。大正五年には村民多數に押され郡會議員に推され郡政に盡すところ亦尠からず。

村會議員

## 大山龜之助君

君は東茨城郡大場村舊家なる大山家に生る、資性活潑にして正義の人百般誠意より出でゝ能く村治に盡す土木委員、衛生組長、村會議員の各公職を負ふて一點の瑕瑾なく數十年の間公務に盡す事稀れなる人物として賞讃す君正義を守り惡事を成すものありとすれば切歯捲腕慷概悲憤して飽までも退治せずんば止まずと眞正なる義俠者の一人あてる。

消防組頭

## 岡本儀兵衛君

新治郡土浦町字川口町の豪商にして世々商業を營めり、君は米穀肥料石炭等を販賣して業務日に月に擴大し茨城縣下に於ける商界の名望家として名聲高く消防組頭、銀行其の他の會社等に重役として發展策に參劃せざることなく公共の事業に盡瘁し茨城消防義會の設立に關しては君の力に賴る所蓋し甚大なるべく亦同會の役員として重きを爲し居れるもの故なきにあらず。

## 大塚義次君

君は茨城縣多賀郡南中郷村大字石岡の人慶應三年一月十日を以て生る家世々郷士にして一郷の名門たり父源長君庄屋の職を勤め最も力を公共事業に竭し特に産馬の業國益を興すの基なる事を主唱し久慈郡の有力家中野泰君等と産馬會社を設け大に此の業を奬勵する所あり德望隆々として村民の敬意する所と爲ると云ふ。

君父祖の業を繼ぎ推されて村長となるや恪勤精勵其の職に在ること十餘年終始一の如し現に今猶は村長の職に在り又た郡會議員郡參事會員として地方政の改善に貢獻する所尠なからず明治三十七八年日露戰役の起るや君卒先して公債献金恤兵の事に努力し献身的精神を以て軍人後援の實を擧ぐるを得たり戰後功を以て勳八等に叙せらる君夙に意を村治に留め明治四十年村基本財產として百三十町歩餘の山林を拂へ下げ其中央三十町歩餘を日立礦山發電所用地に貸附百歩餘の土地には植林に著手し其收入額を以て漸次村費を償ふことゝ爲す發電所として貸附けたる料金と將來植林より得べき收入とを以てせば十年の後に至らば村民の負擔を要せざるに至るべしと云ふ其他土木衛生教育等の事業に就ても君の熱心努力に俟つもの亦尠なしとせず。

君は久慈郡久慈町名望家五來瀬一郎君の三女佐和子を娶り二女を生む行方郡麻生町豪家前貴族院議員高崎三重郎君の夫人令弟(醫學士)を迎へて其長女に配す家庭極めて圓滿也。

君は性極めて溫順にして才器あり人に接するに柔和にして能く其志ざしを盡さしむ古英雄の風姿ありと云ふ。

元村長
## 大高富太郎君

君は安政元年四月五日東茨城郡西郷村大字勝見澤に生る明治六年三月勝見澤、下古内の副戸長を命せられ九年二月小坂村副戸長兼務となり二十二年村會議員卅八年六月郡會議員四十四年十二月村長に當選するや熱心と忠實を旨とし產業其他諸般の事業を奬勵し慈善及公共的事業に盡瘁す大正十一年四月日本赤十字社特別社員に列せらる君は溫良の君子にして村内に名望高し長男市太郞君家を嗣ぎ次男熊雄君は海軍機關少佐にして横須賀に勤務し從六位勳五等に叙せられ大正三年乃至九年の戰役の功により旭日小綬章並に千六百圓を下賜さる實に家門の名譽と謂ふべし

前郡會議員
## 大津吉松君

君は東茨城郡鯉淵村大字五平の人、明治四年を以て生る。幼より勉學を積みて村内に圭角を顯はし將來を囑目されつゝありしが、嚴父大介君は區長、學務委員、村會議員、村長、助役、收入役等の名譽職に擧げられ居りしを以て風雲に乘ずるの日を期待されしが、豫想は遂に實現せられて君は嚴父の後を繼ぎ明治四十年村會議員となりしを登龍門として大正九年には郡會議員に擧げられ郡内に其名を馳するに至る。

君は常に生氣潑溂として男子的典型に富み時事を論ずるに當つてや汎發せる議見對者をして首肯せしめざれば已まざるの氣慨と抱負とに富めり之れ君が一面に於ける雄辯家たると同時に又反面に於ける學識家なるを表明せるものと謂ふべきなり。

身農村に在つて勤勉力行せるの傍ら政治興論を會得して所謂政治職業家なるものが國民生活に共鳴する政策を施すなく徒らに自黨の擴張を圖らんが爲め俗惡なる利權を以て純朴なる農民を眩惑せしむるを慨して、政治的生活の興諦に觸れざる可からざる事を力說して政治敎育の任に當れる處に君の片鱗を窺ひ知らるゝを得べし。

君の如く國民に立脚せる政治の立論をなすもの擧世稀に見る處にして所謂隱れたる名士として殊に其名を後昆に傳へざる可からざるなり名家に生れ名門の出として縣會議員たるが如きは蓋し易々たるものなりと雖も現時の如き腐敗せる政界に足を投ずるを避けて專ら自己修養と國民啓發の爲めに貢獻しつゝある之れ國家の上よりして大に敬意を表せざる可からざるものなる事を表顯すべきなり。

前縣會議員 岡崎則雄君

君は那珂郡小瀬村の人明治十六年三月三十日を以て生れ先代より世々醫を業として君の如き實に五代の醫術開業者にして往診に遑なきの盛運に向ひつゝあり縣會議員の總選擧に當り君郷間より推薦せられて候補者となり當選し縣會議員たり。

元村會議員 **小野鶴次郎君**

多賀郡華川村の人、明治五年八月八日を以て生れ、同三十年四月村農會幹事に擧げられ同三十四年十二月茨城縣講農會華川村委員に推さる、同三十七年三月同村收入役に當選認可就職して同四十年まで勤續し、同年日本赤十字社茨城支部多賀郡委員部華川村分會委員を囑託され後ち村社諏訪神社氏子總代となり本年迄十三年に及び同四十四年第五區長、大正二年四月村會議員に當選大正六年四月再選し村治功に勞多し。

衆議院議員 **小山田信藏君**

水戸市大字上市南三ノ丸の人にして東京市本郷區眞砂町十五番地に廣大なる邸宅を構へ居れり、君は言論の人にあらずして敏腕の人、世人の信頼厚く水戸市より衆議院議員候補者として出馬する毎に當選し數回に及び現に政友員に籍を置ける衆議院議員として令名あり。





實業家 **大瀧善次郎君**

那珂郡隆郷村大字高部二千二百二十二番地の人、明治十二年九月二十一日を以て生れ製紙醤油醸造業を營めり、同四十年二月栃木茨城製紙改良同業組合評議員となり尋いで副組合長に當選、翌四十一年八月嚴父の病歿するや直ちに襲名して遺業を繼承し同四十四年五月製紙事業功勞者として同業組合より旌表せられ知事より木杯一組を賜はり、同四十五年五月靜岡縣開設の全國紙業大會茨城縣代表者を囑託せられ大正二年一月産業組合を設立して組合長に選任、同年三月村社諏訪神社氏子總代當選、同年四月産業組合中央會茨城支會評議員當選、同年五月村會議員當選、同年八月埼玉縣開設關東區實業大會代表者囑託、同五年四月製紙工業諮問會々員囑託、同七年六月茨城縣篤農家協議會員囑託、同九年五月茨城縣産業調査會々員囑託、同年七月國勢調査員任命あり現に日本赤十字社特別社員にて明治四十一年四月森知事より實業功勞者として表彰せられまた村會の議決に依り村會議員在職二十餘年に及びし功勞に對し銀杯一個を贈らる。

銀行頭取

## 大窪義一君

多賀郡國分村大字大久保の人にして舊赤門と稱する名家に生る、資性溫良勤勉家にして幼年時代より貯蓄の志し深く現に購買組合を組織して組合長となり今や全國有數の產業組合を以て誇れるが是れ蓋し君の敏腕に俟たざれば到底今日の隆盛を致さゝるなり、君は資本金壹百萬圓の多賀銀行の頭取として大適任者なりと推賞せられつゝあるもの故なきにあらず殊に公共事業に盡力し私財を投せしと枚擧に遑あらざる程なり。

元助役

## 大金三雄三君

久慈郡賀美村大字大菅一番地の人、慶應元年七月六日を以て生れ農を業とす、明治三十三年村會に於て滿場一致助役に推され認可就職以來村治に鞅掌す、君は性溫良にして辯舌爽やかにし交際場裏に於ける拔目なきの人と云ふを憚からず君は又敎育に熱心にして令息令女共中等敎育を優秀にして卒業す尙植林に志し今や何百町步余の杉松等の植林を成し隆々して家庭圓滿人の敬ふ處なり。

前列左より一番(大關一君)

故

## 大關一君

栃木縣那須郡境村大字小木須の人、明治十二年八月を以て生れ東京慈惠院醫學部卒業後同三十六年鄕里に醫師を開業するや門前市を爲すの盛況を呈す偶ま茨城縣那珂郡隆鄕村有志村內に醫院の設けなきを嘆じ轉地開業せんと勸む、君遂に意を決して之れに應じ轉住して開業し村醫、學校醫として村內の醫事に力を盡し傍ら檜澤村醫、學校醫を兼ね名聲日に擧り大正九年郡會議員に當選したるが同十一年七月病を得て遂に起たず惜むべし。

村會議員 **大澤源七君**

那珂郡額田村の人、明治二十四年四月一日を以て生れ、先代より茶業を營み居れる豪商なり、君は資性温良にして頭腦明晰、村民の推薦によつて村會議員に擧げられ同郡に於ける少壯議員なり、君は又人に接するに懇切叮嚀なるを以て信頼厚く益々奮闘努力し將來は有爲の人格者として崇拜するものである

素封家 **小栗東五郎君**

眞壁郡小栗村の名門に生れ世々里正たり資性温良にして小栗の且那と稱せられ公共心に富み私財を投じたること尠からず世の所謂素封家と大に趣きを異にす、君の嗣子は醫師を業とし門前市を爲すの隆昌を見つゝあるもの君の手腕の凡あらざるものあればなり。

村會議員 **小田野虎之介君**

那珂郡柳河村大字上河内の人、慶應二年十月六日を以て生れ、農事丹精家にして水利組合議員、區長、村會議員等の公職に擧げられ正直堅固の人なり、故に村民擧つて敬服す又公共事業には資金を投じ加之ならず良く奔走力尠からずと讃す。

元郡會議員 **小田切貞吉君**

多賀郡關本村關本停車場前に運送業を營めり、君は福島縣士族にして明治初年多賀郡平潟町に轉任し町會議員、郡會議員に擧げられ町治に盡瘁せり、資性温厚篤實にして經濟の方に富み資産裕かなると共に公共の事業に盡力するところ尠からず同地方稀れに見るの名望家なり。

## 醫師 村會議員 大久保甚一君

島根郡美濃郡吉田村下本郷七百五十九番地の人、明治十六年二月二十二日を以て生れ醫術開業試驗に合格して醫師となり多賀郡北中郷村大字磯原三百六十番地に現住して開業し現に村醫を兼ね勉强家にして敏腕の聞え高し。

## 産業家 小沼相輔君

君は鹿島郡鹿島郡偽宿村大字大戸の素封家に生る資性深志剛毅、常に地方開發に留意し現に葡萄栽培の適地にして利多きに囑同し甲州地方の同業者と圖り葡萄園數丁歩を殖栽し益々勸誘奬勵に努めつゝあり。

君は又馬匹の農家に缺くべからざるを見て各一頭飼育を奬勵し東野産馬株式會社を組織して頭取となる年々國立栃木產馬局より種牡馬の無償貸付を請ふて蕃殖に努め今や鹿島行方東茨城地方に於て生產馬匹三百有余頭に達し每年雛市場を開いて賣買し其產額亦大なり。君は獨り產業の發達を圖るのみならず公共事業に對しては進んで事に當るの人地方發展の爲將來大いに手腕囑望されつゝあり。

## 小川直人君

君は水戸市大字細谷の士族、明治三年十月廿二日の出生、祖先は水戸藩に仕へ祿高三百石を食む。君明治廿七年本縣師範學校を卒業し直ちに那珂郡菅谷村外三ヶ村組合高等小學校訓導となり、仝卅年仝郡戸多尋常高等小學校訓導を經て、同卅一年水戸市高等小學校に轉任し爾來大正元年十一月迄十五ヶ年間市敎育の爲めに盡瘁し、同年十二月拔推されて鹿島町尋常高等小學校長となり赴任し、同町敎育の爲め一意專心盡力しつゝあり。

君水戸市に在りては育英事業の傍ら歌道の奬勵に力を注ぎ同志と共に謀り水戸鶯蛙會を起しその普及に努めたり。

## 故前郡會議員 鬼澤吉之介君

君は那珂郡戸多村大字田崎の人舊名門鬼澤家に生る資性快活にして辯論卓舌衆に勝れたり君は壯年の時代煙草仲買仝製造業を營み各地に輸出販賣廣く平、相馬、仙臺に渉る大販賣輸出の折は編者も同業者にして好く交りを結び其後煙草專賣局に移る、君は春秋富める身なるを以て村民より良く敬意を受くる從て區長、村會議員、村長、郡會議員に擧げられ村治は勿論の事郡會々議の席上に於て名論卓舌多數議員の膽寒むからしむ加之ならず郡道郡有財產等に至る迄盡瘁せられたり最も生命は神力の及ばざる者にして病に罹り不歸の客となる。噫々悲哉

縣會議員 小峯滿男君

水戸市大字上市備前町三十五番地の人明治十三年七月十八日を以て生る、辯護士島村次男君の令弟なり後ち出でて多賀郡松原町酒造業小峰家の養子となり町會議員に推され大正八年九月縣會議員に當選し憲政派の重鎭たり、君は尙は多賀郡是製糸株式會社取締役、松原病院取締、高萩商事會社取締役、久慈電氣株式會社取締役、茨城電力株式會社取締役、多賀銀行取締役等を重ね居れり。

青年會長 **大高丑松君**

君は明治十年十一月廿三日東茨城郡西郷村大字勝見澤に生る資性温厚篤實寡言にして職務に勵精す本村收入役として稅務を掌り克く財政を整頓せり納稅者に對しては懇切を旨とし村民の便宜を圖り事務締逹の聞え高く亦部落の青年會長として青年を指導し公共事業に寄付をなし木杯等の賞與を受く行動著實にして村內に信望なり地方稀に見る篤行家なり。

醫師 **奥村正春君**

君は行方郡津澄村の人東茨城郡石塚町大字石塚に開業し好評を博せり石塚町醫小松村醫那珂郡大場村醫たり內外科とも妙技を以て知らる仁術者として衆皆敬報せざるはなし故に門に市をなす出入の人多しそれ君の誠意によればなり今やこれによりて觀る時は將來大醫たらん事を期待するものである。

郵便局長 **岡崎正君**

君は明治十九年二月十五日東茨城郡石塚町大字石塚に生る明治三十七年三月縣立農學校を卒業す三十八年三月宇都宮郵便局通信講習所卒業七月石塚郵便局通信事務員となる大正六年四月石塚青年會長となる父左一郎死亡して六年十月石塚郵便局長となる大正十年四月町會議員に當選大正六年一月本縣警察部より消防小頭を命せらる資性著實にして總明實業に志し北部に於ける產業の開發を以て任し廣木耕守等と共に石塚繭糸場を開設せり少壯有爲の人材を以て目せらる。





故 **岡野傳介君**

君は那珂郡大宮町の人、全町のみなら同地方に於ては稀れなる小間物の豪商にして香水油化粧品を販賣し多くの顧客を有する老舗たり。

君性至つて溫和にして良く人を愛し半面には弱きを援くるの俠氣ある、君町民の輿望を荷ひ大多數を以て全町收入役に擧げらるゝやよく町務に精通して繁餘の事務を整理して滯る無し、將來益々君の手腕に俟つべきもの尠なからざりしが惜しい哉今や幽明堺を異にして再び君の溫顏に接する能はず。噫

元郡會議員 **岡部理兵衛君**

久慈郡佐都村大字白羽の人、元治元年十一月を以て名門岡部家に生る、資性溫良、世々村役を勤め德望家たり、君亦公共の事業に力を注ぎ明治二十八年村會議員、同四十年九月三十日郡會議員に擧げられ郡治に盡するところ鮮少にあらず、又同郡東河內に於ける名望家齊藤鉄之助君實弟を以て其の家を嗣ぐ、君も亦中學を出で農業に從事す、勤勉家にして家庭圓滿、人賛讃せざるはなし。

元郡會議員 **小峯榮君**

栃木縣那須郡下江川村大字志島五十五番地の人、明治六年十一月二十五日を以て生れ多賀郡平潟町に現住し醫術を開業し町會議員、町醫、學校醫等となり大正四年九月二十五日郡會議員に當選せり、君は資性溫厚篤實にして人に接するに城壁を設けず家運益々隆昌なり。

元郡會副議長

## 小薗泉一君

君は久慈郡郡戸村大字花房千九百十三番地の人、明治二十三年十月十七日を以て生れ酒造業を營む、嚴父拾吉君は意志堅實事に當つて百折撓まず事を成さざれば已まざる底の人なり、君も亦父君の血を享け信頼厚く久慈郡會議員に當選郡會副議長となり、其の他日本赤十字社特別社員、久慈郡酒造組合副組合長、村會議員、消防組頭、株式會社礒原銀行監査役に擧げられ日本赤十字茨城支部病院建設に際し金壹千圓、郡戸村駐在所電話架設費中へ金百五十圓を寄附し其他公共の事業に私財を投じたる事尠からず、君の家什として祖先傳來の幅物あり且つ數代前より傳はれる手洗石と稱する班石は圓形三尺立方百貫匁あり。





元縣會議員

## 大貫龜吉君

西茨城郡東那珂村大字羽黒の人、明治三十六年始めて池龜山の巖脈を拓いて京濱地方に石材を搬出し常陸産花崗石の名聲を博するに至れり、君は嘗て縣會議員に推されて議政壇上の人となり資性溫良にして信頼厚く目下東京新宿停車場前に支店を置きて石材の販路益々擴がり花崗石を全國に紹介して今日の隆盛を見るに至りしも實に偉なる力に依るにあらざれば到底爲し得られざりしなり

町會議員

## 大和田健三郎君

猿島郡幸島村の富豪にして名門たる渡邊盛作君の家に生る、資性溫良人に接する極めて親切町民、後ち新治郡石岡町の名家大和田家を嗣ぎ醬油釀造業を營み其の量數萬石に上り今や茨城縣下唯一の釀造家を以て目せられ東京其の他各地に販路を擴張して名聲益々昻る、君はまた公共の事業に力を注ぎ毎次に縣會議員候補者に推さるゝも辭退し其技倆は貴衆兩院議員に適當す。

元縣會議員

# 大串浩君

結城郡水海道町の人、元治元年二月十日を以て筑波郡島名村の根本家に生れ、幼にして漢籍を學び長じて早稲田專門學校に入り法制經濟科を修めたり、君は最も難村たりし同郡上郷村長に聘せらるゝや大に治績を擧げ滿期退職後結城郡豐田村及び同郡水海道町より數次郡町村會議員、縣會議員に推され郡參事會員となり其の間常總鐵道其の他の公共事業に盡力して銀盃賞狀等を授與せられし事尠からず、君は明治三十四年より基督教信者となり卒先して酒禁會を組織し之れが會長として禁酒禁煙の實行的模範を示し每に風紀の改善に努め青年の指導に怠らず目下蓬萊無盡株式會社常務取締役、常總運輸自働車會社取締役兼會計、水海道銀行囑託員、水海道町常設委員學務委員等の要職にあり、養子郁三郎君は齒科醫學士として同町臺町高燥の邸宅に開業し地方信頼厚し。





前縣會議員

# 太田重正君

西茨城郡北山內村大字片庭の人にして東都に出で農學を研究し後ち農業技師として新潟縣に職を奉じ辭職歸鄕後村民の輿望により村會議員、郡會議員に擧げられ郡會議長となり尋いて縣會議員選擧に立候補となり大多數を以て當選すること二回、縣參事會員となれり、君の家は名門にして且つ資產家なり、常に公共の事業に傾注して私財を投じたること尠からず村民の信頼厚く前途有爲の人物なり。

前郡會議員

# 大森大次郎君

那珂郡隘鄕村大字高部の名望家にして曩きに高部郵便局長たりしことあり現に村長郡會議員、村會議員其の他の名譽職を帶び村民の尊敬を拂はれ居れり、君の家は久慈郡大子町大字上岡の名門にして資產家たる永瀬清君とは緣の兄弟なるが其の家庭の圓滿なることに於て世上の羨望の標的となり居れり。

町務委員

# 大森千代太郎君

水戸市大字下市の名門大森家に生れ幼にして學を好み長ずるに及びて頭腦明晰刺繍師を營み明治十八年中大字上市泉町一丁目に居を構へてこれに移り誠心誠意業務を勵み家運益々隆昌[illegible]め町民の信頼厚く現に町務委員として盡力し家庭の圓滿なる人の羨む所なり。





水戸下市郵便局長

# 大津金兵衛君

水戸市大字下市本一丁目の人、明治十一年十二月十八日を以て生る、家世々商を營み資性溫和にして穎敏商才に富めり、同二十七年四月水戸下市郵便局長となり現に其の職に在り同三十六年家督を相續して吳服太物商を營む井金本店は其の稱號なり、同三十七年三月水戸市區會議員、同年四月市會議員、同三十八年一月水戸市吳服商組合副組長となり同四十一年一月三十七八年戰役中郵務に盡したる功に依り金貳拾圓を下賜され同四十二年五月水戸商業會議所議員、同四十三年七月水戸市水道委員として盡力したる功に依り銀盃を贈られ大正元年十月水戸市會副議長となり同二年七月水戸商業會議所常設委員に擧げらる、君は趣味の人にして謠曲は最も長所とせり。

元村長 **小貫源治君**

多賀郡日高村大字小木津の名望家にして且つ舊家なり、世々庄屋組頭等を勤め君も亦其の後を襲ひ王政維新後明治六年副戸長となり區長、學務委員、助役、村長等の公職に擧げらる、君の令嗣豊吉君同家を相續するや村會議員に擧げられ助役に當選認可就職し後ち滿期退職となり、同家の庭内に松の古木あり水戸義公御巡遊の隆篤を枉げられ御手植ゑ遊ばされしと傳ふ以て地方唯一の名門たるを窺ふる足らん。

町會議員 **大坂辰之助君**

多賀郡櫛形村大字伊師の人にして同郡豊浦町大字折笠七十七番地に居住す、夙に乾鮑製造業に志ざし製造法の改良、業務の發展を圖るを以て販路大に開け各地の博覽會、共進會等明鮑炭鮑其の他の海産物を出品して金銀賞牌等を受領し爾來關東に於ける有數の海産商を以て鳴るに至に巨萬の富を積み町會議員、學務委員、漁業組合理事、村社氏子總代等の公職に推されし等君の如きは實に立志傳中の人と謂つべきなり。





元村長 **小沼新平君**

行方郡立花村の人、資性穎敏にして人格崇高の士なり、君は村長、村會議員等の職にあり教育の普及、村治の改善、役場廳舍の新築等に盡瘁したること多く、君の家は世々名主を勤め其後を嗣いで名聲高く正義廉潔にして家名辱めざるもの故なきにあらず。

町付郵便局長 從七位 **大森監君**

久慈郡黒澤村大字町付百十六番地の人、文久三年八月二日を以て生る同地方の門閥家なり、君は村會議員、戸長等の公職に擧げられしことあり現に町付郵便局長として郵務に鞅掌し地方稀れに見る溫厚篤實の士なり、平素共公の事業に傾注し數百圓の私財を投じたる等社會奉仕を爲し居り聲望高し。

法學士 辯護士 **小薗江重君**

水戸市大字上市寺町の人、明治二十三年一月十五日を以て生れ、第二高等學校を出でゝ東京帝國大學法科に入り卒業、後ち辯護士となり東京市本郷區湯島天神町二十二番地に居住して辯護士事務所を開き名聲天下に高し、君は大學法科卒業後何に入にも寄らすして直に辯護○を開業し今や高評を博するに至りしは特に穎敏聰明の噂さ高しと云ふ。

前村長 **小野瀬英君**

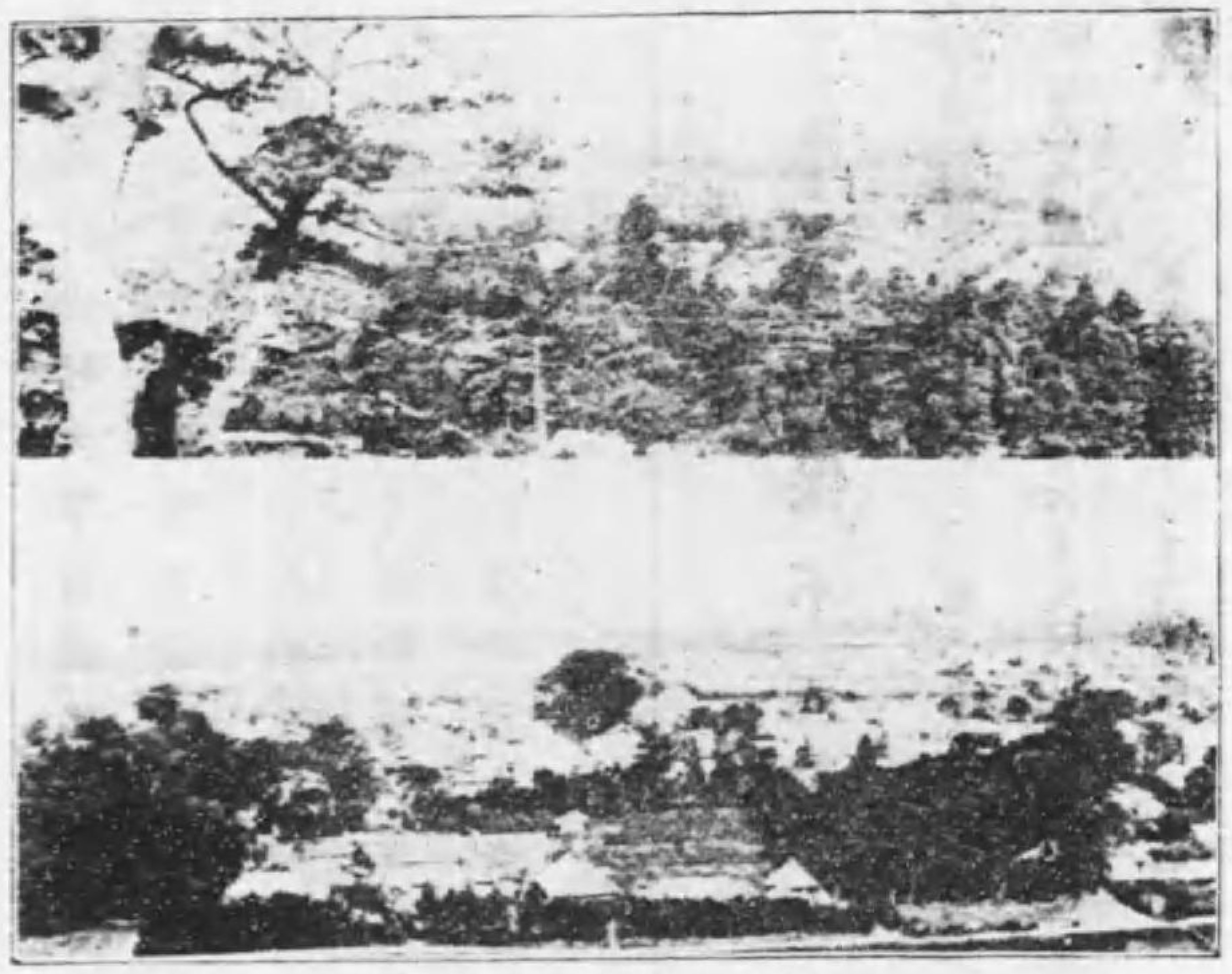
久慈郡下小川村大字西金の人、門閥家にして嘗て村長の職に在り村民の信用厚く活潑なる氣象にして大に論じ、大々和解するの人なり。

豊浦町長
勳七等 大津博君

多賀郡高鈴村大字助川四番地の人、明治二年六月十一日を以て生れ中央大學法律科を修めたる後同郡豊浦町大字折笠五十番地大津姓を冒し爾來立憲政治の發達と町村自治の改善に努め町會議員に當選すること數回名譽職を勤續する實に二十餘年現に町長の職に在り茨城縣町村長會評議員たり、君は一回教育の普及に熱心の往年獨力にて地方少女のため私立大東女學館を經營せしことあり現時同町教育會長並に圖書館長を兼ね嘗て漢詩を手塚陽軒、小川五江兩師に學び痩鶴と號し絶句に妙あり、君は人格高尚にして德望近郷に普ねく町民の信頼厚く助役、學務委員、農學長、村社氏子總代等の公職に舉げられたるもの亦故なきにあらず。







(松原町高萩の全景)

前町長 大高馬次君

福島縣菊多郡山田村大字小山田字戸の内の人、明治三年二月二十三日を以て生れ現に多賀郡松原町大字安良川大高家を嗣ぐ、資性剛爽豁達夙に意を地方の開發に注ぎ教育、勸業、社寺、衛生、土木等の各事業には熱誠之れに當り多賀郡是製糸株式會社常務取締役、常陸製糸株式會社取締役、松原信用組合長、多賀郡蠶業共同組合聯合會長、町長、町會議員、多賀郡農會副會長等に舉げられたり。

長倉郵便局長 **大森勝之介君**

那珂郡長倉村大字長倉の人、資性温良にして人に接する城壁を設けず、殊に懇切叮嚀、長倉郵便局長として事務に練達し、同地方の通信機關として常に刷新改善を圖りつゝあり近代稀れに見る人格者たり。

元代議士 **大久保不二君**

筑波郡高道祖村の名門家にして嘉永五年十月三日を以て生れ後ち結城郡中結城村大字菅谷大久保林左衛門君の養子となる字は悉、菅村と號し博學にして戸長時代より戸長、村長、村會議員等の公職に擧げられ嘗て衆議院議員に當選せし事あり漢詩、俳句に長じ無門漢、凸凹庵等は君の俳名なり。

村會議員 **小瀬三郎君**

那珂郡玉川村大字東野の人、同村大字宇留野所介君の三男にして温厚篤實、常に青年の模範として推賞さる、同三十八年東都に遊び東京電氣鐵道株式會社員となり二ヶ年にして職を辭し歸鄉同四十一年小瀬東之介君の養子となり大正八年同村に消防組を設置せらるゝや選まれて小頭となり大正十年村會議員總選擧に當り候補者に推され最高點を以て當選村會議員中の少壯議員にして前途有望の青年たり。

村會議員 **大森松太郎君**

那珂郡大賀村の人、勤勉家の聞え高く家庭圓滿にして蓄財の志あり、先代より村會議員區長其の他の要職にあり現に村會議員として村治の改善を圖り公共の事業に資財を投ずる事君の平素快よしとなし將來有爲の人物たらん事を期待するもの也





村會議員 **太田周吉君**

西茨城郡北山内村大字片庭の人、明治八年十二月二十八日を以て同地方の名門たり、君は敏腕の聞え高く常に社會事業に奔走するより村民に尊敬され、氏子總代、土木委員、學務委員、宅地價修正委員、村會議員、助役等の公職に擧げらる、嘗て村長に推薦されしも君は固辭して受けず人格者を以て推賞せらる。

前助役 **大部三之介君**

久慈郡世矢村大字小目の人、文久二年一月二十五日を以て生れ同地方の名門なり、資性溫順にして敏腕家の聞え高く、區長、村會議員、助役等の公職に擧げられ、村治に盡す所尠なからず、村民の信賴厚し。

村長 **大津信正君**

久慈郡譽田村大字馬場の人、慶應三年四月二十三日を以て東京小石川に生れ稅務官吏として各地に歷任し專賣局技師に榮進するに及び本局、水戸專賣局等に職を奉ずること多年、今や鄉里にありて專ら村治及公共の事業に盡瘁し現に村長として尊敬を拂はれ居れり。

前縣會議員 **大和田熊太郎君**

那珂郡前渡村大字長砂の人、慶應元年八月十九日を以て生れ明治二十五年四月同村役場書記となり同三十一年五月村會議員、同年六月學務委員、同三十二年郡會議員、同三十六年十月郡會議員再選、名譽職郡參事會員、同三十九年四月村長に推薦されまた村農會長として農事の改良を圖り郡農會評議員をも兼ねしが大正九年九月縣會議員選擧の際有志の推薦に依つて出馬し當選して議政壇上の人となり、君資性温良にして郷閭に崇敬せらる。





町會議員 **小川定次郎君**

君は那珂郡湊町の人、明治十三年一月八日を以て生れ、多賀郡平潟町に住し船具商を營めり、君は町會議員、漁業組合長、消防組小頭、區長等の公職に擧げられ資性温厚篤實にして信用厚し。

町會議員 **小野儀八君**

福島縣石城郡平町字五丁目十四番地の人、明治八年十月二十七日を以て生れ多賀郡平潟町に住居して呉服商を營めり、豪商にして町會議員に擧げられ煙草元賣捌人の指定せられ居れり、君は資性温厚にして信用あり。

元村長 **大須賀武次郎君**

久慈郡染和田五大字西染の人、明治十四年四月十七日を以て生れ世々農を業とす、君の祖父惣次衛門君は西染の庄屋を勤め、嚴父宗之允君は人民總代、土地區劃改正委員、地押調査員、區長、村長、村農會長、村會議員、收入役、助役たりし事あり、病歿後君其の跡を襲ふて村長、村會議員、村農會評議員、農事改良委員、煙草耕作總代、學務委員、青年團長衛生組長、貴船神社氏子總代、村農會副會長、國勢調査員等に擧げられ公共事業私財を投じたる事頗る多し。

大日本氣象協會理事長

# 大津精一郎君

（左）大津精一郎君（右）山形萬次郎君

多賀豐浦町大字折笠の名門の家に生れ嚴父精三君の如き三十歳にして縣會議員に擧げられ常置委員となり明治二十八年の通常縣會に於て緞帳事件の大紛擾を惹起したる時の如き侃諤論鋒を以て當局者の心膽を寒からしめたる豪傑肌の人たりしなり、君は其の後を嗣ぎて帝都に出で大日本氣象協會理事長となり其の他種々の事業に盡瘁するため君の人格を崇敬せざるもの尠なし。

前村長

# 大谷新介君

那珂郡勝田村大字勝倉の人にして門閥家なり君は町村制實施の當時より村治に盡瘁し殆んど一世を村治に委ね村長以下の名譽職に擧げられたる元老にして一旦決心したることは如何なる難關あるも必ず貫徹せざれば己まざる体の人なりが故に村民の常に敬服するところなり。

元町長 **大津福二郎君**

多賀郡黒前村大字山部の人、明治十年四月十六日を以て生る、樫村良三君の二男にして同郡豊浦町大字折笠八十二番地大津淳三君の養子となる、醬油釀造業を營み町長、町會議員、區長、學務委員、村社氏子總代、消防組第三部長等の公職に擧げられ資性温和なり、

村會議員 **大友卯之松君**

多賀郡南中郷村大字石岡九番屋敷の人、慶三年九月二十九日を以て生る、農を營み大正六年五月十九日村會議員に推され同十年五月十七日滿期、同十八日再選今日に至れり、君は性温厚篤實にして辯論家たり。

名士 **大津　宏君**

多賀郡豊浦町大字折笠の素封家にして世々庄屋名主等を勤めたり、君は戸長村長所得調査委員等に擧げられ嘗て縣會議員に當選し徵兵參事會員となり縣治に盡瘁す、後ち帝都に移りて邸宅を構へ巨萬の富を積んで風月を友とし悠遊自適晩年を樂み居れり。

村會議員 **大越貞三郎君**

多賀郡北中郷村大字木皿三十七番屋敷の人、嘉永六年正月二十五日を以て生れ農業を營みつゝあり、區長、村會議員等の公職に擧げらる、君は經濟家にして農事に精勵す。





町會議員 **大内萬次郎君**

那珂郡平磯大字磯崎の舊家にして明治七年四月七日を以て生る、資性温良義侠の心に富み强を挫き弱を扶くるの氣骨あり町民の信頼厚き故なきにあらず、現に町會議員として町治に力を傾注しつゝあり。

磯崎海岸

前町會議員

## 大高朝君

君は多賀郡松原町大字島名の人、明治十六年十一月二十九日を以て生れ同地方の門閥家なり、君性溫良にして曾て町會議員に推され將來有望の人なり。

村會議員

## 和田與七郎君

多賀郡北中郷村大字豊田二十番地の人安政二年十二月二十五日を以て生れ農を業とす、資性溫良にして村會議員に擧げられ村治の改善發達に努め村民の信用厚し

村長

## 渡邊龍之介君

那珂郡國田村大字下國井の人、陸軍中尉渡邊勝太郎君の實弟にして勝太郎君亦村治の改善發達に心を致せり祖父の代より村役を勤め門閥家たり君其の後を繼いて着實に農業を勵み嘗て村長に擧げられ村民の信頼厚し。





郡參事會員

## 和田孝造君

君は久慈郡河內村大字町屋の人、明治十九年四月一日を以て生る、嚴父八郎君は同村に於ける名譽職に擧げられ同三十七八年戰役の當時村長に當選就職して村政の傍ら各種の事業に盡瘁し平和克復の後勳章を授けらる、君は其の後を嗣いて各種の事業に心を傾け公共の事業に私財を投じたること尠からす、郡會議員に當選郡參事會員に擧げらしもの故なきにあらす父子共に日本赤十字社特別社員たり、先年大町桂月氏來遊して書室を拜山堂と名づく左に

大正九年春。余宿和田孝造君家。庭及隔居頽一山直立。恰如屛風。巍巖千仞。奇松点綴。嵐氣逼人。余甚賞之。君父隱棲其山下。君之拜山即拜父也。

桂　月

水戸泉町郵便局長

## 綿引仙三郎君

眞壁郡村田村の名門家に生れ後ち綿引家を嗣ぎ水戸市大字上市天王町に居住す、資性穎敏頭腦明晰にして人に接する懇切叮嚀、水戸泉町郵便局長の椅子空虛となるや君推薦せられ其職に就き爾來郵便事務其の他百般の事業に心を傾注し郵便局長は最も適任なりとて公衆の信賴厚し。

元郡會議員

## 渡邊覺太郎君

多賀郡關本村大字西丸の人、明治二十六年區會議員、區長に當選、後ち村會議員郡會議員村長等の要職に在り、村治の改善發達に努む、君は地方唯一の豪農にして直接國稅三百五十餘圓を納む同村は由來馬の產地にして二百餘頭あり、君亦牧畜を奬勵す君は水戸市選出縣會議員神永千代吉君の從弟にして屢々縣會議員候補者に推薦せられしも固辭して受けず前途有爲の人物たり。





多額者納稅

## 渡邊盛作君

猿島郡幸島村の人資性溫良篤實にして穎悟敏捷の豪俠者たり故に衆人の敬ふ處にして君は人に接するに溫容又は毫も城府を設けず實に平民的なり又暴徒を壓し弱きを援助す益々權門家たるを以て人の敬服する處なりと云ふ。

前郡會議員

## 和田將作君

君は久慈郡久米村大字久米の人、文久三年一月十一日を以て成井家に生れ同村大字芦間和田源之助の養子となる、資性溫良にして產業組合中央會茨城支會評議員、農事改良委員、村會議員、區長、郡會議員、水府煙草生產同業組合長等の要職に擧げられ煙草耕作の奬勵の如き君の最も努力せる所なり、君は大正七年十一月常總野の陸軍特別大演習擧行に付　大元帥陛下栃木縣宇都宮に行幸あらせられ實業功勞者の成績奏聞するや君も亦實業功勞者として左の御沙汰ありたり。

農業　　久慈郡久米村　　和田將作

資性著實夙に意を農事の改良に勵まし青年學會を起して農事智識の啓發に努め養老會を設けて醇厚の俗を養ひ信用組合を組織し堆積肥料傳習會諸種品評會を開き又葉煙草の改良に力を盡し模範耕作者として賞を受くること數回功積顯著なり

前郡會議員

## 渡邊幸次郎君

君は邦珂郡國田村大字下國井の人にして村會議員に擧げられ後郡ち會議員に當選公共の事業に盡瘁せり、君は蠶業に熱心にして村内に於ける當業者に養蠶の指導を行ひ同地方の養蠶業を勃興もしめ毎年多額の收繭を得るに至れるもの實に君の手腕に依る所多く資性堅實にして蠶業の改善發達に君が畢生の事業たるを憚らず

町會議員

## 渡邊德太郎君

稲敷郡江戸崎町本町の人、資性温順にして旅館切半樓の主人なり、構造の宏大且つ客に對する待遇の良好なる江戸崎の切半樓と云へば知らざるものなく日に月に隆盛を極めつゝあり、君は正義の士にして名譽職に擧げられ町務に盡瘁するより町民の信頼厚く公共の事業に資を投じて賞を受けしこと尠からず。





郡會議員

## 和田熊次君

君は多賀郡松原町大字秋山士族豊田兼壽君の實弟にして明治五年二月二十八日生る、資性温和にして人望ある同村大字豊田和田藤七郎君の養子となり區長、村會議員、郡會議員等の要職に就き村民の信頼厚く公共心に富み郡村治に盡瘁したる功勞著大なり

前村長 故

## 綿引英君

那珂郡玉川村大字東野の人、幼年時代より穎敏にして明治九年地租改正の當時筆生となり後ち引續き書記、助役となり村民大多數にて村長に當選就職村政を執ること三十年間の長きに亘り何等の過失なく職務に忠實なる村長として推賞せられたるも不幸二竪侵す所となり遂に起たず惜むべし。

呉服老舗 伊勢甚號

## 綿引幾太郎君

水戸市大字上市泉町一丁目の人、明治二十四年八月二十七日を以て生れ、舊藩時代よりの老舗にして水戸の伊勢甚といへば知らざる者なき豪商なり、資性正直商品の堅きは同舗の特色たり。

勳八等 **渡邊鑑之介君**

水戸市大字下市の人、慶應三年十月二十九日を以て生れ舊水戸藩士にして江戸小石川水戸邸に於て常府勘定奉行三百石を領したる渡邊富之進君の三男にして税務官吏、檢査員の職を奉じ署長として十二年間勵精す、日露の戰役舊に復するや税務に盡力したる廉を以て勳八等を賜はり曩きに東茨城郡大貫町長に聘せられ町の發展を圖れり。

造家 **渡邊惣衛門君**

水戸市大字馬口勞町二千二百八十六番地の人、同町の名門にして酒造業を營み銘酒『好文』の販路日々に擴大し辰巳屋はその店舖の稱號なり、君は早稻田大學出身者にして俊才にして營業税調査委員に擧げられ現に東茨城西茨城酒造組合長たり。

元村會議員 **和田昌君**

久慈縣山田村大字和田四十六番屋敷の人、明治元年八月十六日を以て生れ地方の名門なり、資性溫厚にして村會議員學務委員、區長等に擧げられ村治に貢献せり、

前消防組小頭 **和田源之助君**

多賀郡平潟町四百七十三番地の人、安政四年十月二日を以て生れ貸座敷業を營み三業取締、消防組小頭等に擧げられ信頼厚く後ち小頭を辭任せるも依然として三業取締たり。





學務委員 **和田亥之吉君**

多賀郡北中鄕村大字豊田二十二番地の人、安政三年四月十五日を以て生れ農を業とし學務委員にして名望あり公共の事業に私財を投せしこと尠からず信用厚し。

君は學務委員に擧られ敎育の普及に力を致し敎師を訪問し進歩を計り盡瘁尠からずして衆の敬ふ處なりとす。

故 **綿引三郎兵衛君**

東茨城郡飯富村の人、甞て屢々區内より推されて村會議員及び區長たりし事數回ありたり、今や幽明境を異にすと雖も往時を追懷すれば君が勢力多大にして村事に貢献せし事を少しとせず又賢子竹松君は村治に良く盡し衆望厚く將來は村内に於ける人格者として賞讃せるもの多し。

村長 **綿引重正君**

東茨城郡飯富村大字飯富に生る多年村長として村治に努力し日露戰役の功に依り勳八等に叙せらる村農會長を兼ね農事の發達を奬勵す資性溫厚頗る謹直にして鄕閭にて信望洽し該村の如きは人物多く難治の稱あるに平和の象あるは君の如き手腕と德望の然らしむ所ならんと世評さる。

村會議員 **綿引三郎衛門君**

東茨城郡飯富村大字飯富の人、現に村會議員、區長代理者たり甞て氏子總代や協議員たりし事もあり村内の有力者にして信望高し資性溫良にして極めて溫和なり村内に於ける德望家にして權門家たり。君の本村に勢力又偉大にして將來共全く崇拜すべき人物であると讃賞して止まざらん。

前村會議員　**綿引金次郎君**

東茨城郡西郷村大字下青山の名門なり、安政五年二月廿六日を以て生る、念頭農村の振興を圖るを離れず村長に選ばれ就職するや廿五年勤續功勞者として郡衙より表彰され村治の功績多大なり曩に村會議員にも選ばる、現に下青山區長として公事に盡力しつゝあり地方に於ける人物なり。

青年會長　**河原井松次郎君**

明治十年二月廿日東茨城郡西郷村大字小坂に生る、少壯有爲にて才幹を有し小坂青年會長として部落の青年を指導し役場書記としては就學の奬勵をなし成績顯著なるを以て郡教育會より一昨年表彰を受く事務家としての評あり。

村長　**加茂川兼太郎君**

君は東茨城郡石崎村大字上石崎の人、資性極めて溫厚篤實にして幼年時代より頭腦明快、文筆衆に勝れ、長く村治に盡瘁す、書記より助役、村長と勤續す百般の事務に鞅掌す。

君は當村役場に於て是非留任を希望する人多く君は無言實行の敏腕家なり、誠心正義なるを以て村民の多く歡迎する處なり。

君益々努力奮鬪して村治に盡し村の發展を希望するものである、村の發展は村長の手腕によるもの君の名譽は又社界改善の上最賞讃して止まざらん。





町長　**海田英一君**

君は茨城縣龍ヶ崎町株式會社龍ヶ崎町農商銀行の創立者にして頭取たる海田市兵衛氏の次男なり明治十五年一月一日を以て生る、幼にして頭腦明快、東都に遊學し明治大學、日本大學を卒業し高等專巧科を修め、明治三十七年日露戰爭に際し決心兵役を志願し凱旋して陸軍三等主計に任す、正八位に叙せらる、明治四十年都門を辭して鄕に歸り、爾來龍ヶ崎町々會議員、稻敷郡同郡會議員、同郡會副議長、下利根川小貝川沿岸水害豫防組合、牛久沼普通水利組合其他の職員又は委員となり盡瘁する處尠なからず、後ち大正二年龍ヶ崎町町長、同農會長、同地主會長、大正四年茨城縣々會議員名譽職參事會員を經て大正八年再び龍ヶ崎町々長として現職にあり、夫人浪子又賢婦の聞へ高し、家庭圓滿の間に一女を擧げ側ら砂糖小麥粉類の販賣業を營み前途尙春秋に富む。

郵便局長　**鴨川治三郎君**

君は東茨城郡大貫町の名門家に生る、幼年時代より勤勉の志に富み名望を避けて專ら實業方面に力を注ぎ明敏なる頭腦に依つて計畫せるの事業は着々として彼岸に達し、機を見る事敏なる君の手腕は巨萬の財を積んで自から其名を高むるに至り、各種の會社に重役となり殊に茨城電氣株式會社に於ては永年の功勞者として取締役に推されて重鎭たるは世人の悉知する處となり。

斯く財界の覇者として縣下に其名宣傳さるゝ君は又博愛慈善の志深く常に私財を投じて社會救濟の本務を全すゝを樂むが故に町民擧つて君の德望に服し崇敬の府となる過然に非ざるなり。永年郵便局長の職にあつて官民の間に奔走し利便幸福を與へたるもの尠からざるも亦君が公共心の厚きに基因するものにて眞に得易からざる人材といふべきなり。

郡會議長

# 鴨志田實君

君は那珂郡中野村大字東石川の名望家、慶應三年十二月二十四日の出生、幼名を八十太郎といふ、明治十七年三月初めて東石川村外三ヶ村聯合戸長役場の筆生となり。次で同年六月田彦町村聯合戸長役場の書記、同廿二年六月中野村書記、同廿七年七月同村農商務統計調査主任となり、同卅年十月那珂郡農會評議員、同卅一年三月中野村農會品評會審査委員、續いて那珂郡農會品評會審査委員、茨城講農會町村委員、那珂郡堆肥共進會審査委員等を囑託されて農會の發展に盡力尠からず擧げられて中野村農會長となる。

是より襲君は村民の信望愈々厚く卅一年八月中野村收入役に擧げられ次で卅五年五月同助役、卅八年四月同村長に選擧されて村治に盡瘁し卅七八年戰役には勳七等靑色桐葉章及び金五拾圓を下賜さる

君其後も引續き村長に再選され或は村治に或は產業に縣外視察を試み各種講習に聽講し益々修養を積みて地方改良に力を致し四十四年十月には郡會議員に選ばれて大正十年十二月郡會議員に當選現職にあり、君又公共事業に効績尠なからず、賞與を受け表彰さるゝこと枚擧に遑なし、左に表狀を掲げてその一端を示すに止む。

農事風紀の改良農事の改良の獎勵及實行農業教育の獎勵及實行、右成績顯著なるを以て本會農事改良獎勵法により之を表彰す

大正元年十二月

大日本農會總裁

多年那珂郡農會議員として其職に盡瘁し本縣農事の爲め貢献せられたる功勞洵に顯著なり仍て硯箱一ヶを贈り之を表彰す

大正十一年三月

茨城縣知事





前郡會議員

# 皆藤彥右衛門君

君は鹿島郡大谷村の名門皆藤家に生る。資性快活頴敏、頭腦聰明の人にして常に政治に心を致し能く公共事業に力を盡す處尠からず、數々村會議員郡會議員に擧げられ衆望の期するところ地方の民縣會議員たらんことを薦む。

君固辭して請けず。衆君が奥床しきその人格に敬服せざる者なし。

前郡會議員

# 河合季吉君

君は那珂郡瓜連村大字瓜連の人、質商を業として勤勉貯蓄の積財家也、資性極めて溫良にして君不言實行村民の信望頗る厚く村會議員、郡會議員等に擧げられ能く公共事業に盡力す、同地方の名望家也。

君は良く窮民を助く所謂慈善の志し深く故に村郡議員選擧の際今日の如き腐敗の世と雖も僅々の費用も要せず大多數を以て當選するが如き有るは君の平素誠心誠意なる即至誠一貫と云ふにあり村民の敬ふ處とす。

# 鹿志村　力君

君は那珂郡佐野村の人、明治十三年一月七日を以て生る。

資性質義正直克く家を修む、君村民の信望厚く現に區長を勤め又氏子總代たり。

君の家は世々村役を勤め名門家たり、良く公共の事業には資を投じ其功尠なからず、君又正義にして硬骨者なるを以て村民に尊敬され將來共に有爲の人物として期待さるゝ處なり

# 縣會議員 議長　香取類作君

君は猿島郡櫻井村大字柳橋の名門家に生る、資性穎敏頭腦明晰にして智謀あり、能く公共に盡して多衆の信賴の厚く村會議員郡會議員に擧げられて大正四年九月執行せる縣會議員選擧には猿島郡より選出され大正八年九月大多數を以て再び當選し縣會に於ける座作進退宜しきに能ひ今や同僚間に重きを爲す。

君が卓逸せる手腕を發揮せるは彼の人の難しとせる長井戸沼耕地整理組合委員として八百有餘町歩の難事業の整理を斷行せることにして耕地整理模範と稱せらる。

君の賢弟久吉君は函館區裁判所檢事を勤め司法官界に令聞高し。

縣會議員 縣參事會員　神永千代吉君

多賀郡華川村大字上小津田の名門にして明治三年八月五日を以て生れ水戸市大字上市泉町一丁目に居住し酒類薪炭商を營む、資性豪膽にして頭腦明敏、同二十三年騎兵第一大隊に入隊し同二十七年日清國交斷絶して兵火を交ゆるや同年十月第二軍に屬し征途に上り各地に轉戰殊勳を樹て凱旋後功七級金鵄勳章を賜ひ同二十九年曹長に進み同三十年騎兵第一大隊司令部附を命せられ同三十二年特務曹長に進み豫備役編入、日露戰役起るや第一軍に屬して出征少尉に任じ正八位に敍し同三十八年十一月勳七等に敍し瑞寶章を賜ひ同三十九年四月功六級金鵄勳章及び勳六等單光旭日章を賜ふ、後ち水戸商業會議所議員、市會議員等に擧げらるゝ事數回縣會議員當選現に縣參事會員たり君はまた憲政會茨城支部常任幹事として黨勢の擴張に努め居れり。

辯護士
法學士
## 加畑一吉君

群馬縣前橋市の名門の家に生れ幼にして學を好み帝國大學法律科を卒へて法學士となり辯護士事務所を水戸市大字上市仲町に設けて辯護の依頼に應じ親切叮嚀なる所より門を訪ふもの多く前途有爲の人物なり。

前郡會議員
辯護士
## 貝塚德之助君

新治郡下大津村大字加茂の人、明治三年十月を以て同地の名門久保田家に生れ後ち同郡佐賀村大字坂貝塚民三郎君の養子となる、水戸中學校卒業後中央大學に入り同二十五年卒業、同二十六年判事試驗に及第司法官試補を命せられ松本岩田村の兩區裁判所に於て事務を修習し爾來上田谷村、甲府、横濱等の裁判所に歴補し同三十八年十一月前橋地方裁判所部長となり同四十年五月函館控訴院判事に榮進、同年二年勳六等に叙し瑞寶章を賜ひ同四十二年三月高等官四等に陞叙、同年函館地方裁判所部長となり同四十四年十二年東京控訴院判事に榮轉家事都合により同月退職、同四十五年一月從五位に叙せられ同年四月水戸地方裁判所々屬辯護士となり事務所を新治郡土浦町田宿に置き辯護事務に從事し大正二年一月水戸地方裁判所管內破産管財人を命せられ同八年九月郡會議員に當選、郡會議長となり後ち職を辭して專ら辯護事務に從事し居れり。





積善堂藥舖
## 加納與右衛門君

水戸市大字上市泉町三丁目の人にして積善堂藥舖主人也、君は温厚篤實、人に接する極めて懇切叮嚀商業に熱心なるより先代よりの老舖をして益々繁昌せしめつゝあるもの君の努力に依れり、君はまた活版印刷所を經營して店員を督し今日の隆盛を見るに至らしめたるが濱子夫人內助の功亦大にして和歌に長じ詠ずる所のもの數千首を下らず、嗣子增太郎君は藥劑師にして藥局を擔當し加納藥舖の名益々高し。

元衆議院議員
## 河野正義君

行方郡武田村大字三和の人、明治十二年七月を以て生る資性穎悟、幼にして學を好み自から群童に超越す、小學の業卒へて家事の事情に拘束せられ學事に親しむことを得す餘暇を以て獨修す、當時好個の獨修資料なく困難を極めたり、君早くもこの缺陷を補ふて世の不幸兒に福音を與へんことを期し三十三年上京して四方に遊說し遂に大日本國民中學會を創設するに至り尾崎行雄氏を會長に戴き高等師範教授を聘して講師となし中學教育の完全なる通信教授を始めたるは本邦に於ける中等教育通信教授の濫觴ともいふべく高等女學校に入ることを得ざるものゝ爲めに信通講義錄を發行して好評嘖々今尚は東京市神田區駿河臺袋町十六番地にありて多數の會員を有す、君憲政派より推されて衆議院議員に當選すること二回に及べり。

消防組小頭

# 加藤木吉兵衛君

水戸市大字上市上金町の人、明治十四年四月一日を以て生れ素封家なり資性温良にして信用厚し、君の先代は舊水戸藩當時より裁縫業を營み、其の註文に應ずるや敢て期日を誤まらず技術の熟練と人に接する懇切丁寧なるとは今日の繁榮を來したるものにして現に消防組小頭たり。





前村長

# 河原井龜次郎君

明治六年七月廿日東茨城郡西郷村大字小坂に生る性剛毅にして頗る異摯なり少壯本縣巡査となり職を奉ずる十數年年金を得て歸鄕せり村會議員となり郡會議員となり亦村長に選ばれ克く職務に從事し村政の革新をなせり君は憲政會に籍を置き反對黨をして一歩も同村に足を蹈み入る能はざらしむるは君の勢力の爲めなり本縣憲政會に於ては頗る重きを置かれ幹事にて有爲の人物を以て稱せらる。

大子銀行頭取

# 神永秀介君

久慈郡佐原村大字初原八十二番地の人市町村制實施當時の村長並に村會議員として多年村治に盡力し再三縣會議員に擧げられ廉直の士にして飽く迄正義の光輝を發揮して縣會腐敗を照し地の醜議員を愧死せしめたる事あり、櫻岡敏菊池武保兩氏等と共に保內鄕の三傑を以て鄕閭の輿望最も重く櫻岡氏の歿後菊池氏と共に大子銀行の重役として金融機關の運用に力を致し菊池氏失明の身となるや大子銀行頭取となり現にその職に在り功積頗る多く實に縣北保內鄕に於ける重鎭たり。

元村農會副會長勳八等

# 鹿志村武平君

那珂郡佐野村大字稲田十七番地の人安政三年八月十五日を以て生れ明治十八年田畑宅地及山林野原荒地其の他村内誤謬地調査委員、地主總代に擧げられ同二十年より同二十三年迄調査又は地價定減總代當選、中根、馬渡、前濱、長砂、照沼、足崎、高野高場、佐和の各村内視委員として調査に従事し同廿三年地押調査を完成せしめたるもの君の力亦君なり、君は町村制實施せらるゝや常設委員となり同二十四年學務委員、同二十五年村會議員、同三十年收入役に當選、同三十二年日本赤十字社員となり同三十四年收入役再選、同三十六年迄勤續し三十七八年事件の功に依り勳八等に叙し白色桐葉章を賜ひ同四十一年收入役當選大正五年迄勤續し其の間農會議員、農會副會長に擧げられ同九年滿期退職したるが君は有隣生命保險株式會社の代理店を引受け居れり。





元村會議員

# 神永辰壽君

多賀郡關本村大字關本上の人にして明治三十六年三月十四日關本上區會議員に當選、同四十二年三月十四日再選、同四十四年十月一日區制廢止により退職、同四十年四月二十六日村會議員に當選、大正二年五月二十五日滿期退職、同月二十六日再選、同年七月二十五日出納檢査員に當選、同六年四月二十五日滿期退職、同月二十六日再選、同十年四月二十五日滿期退職、同十年六月二日學務委員に當選職にあり、君は資性溫厚にして日露戰役の當時關本上區長に推され同四十一年四月十日まで勤續せり。

元衆議院議員

# 川村淳君

稲敷郡太田町大字堀川の人、元治元年十二月を以て生る嚴父源右衛門君は天保十三年の出生にして廢藩置縣の後始めて郡役所を設置せらるゝや郡吏として採用せられ勤續數年、後ち官選戸長となり又村長に擧げられ前後勤續二十餘年に及び母堂蝶子刀自は八十二歳の高齢に達し今尚ほ鑠鑠として記憶衰へず家事を監督しし居れり、君は土浦中學卒業後明治十三年慶應義塾に入り全科卒業直ちに静岡大務新聞主筆に聘せられ同十八年富山縣師範學校長に任じ女子師範學校長兼任、同二十年福岡に福陵新報の創刊せらるゝや其主筆に聘せられ頭山滿君之が社長たり、同二十三年辭して上京し波多野承五郎渡邊治君等と朝野新聞を買收して其主筆となり後社長となる、同二十五年茨城縣第六區より衆議院議員候補に推されしも落選同三十一年當選大正四年當選、同二十五年國民協會評議員となる、之れ帝國黨の前身なり、後大同俱樂部と改稱するに及び其職を辭し爾來山林、鑛山、活動寫眞等の會社重役として今日に及び大正六年衆議院議員當選憲政會の重鎭にして滿蒙勸業銀行創立に盡力し一方稲敷郡阿波村公有水面百三十町歩の拂下を受け埋立工事中なり。

町會議員

## 川井徳義君

西茨城郡宍戸町の名望家にして明治二十二年の出生なり、資性温良頭腦穎敏、幼にして學を修め長ずるに及びて町の爲め奔走盡力せせしこと尠からず町民の信賴厚く現に町會議員、區長等の要職にあり前途有爲の人物にして遂行するの士なり。

村長

## 川又藤吉君

明治二年九月二日東茨城郡西郷村大字上靑山に生る明治十九年育英に身を委ね上古內尋常小學校長たること多年多大の恩給を得て大正六年職を辭す子弟の薰陶は長所にして懇切一意專心敎育の振興を圖り父兄の信用多大なり靑年會に農業補習敎育に其他諸般の公共事業に盡瘁し其功績枚擧に遑あらず偶村長改選に際し衆望の歸する所となり村長に就職し村政の改善に努め農事の奬勵に努力せり性沈着にて華美を好まず公務餘暇家業を勉め資產益々增殖しつゝあり。

元村會議員

## 神永留吉君

久慈郡生瀨村の人、安政四年三月十一日を以て生れ多賀郡南中郷村大字足洗に住す、明治三十一年五月十九日村會議員に當選、同三十七年五月十九日再選、同四十三年六月十八日、大正三年三月十日孰れも滿期當選、同六年五月十七日滿期退職す、君は亦常設委員、學務委に擧げられ今日に至れり。

郵便局長

## 樫村芳雄君

君は多賀郡櫛形村の人、安政五年戊午十月一日の出生諱は公德、通稱は芳雄、東里と號す、嚴父は吉左衛門公敦元友部村外二ヶ村庄屋及十三ヶ村山横目を勤め元治元年七月歿す、君時に七歲、水戸藩主より家督相續を許可せられ代々郷士石祿を繼承す。慶應二年延岡涅譜の門に入り漢學を修む。明治二年士族に列せらる。九年地租改正に付き調査を授く、十年五月元友部村書記兼人民總代となる、五年村會議員、同常陸興產銀行第一支店取締役及支配人となる。十七年同村地籍調查掛、同六月村會議員再選、同七月友部外二ヶ村聯合會議員、同八月第十一番衛生委員、廿一年十月町村分合諮問委員、廿二年四月櫛形村會議員二十八年四月再選、同十二年赤十字社員、三十年四月同村助役三一年村長に當選、明治十五年より同十三年に至る間村社鯉神社氏子總代三期、三十七年十二月櫛形郵便局長、大正十一年六月赤十字社特別社員となる、此の間公共事業に盡瘁せるもの尠からず。

君明治二年十月水戸藩主より報國の功勞に依り短刀一振を賜はる、又明治十三年以來其筋より賞狀木盃等を下附さるゝこと數回。以つて効績の大なる推して知るべし

村會議員 **鹿志村初吉君**

君は那珂郡佐野村の人、明治五年十月四日を以て生る勤勉にして蓄財家の聞えあり裏山の廣き同村第一にして巨萬の寶庫也。

君村民多數の推すところとなり現に村會議員として村治に盡す。同村將來の爲め益々健在を祈る。君資性溫良にして衆に接するに緩和丁寧なり之れに依て益々信賴厚く將來又有爲の人物と賞讃す。

村會議員 **掛札龍太郎君**

君は久慈郡西小澤村大字落合の舊鄕士、學識人格兼備の士にして村民の信望厚く村會議員に選はる、君は村長として相當手腕を發揮すべき人なれども所謂少數派に屬せる爲め惜しい哉驥足伸ばす能はず暫く自重加餐を望んで罷まず編者は幼年時代より交り辱ふしたる信友である而して君の身邊に就きては徹頭徹尾同情に堪えぬ次第である、顧れば人間僅か五十年後世に惡名を遺し家名に傷けるもの類多し君の如き善良と美名を後世に遺す是れ即ち人格者と敬服す。

**貝塚松太郎君**

君は新治郡佐賀村の名家貝塚家に人と爲る、明治三年十月三日の出生、東京市小石川區大塚窪町三十六に居住す。君は事業家にして各地に活動せるは人の知るところなれども君は既往を語るを喜ばず、今や退いて深慮默考再び活躍の機を窺ふ。蛟龍池中のものとならず、必ずや呼雲昇天の時臻るを思ふ。

君の祖父及亡父共に同地方の名望家なり、君のその碑を建つるや知己大津鈴山、大石正己氏等の援助に依つて篆額は三浦觀樹將軍、撰文は時の東宮侍講三島中洲、書は金井之恭、加ふるに御歌所長高崎正風翁の歌一首を添ふ、洵に榮ある碑にして君常に人に語りて一平民の自分には過ぎたりと爲す、亦君が孝養の一端と謂つべき也。

村會議員 **柏廣行君**

君は久慈郡生瀨村大字高柴の士族、明治二十一年十一月十五日を以て生る。醬油釀造を業とす。君幼にして父を失ひ家を繼いて家業に勤む。資性質實黽勉能く積財す。

君村民の信望厚く推されて村會議員たり。君尙壽秋に富む村發展の益々健鬪されんことを望んで罷まざる也。君の嚴父良く村治に盡し村會議員區長其他助役に選ばれ大に盡す處尠なからざりしが君又父の跡を繼ぎ家名に傷けざるのみならず益々家名の隆盛に心を致し公共の爲に奔走せらるゝは孝子の第一と尙賞するものである。





村會議員 **梶山愛君**

久慈郡中里村大字深荻の人にして那珂郡五臺村大字西木の倉元縣會議員山田民之助君の二男に生れ梶山五郎の新分家として養子入籍したるものなり、君資性溫厚にして穎敏、公益銀行取締役として行務に鞅掌し村民の推すところとなりて村會議員に當選村治に力を致し公共の事業に資を投じたること尠からず。

実業家

## 河井萬吉君

君は久慈郡染和田村大字東染の人、慶應三年三月五日を以て生る、幼年時代より頭腦明晰穎敏にして良く事を觀破するに幾千人よりも賢哲常盤線開通するや多賀郡北中郷村磯原驛前に移轉し木炭商を開店す所謂問屋と稱する大販賣業を營み東京下總銚子各所に輸出し又得意場方面買入れの客來り千客萬來歡迎する處普通の人に非らず該宜敷を得て以て就中其内にも幾多の辛苦を甞め今や東北に於ける木炭豪商右に出ずる人なし功成つて巨萬の富を積み隆々たり長男爲海君五年間醫學研究の爲め洋航中なり君は帝大醫學部を優等にて卒業したる人にして穎敏の聞へ高く次男壽雄君は仙臺醫科大等を第一位に卒業し目下東京に開業す兩賢子共醫大學を俊才にして今日あるは全く君卓偉の力らなりと又兩賢子の資性確實なるものにして世上高評なりとす。

村長

## 鹿島洲雄君

君は那珂郡戸多村の人也、厳父鹿島豊彦君は一生を村治及國治に力を致せる名門にして君其の後を嗣ぎ村民の衆望を負ふて村長に擧げられ專ら村將來の發展を期して惓まず益々郷黨の畏敬するところとなる。

君曾て陸軍に奉職せることゝなり依つて在郷軍人會の爲め盡力尠からず又公共事業に對する功績を擧げて數ふべからず有爲の人物也。

前助役

## 川崎仲之介君

那珂郡佐野村の人、嘉永六年七月十五日を以て生れ資産家にして德望あり、日本赤十字社員、愛國婦人會賛助員恩賜財團法人濟生會員等にして村民多數の推薦により助役に擧げられ村政の改善發達に盡瘁し其他公共の事業に私財を投じたること尠からず地方稀れに見る人材たり。





前助役

## 川野邊東太郎君

安政四年二月廿一日東茨城郡澤山村上阿野澤に生る明治九年夜學會を退職し子弟を敎育す十七年村會議員となり人民總代となる十八年上野澤外九ヶ村聯合會議員となり十八年官林十三等監守となる廿一年郡學事聯合會議員廿二年村會議員助役たりし事あり卅九年稚蠶共同組合の發展に盡し飼育擔當員技術員たり或は組合長となり大正六年郡蠶業共同組合聯合會より表彰を受く先代曾祖父祖父は里正たり舊藩主より苗字麻上下帶刀御免の門閥家たり。

村長

## 鹿志村勝一君

那珂郡佐野村の人にして明治六年五月五日を以て生る、敏腕家にして公共心に富み夙きに縣會議員に當選中立を標榜して議政壇上の人となり縣政に貢献するところ尠からず現村長の職にあり村農會長を兼ね村民の信頼厚く消防組頭たりし事あり。

前郡會議員

## 貝塚作左衛門君

新治郡玉川村大字川中子三百四十番地の人、嘉永五年正月十一日を以て生れ先代は水戸侯に仕へたり、君農を業とし明治二十一年役場書記に擧げられ同二十七年收入役となり同三十三年衆望に依つて村長に推され同三十六年郡會議員當選大正八年再選、君は温厚篤實にして同三十五年霞ヶ浦除堤塘擴築工事を起し約五年にして完成せり長子甚之介君は同三十六年村長就職、同四十二年村會議員に擧げられ大正二年再選、同六年また當選し村民の信頼厚く前途有爲の人物なり。

町會議員 **金澤民彌君**

多賀郡松原町大字高萩千七百二十八番地の人、明治十二年六月八日を以て生れ藥種商を營めり、君は嘗て學務委員に擧げられ教育事業に力を盡し後ち町民多數の推す所となつて町會議員に當選町治の改善發達に努め公共心に富めり。

收入役 **川崎清太郎君**

君は久慈郡機初村の人資性穎敏、頭腦明快にして算筆に秀で衆望の期する處收入役に選ばれ爾來その職に勉勵して益々信望厚し。

町會議員 **加藤馬之助君**

君は多賀郡平潟町の人、明治十五年五月一日を以て生る、貸座敷業を經營す。君町會議員に擧げられ町勢の發展に奔走努力しつゝあり。

醫師 故 **金成棗坪君**

君は多賀郡豊浦町大字川尻の人、慶應元年八月十日を以て生る。幼より好學長じて醫を志し業成りて開業するや優秀の技術と懇切なるを以て患家の信頼厚く、門前市を爲すの盛況を示せり。

君は町醫、學校醫、縣檢疫醫を兼ね又郡會議員郡參事會員の名擧を勤めて名聲ありしが惜しい哉病を得て逝く、噫。



藥劑老舖 **金子八郎右衛門君**

君は水戸市下市本四丁目の舊名門にして慶應二年四月廿九日を以て生る、資性溫良正義の士也代々八郎右衛門を襲名以て衛門の蹤跡を繼ぐ、衆望の期するところ市會議員、市參事會員、商業會議所議員其他多數の名譽職に擧げられ市民の崇敬措かざる人格者也。

村會議員 **樫村廣喜君**

君は多賀郡黑前村大字山部の名門家に生る。資性極めて溫順にして人に接するに誠心誠意を以てす正義の士也衆望を負ふて村會議員に擧げられ信頼頗る厚し。

君の嚴父廣助君亦數回村會議員に擧げられて村治に盡すところ大なり。君其後を嗣ぎ克く村治に努む、洵に家門の譽れと云ふべし。

郵便局長 **掛札純一君**

君は那珂郡小瀨村の人、慶應元年十月の出生、明治廿年警視廳巡査を奉職し同廿五年郷里に歸りて小瀨村收入役となる同廿九年七月郡會議員に擧げられ、同三十二年六月同村助役同三十三年二月村農會長、同三十六年六月小瀨郵便局長となり村內に於ける衆望厚く信頼頗る深し

前村長 故 **樫村儆君**

君は多賀郡黑前村大字山部の人、資性活潑にして敏腕能く論議して頗る快活也。村長として村民の信頼頗る厚く他町村或は郡縣等に出張して接捗最も巧なり、衆君に囑望するところ多かりしが今や幽明境を異にして再び見る能はず。噫

前水戸市長
# 川田久喜君

東京牛込矢來町三番地に居住す、君は安政五年九月一日を以て土佐に生れ明治十七年七月茨城縣御用掛、同年十二月警部に任じ下妻警察署勤務、同十八年五等屬兼任總務課營繕係、同月結城岡田豊田郡長心得、同十九年二月郡長、同年七月縣屬に任じ官房詰を命せられ同二十一年土木課長となり、同二十二年三月市町村制實施取調委員同二十三年六月縣制郡制並に水利組合法條例實施委員、同十月内務部第二課長となり同二十四年九月行方郡長に任じ同二十七八年事件の功に依り金百圓下賜、同三十年六月北相馬郡長、同年十二月臺南縣警務署長同三十一年六月臺南辨務署長同三十二年四月鳳山辨務署長兼臺南辨務署長東港署長阿猴辨務署長、同三十四年十一月鳳山郡長、兼臺灣土地調査局事務官となり、同三十八年六月依願免官同四十一年東京市京橋區長に任じ麹町區に歴任して休職、大正三年五月水戸市長選任二期を通過して職を辭するに至れるが君は交際家にして温厚篤實の士なり。





村會議員
# 金澤保君

君は多賀郡關本村の人、明治十六年五月廿六日を以て生る、富士生命及徴兵保險會社の代理店を業とす。代々次左衛門と稱し、累代棚倉藩の庄屋を勤む、曾祖父は大庄屋にして割元役を勤め名字帶刀御免、父祖は庄屋里正戸長等を歴任す。嚴父は區會村會議員として德望ありしも壯年にして卒す。君幼にして家を繼ぐ、爲人剛直博愛義心に富む、騎兵上等兵として日露戰役に從事し功に依り勳八等に敍せられ、歸鄕後村書記として勤續五年、大正六年五月推されて村會議員となり再選されて現職にあり其他在鄕軍人分會長、消防部長、穀物生產檢査員等の要職を帶び公共事業に盡瘁し德望一鄕に周ねく少壯有爲の士として衆の囑望するところたり。

故
# 樫村定男君

多賀郡黒前村大字山部十七番屋敷の人安政六年七月十三日を以て生れ樫村祐助君の二男なり、先代定介君の養子となり明治二十年一月家督相續す、嘗て縣會議員に當選し議政壇上の人となり多賀銀行頭取、多賀電氣株式會社等の重役として令名ありしが不幸病の爲めまた起たす噫惜しむべし

前郡會議員
# 樫村菊太郎君

多賀郡櫛形村大村友部の人、明治元年八月二日を以て生れ酒造業兼農業を營み同三十四年四月二十二日村會議員に當選、同四十年四月二十一日退職大正二年四月二十三日郡會議員當選郡參事會員に推され同六年四月二十二日退職、同十年四月二十三日村會議員に當選今日に及びしものにして資性溫良村民の信賴厚く前途有爲の人物たり。

西金郵便局長
# 神永道之介君

久慈郡下小川村大字西金の名門家にして資產あり公共の事業に力を惜まざる底の活躍家たり、君資性溫良にして各種の事業に私財を投じたること尠からず西金郵便局長の椅子空虛となるや推されて局長に任せられ郵務に精通し村民の信賴厚し。





醫師
# 川崎信夫君

那珂郡勝田村大字勝倉の人、明治十二年九月二十日を以て生る、君は嘗て水戸市大字上市西町私立茨城濟生病院副院長として手腕を揮ひ患者に對する懇切丁寧信用厚かりしがその後して自宅に開業し午前中は患者を迎へて診察し午後往診するを例とす、君はまた夜中暴風雨若くは風雪等にても門戶を叩くものあれば道の遠近を問はず往診するより國手として評判よく常に門前市をなす程隆盛を極め居れり、君の嚴父は舊藩時代に水戶侯に仕へたる硬骨の人なり。

元郡會議長
## 川崎松之介君

那珂郡川田村大字枝川八十二番地の人、明治三十一年十二月四日を以て生れ酒類小賣業金錢貸付業を營み活動家たり、資性温良にして頭腦明敏、村會議員、村長、農會長、郡會議員等の公職に擧げられ郡會議長に推さる君亦茨城配合肥料株式會社社長其他各會社の重役たり。

下深荻郵便局長
## 梶山五郎君

久慈郡大字下深荻の人、嚴父治郎之介君は勤勉家にして巨萬の財を積み同地方の爲め盡瘁せり、君亦資性温良にして堅實、下深荻郵便局長として通信の完備を圖り公共の事業は力を傾注しつゝあり有爲の人物たり。

村長
## 川上亮毅君

久慈郡染和田村大字町田四十二番地の人安政六年二月十七日を以て名門の家に生れ、明治三十五年八年二十二日村長代理者となり、同四十年十二月六日助役に擧られ大正七年四月二十九日再任、同八年十一月五日村民多數に推されて村長に當選認可就職す、君資性温厚篤實にして信賴厚く明治二十八年五月七日村會議員に擧げられ大正十年五月十七日まで毎次の改選期に當選せり。

元村長

## 樫村猪之介君

多賀郡櫛形村大字友部の人、元治元年四月十七日を以て生を士族にして農を業とす、明治二十二年四月二十二日村會議員當選、同二十八年四月二十二日退職同日再選、同三十二年四月二十二日助役就職、同十月十六日退職、同三十三年五月一日村會議員辭職、同三十七年四月四日村長就職同三十九年十二月四日病氣退職同四十年四月二十二日村會議員當選、大正二年四月二十一日退職、同六年二十三日就職、同十年四月二十二日退職せり君は温厚篤實にして君は郡會議員に擧られし事あり地方に名望高し

助役

## 河合政吉君

君は東茨城郡鯉淵村の人、思想潔白にして廉直の譽高く且つ識見豊富なるが故に推されて同村助役となり克く職務に精勵して一村の輿望を集めつゝあり。

君常に至誠以て職に殉するは之れ國民の本分を完ふするものなりとの自覺を有して格勤忠實なるが故に全村擧つて其の識量手腕に信賴する處なり常に敬愛の中心となつて其職に欣然たるは人世の眞意義を解せるものにして又得易からざるの名士と推稱するに憚からざるなり。

村會議員

## 河原井繁太郎君

明治七年七月東茨城郡西郷村大字小坂名門に生る性來奮鬪家にして專心家業を守り努力す今や村民の輿望に敬慕とを一心に集め選ばれて村會議員となり敏腕を振ひつゝあり大正九年國勢調査委員大正十二年農會總代たり君は熱烈なる憲政會員にして克く黨勢の擴張をなし現に茨城支部評議員たり。

元助役

## 神永丑松君

多賀郡南中郷村大字足洗六百八番地の人、明治五年三月五日を以て生れ同三十七年十二月二十四日收入役に擧げられ同四十一年八月三十一日退職、同年九月四日助役就職、大正元年九月三日滿期、同月四日再選、同五年九月三日滿期退職せり、君はまた消防組頭、衛生組長、氏子總代、國勢調査員等に擧げられ常に公共の事業に力を致し村民の信賴厚し。

請負師

## 神田國之助君

君は那珂郡石神村大字石川の人、物幼より豪傑志士たり水戸市上市仲町に居を構へ本縣下は勿論近縣に至り土木橋梁改築等工事に關する事業にして大なるもの總て君の手腕によらざるなし資性温良にして豪侠者たり公私共大小に拘らず紛擾起る哉必らず其仲間に立ち圓滿なる解決を觀る問題は百般金圓上に基づくもの也爲めに該解決届かざる場合に於ては自費を投じ懐ろ金を支出し圓滿を結ぶと云ふ實に得難き人物として同業者間に重きを置かれ尊重さるゝと云ふにあり。

前郡會議員

## 川井恒太郎君

君は新治郡柿岡町の人、明治五年七月廿一日を以生る祖先は清和天皇の後裔長倉遠江守源義奥の家老川井内記直氏にして君はその十八代の嗣なり、三十七年四月町會議員となり同年五月助役に擧げられ三十七八年の戰役には功により勳八等白色桐葉章を賜る、四十五年一日柿岡煙草耕作組合長となり大正八年九月郡會議員に當選す長く町務に盡瘁して勍績尠からず衆望厚く大いに前途を期待さる。

前郡會議員

## 川島運平君

君は新治郡美並村大字深谷の素封家に元治元年六月廿一日を以て生る。嚴父誠氏は最も最格質義の士にして土浦藩の御用係たり。君其後を嗣ぎ村會議員區長郡會議員其他の要職に擧げられ村内に於ける德望家にして村民の信頼厚き人格者なり。

穀農家

## 川澄龜右衛門君

君は鹿島郡大谷村大字造谷の人明治九年七月九日を以て生る資性快活にして談論風發の士也。農業を業とす。祖先は常陸大塚國香五世の孫平繁幹の子重義眞壁郡小栗の地を領し小栗を稱す。十數世を經て重顯に至り眞壁郡川澄の庄に居る即ち庄の名を姓とし川澄家の開祖たり。祖先轉々して造谷の地に移る代々名主役を勤む。

君は精農家を以て知られ大正六年新嘗祭供御の精粟献納者に選ばる君小作人組合有穂會を設立し五訓を示して自家小作人を善導す。又本縣木炭同業組合發起人にて現に代議員たり。自家生產の木炭平和博覽會に於ては銅牌を受領す。

君敬神崇佛の志深く菩提寺たる名刹眞照寺を再建して効あり又郡長より表彰されて敬神家なり。

前村長

## 河井宜彦君

君は水戸市下市仲の町の人、幼より學識筆算に優秀なるを以て世に重用せらるは之れ野口北巖に就き漢學を研究したる賜といふべぎなり。君は行方、多賀、東茨城の各郡役所に於て主席郡書記となり勤勉衆に秀づるものあつて功により勳八等瑞寶章を賜はる。而して其の職を辭するや悠地閑地に自適せしが難村を以て縣下に知られたる東茨城郡堅倉村紛擾整理委員となり又村長に選ばれ遂に縱橫の才力を發揮して圓滿を告げたるは君の敏腕なるを證するに足るべし。君又風流韻事に親しみ和歌に長じ其の能筆を以つて之を發表するの時斯道の人をして感歎措く能はざるものあらしむるは造詣の深遠たるに依るものといふべし。圓轉滑脱の才氣往くとして可ならざるものなきは之れ君の天分なりと謂ふべきなり。

町會議員

## 加藤龍惠君

君は鹿島郡大谷村大字田崎の名門家田崎龍之助君の賢弟にして同家は代々村役を勉む。君は其後東茨城郡礎濱町加藤家を嗣ぎ同町の町會議員に當選して現職にあり。資性温良なれども政黨上の問題起るや奮然として蹶起し反對黨の批政を糺彈するに苛責する處なく敵膽を寒からしむるの氣慨を有するが故に本郡に於ける憲政派の雄將として重視せらる。而して時事問題を論議するに當つては卓越せる識見を吐露して風發せる舌論大花を散すが如き意氣諷爽たるものあり。君の生命は操守堅實にして理非曲直を明敏なる頭腦に依つて裁斷しその所得に向つて驀然するにあり、此の王候も奪ふ可からざるの性格は郡民の信賴を博する所以にして眞に政界の覇者たるに羞ざる者あるを信す。

消防組頭

# 樫村定美君

多賀郡黒前村大字山部の人、明治十三年一月を以生れ同三十四年十月故前縣會議員、多賀銀行頭取、多賀電氣株式會社樫村定男君の養子となる、君は日露戰役に出征して各地に轉戰して戰功あり凱旋歸鄕するや戰功に依り勳八等に敘せられ嘗て青年團長軍人分會長村會議員に擧げられ現に大字山部區長消防組頭、日本赤十字特別社員たり、妻女いち子は亡定男君の長女にして愛國婦人會特別會員たり、君は三男二女を擧げ長男之男君は茨城縣立農學を卒業後私立農業大學に入り卒業、本年十二月一年志願兵として入營すべく二男定勝君以下四名は目下在學中なり。

前村長
村會議員
右ハ

# 樫村精一郎君

多賀郡黒前村大字山部の名門にして資性温厚篤實村民の信賴厚く嘗て村長に推され就職して村政に力を致し後ち村會議員候補者に推薦され出馬して當選村治に盡瘁しつゝあり嚴父良三君は町村制實施當時に村長として令名あり縣會議員に當選し常置委員に擧げられたる名望家たりしなり。君は碁將棊の名手にして一見紳士高風者なり。

市會議員
## 金澤源介君

水戸市大字上市泉町二丁目の人にして明治五年三月を以て生れ源助君の長男なり、同四十年二月泉町々務委員に推され同、四十二年水戸市消防組小頭を命ぜられ、同年五月水戸商業會議所議員に當選、同年九月同常議員に推さる、同四十三年四月市會議員候補者として出馬するや君に待つ所多きを以て當選、同年九月公園委員となり同月市宅地地價調査委員、同四十五年四月市參事會員となり大正二年四月市會議員に再選、同年七月水戸商業會議所副會頭に擧げらる、君は幼年時代より穎敏學を好み今日にては實業家中の錚々たるものにして自轉車鐵物等を營めり、君は嘗て水戸市選出の衆議員候補者に推され政友派と闘ひしも利あらず落選せしも其の手腕に至りては優に衆議員たるに耻ぢざる才能あり名望高く前途有爲の人物たり

元助役
## 柏潔君

君は那珂郡墻田村大字長田に生る、當時同郡大宮町に新家を開拓して實業に從事し勤勉貯蓄頗る敏腕の聞えあり。

君は元墻田村助役を勤め誠意を以て村治に當り敎育の普及勸業の振興に努力して功績尠からず村民今以て君の手腕を賞讃せざるなしといふ。





醫師
## 横瀨卓郎君

君は眞壁郡大寶村大村横根の門閥家に生る。嚴父は漢方の名醫なり、資性穎敏頭腦明快幼より學を好み醫學に志し笈を負ふて帝都に出で濟生學舍に研鑽す。卒業の後今の石岡町に開業す。技術優秀加ふるに患家の應待頗る懇切丁寧なるを以て内外の信頼極めて厚く郡醫師會頭を始め縣會議員其他町の公私に關係して能く盡力し益々名聲を高む。

夫人横瀨都宣子女史は淑女の譽れ高く夙に帝都に出でゝ濟生學舍に學び成績優秀を以て卒業女醫となり後横瀨君に嫁す技夫君と並び稱せられ門前市を爲す盛況を示す。一院にして二良醫あり、洵に鄕黨の誇といふべし。

前郡會議長
縣會議員
## 吉田兼吉君

君は多賀郡南中鄕村大字松井の士族明治十七年五月二十五日名門雨宮家に生る。土木建築請負を業とす。嚴父雨宮久藏君は區長土木委員、衛生組合長、村會議員等を數回勤め又收入役、助役、村長の三役を打拔きたる人にして縣下にも多からず。君は故ありて他姓を嗣ぐと雖も父の意志を繼ぎて公共に盡し北中鄕村に於て消防組頭及び村會議員、郡會議員として敏腕を揮ひ同郡有數の人物として郡民の期待するところたり。

前村長 **横山音松君**

君は那珂郡塩田村大字西塩子の人、豪農にして代々名主役を勤む、祖父淺五郎君は大成敎々導職として補少講議嚴父東之介君は明治七年七月西塩子村副戶長となる、同十二年六月改正に付同外二ヶ村の人民總代となる十二年十月村會議員に當選、同卅年四月收入役に當選、同卅二年一月三姉夫三百祝を行ふ時に祖父淺五郎昌信文政四年十月二十日生七十九歲祖母文政十二年二月廿八日生七十一歲父東之介重信嘉永元年十二月十二日生五十二歲母須庭嘉永六年八月二十二日生四十七歲音松義晴明治五年三月廿九日生廿八歲妻布與明治十年十二月十日生二十三歲三十四年四月助役に選任さる三十五年七月村長に選任さる三十七年一月十六日病を以歿す年五十五歲歷任加公職大小六十有三長男正義君大正十年九月三日　東宮殿下御渡歐奉迎に付全國靑年團那珂郡靑年代表者として橫濱に奉迎す、君は明治三十七年四月村會議員に當選、大正四年十月　天皇陛下御即位に依り饗饌を賜り御召狀同四年十一月御大禮記念章證を賜る同天盃を賜る日光東照宮三百年祭奉擧會に盡力の功勞により感謝狀及び木盃一組を賜る病兵罹災者慰問會へ金參拾圓を義捐し　總裁殿下より感謝狀を賜り六年十二月村長に再選さる七年六月明治神宮奉賛會へ寄附せしに付奉賛章を賜る大正九年四月塩田村長退職に付奉職中村治に盡力せし功勞により退職記念品として臺付木盃一組寄贈さる學校敷地寄附に付き本縣知事より木盃一組を賜る寄附金數ふるに遑あらず。



村會議員 **吉成秋之介君**

君は久慈郡高倉村上高倉の人、明治十九年十二月十六日を以て生る、資性溫良にして氣骨あり不言實行の人也。衆望を荷ふて村會議員に舉げられ克く村治に奔走し將來有爲の士を以て目せらる。

**吉川清太郎君**

君は新治郡石岡町の人、老舖吉川家に明治五年一月五日を以て生る。幼名を幸太郎と呼ぶ。父淸太郎君長逝の後襲名して淸太郎と改む。君は幼より穎敏にして實直家業に勵む、同店製造に係る若柳香煉油は最も優良にして其の名聞遠近に高く各地に移出する產額逐年增加し日に月に繁榮しつゝあり君の家は代々德望家相嗣ぎ君亦町民の信望厚く町務に盡し町務委員町會議員消防組等に參與せざるなく公私を通じて克く盡力奔走し益々町民の信賴して措かざる德望家なり。

前町長 **吉田貞藏君**

君は稻敷郡舟島村の人舊門閥家たる吉田家に生る。少壯より能く公共に力を傾注し事に當りて誠意潔白、算筆衆に秀で明治初年村役場に勤む進んで助役を經て村長の職に昇進し町村制實施以來殆んど一世を村治に盡し敎育の普及道路の改善勸業の發達役場整理に是れ力め遂に縣下の模範村長として表彰せらるゝに至る。人生僅か五十年瓦となりて全ったからんよりは玉となつて碎けよと言へる金言あり、君の精神亦斯の如し、君が名は村政史上珠玉となつて輝かん。

故 **吉田春吉君**

君は久慈郡山田村大字松平三番屋敷萬延元年二月十五日を以て生る。肥料商を業とし其機を見るに敏にして叉手腕家なりしかば村民の信望厚く村會議員に舉げられ大いに爲すあらんとするの時可惜奕病を得て大正十一年七月二十七日長逝す噫。

村會議員 **米川富三郎君**

君は東茨城郡上野合村の人、明治四十二年東茨城郡會議員に選ばれ同四十三年村會議員となり、同四十三年郡會議員に再選し、四十四年東茨城郡名擧職參事會員に選ばれ大正二年四月上野台村長に當選し其の滿期迄一村の發展を圖り爲めに教育、產業大に見るべきものあるに至れり。

大正四年十一月大典饗饌を賜はり記念章拜授せり、大正六年四月君は衆望を荷ふて村長に再選し益々地方自治の發展に貢する事大なるものあり、而して此間東茨城郡敎育會議員青年會長、地主副會長、農會副會長、國勢調査委員等に選ばる

君は小學校卒業後漢籍其他を研究の爲め栗田寛先生の門に遊ぶ事多年大に學識を廣め溫健着實なる志想に依つて一村の理想化を企圖し今や村內の重鎭として令名嘖々たるものあり

銀行頭取 **淀川藤八郎君**

君は那珂郡長倉村大字長倉の人、同郡隆鄉村大字高部の名門岡山家に生る、今の岡山升平君の賢弟なり、後出で丶淀川家を嗣ぐ。資性溫良技量優秀の人にして數々村民擧つて、村長に推さ雖も家事の都合により固辭して受けず、今や長倉銀行頭取たり。傍ら清酒醸造業を營みその販路廣く隣縣栃木町茂木町東京市水戶市等に各支店を有して家業日に月に隆昌を極め居れり最も將來有爲の人格者たり





前縣會議員 **吉田勇吉君**

先生の眞筆

君は稻敷郡朝日村の人辯論卓舌衆に勝れ正義活潑にして良く論談編者は君の履歷後世に傳へんと欲す、斷んじて記載せざる旨注告により筆を止む

## 横山桂之助君

君は多賀郡黑前大村山部の人、萬延元年八月を以て生る。資性廉潔にして實直、算筆に秀す。明治三十七年四月株式會社多賀銀行に入り頭取樫村定男君に認められ信頼厚く入社以來己に滿十八ヶ年を勤續す。同四十年四月より茨城縣松原支金庫事務取扱主任となり現に其の職にあり。

## 前郡會議員 吉田慶助君

君は眞壁郡下舘町の舊名門、明治八年六月二十八日を以て生る。嚴父貞吉君は諸銀行の頭取又重役たり。君は又書豪高林五峰の高弟にして書を能くす。

君は夙に本邦物産の產に數へらるゝ足袋底職業が依然として捗しき進步を爲さゞるを憂ひ三十九年獨力足袋底工場を起し軍人遺族保護の名下に軍人遺族をして專ら產額の增進を圖り四十四年下舘足袋底木綿同業組合を組織し其組長となりこれが發展に專心努力しつゝあり。

君は消防組第一部長其他名會社の重役町の名譽職の選ばれ公私に盡力し大正八年には郡會議員に選擧され同町に於ける有爲の士として衆望の期待するところたり。

## 村會議員 棚谷勝吉君

久慈郡機初村の人にして明治十二年四月六日を以て生れ資性頴敏活潑、公共の事業に盡瘁せしこと尠からず現に村會議員として村治の改善發達を圖り前途有爲の人物たり。





## 村會議員 與澤三次郎君

君は久慈郡中里村大字岡上の人、資性温和事に當つて眞摯先代より農業を勵み殊に煙草耕作に熱心なり、村民の信頼深く推されて村會議員となり部內の百般に斡旋努力し益々名聲を高めつゝあり。

君は又硬骨にして正義たり、公私共に奔走する處少からず尙公共事業にに資金を投ずる事數ふるに遑あらず故に近隣の敬ふ處となり將來有爲の人格者である。

## 町務委員 勳八等 横山記一君

君は會津若松の舊藩士にして明治三年十月を以て名門家たる横山家に生る資性濶達正義にして腦頭明敏辯論卓舌衆に勝ぐれ日淸日露の戰役に參加し一身を我帝國の爲めに大奮闘の結果其効績尠なからず勳八等に叙せらる歸郷後水戸市上市白銀町に居を構へ公共の爲めに大に盡力する處あり、信頼厚く町務委員に擧られ君は惡を懲し善を迎へるの士たり、而して事と志し大に違ふ、君又切齒梔腕慷慨悲憤尙止まず大和男子として大に歡迎す益々奮闘努力百年の大計忘れざらん事を渴望するのである。

## 前村長　吉成祐太郎君

君は久慈郡佐原村大字左貫の士族、近郷切つての資産家なり。邸宅山間にありと雖も無の宏壯なること宛も社殿の如く一見普及の豪農と趣を異にして訪客其の偉觀に驚かされざるは無し。

君嘗て村會議員郡會議員に擧げられ又村長の要職にありて村治の爲め貢獻せしところ尠からざりしが今や勇退して森林の殖栽に力を致し專ら畜産の通を計つて悠々自適たり。

## 醫師　吉久保辰五郎君

君は多賀郡南中郷村大字粟野の人、明治十三年四月二十日吉久保武七君の三男に生る。幼より好學遂に醫師となり明治四十年十一月北中郷村大字木皿に分家し田舍に稀なる宏壯醫院邸宅を構ふ。

君推されて郡會議員となり郡治に盡し又村醫學校醫を兼ね敏腕の聞え高く蓄財に巧みにして今や巨萬の富を積む。前途洋々乎たり。





## 村會議員　田所熊次郎君

久慈世矢村大字小目の人、慶應三年七月二十三日を以て生れ資性溫厚にして村農會長に推され農事の改善發達に努め後ち職を辭し現に村會議員として村治に貢献しつゝあり。

## 元郡書記　高橋種成君

多賀郡松岡村大字手綱の舊藩士にして嘗て同郡書記に任じ第一課長に進み令名あり後ち職を辭したり、碁將棋を好み悠々自適光風霽月を友とし居れり。

## 前町會議員　田所孝太郎君

多賀郡豊浦町大字川尻二百七十七番地の人、明治六年四月二十七日を以て生れ小間物化粧品販賣業を營み汽車の未だ開通せざる當時は近郷より仕入れの爲め同店に至りしものなり君嘗て町會議員町務委員等に擧げられ町民の信用厚し。

## 元村會議員　田崎龍之助君

鹿島郡大谷村大字田崎の人にして家世々農を業とす、君は勤勉家の聞え高く明治三十年收入役に擧げられ同三十二年病氣の故を以て職を辭し同三十四年五月村會議員當選、同四十年五月再選田崎區長として區民の尊敬する所たり嚴父藻一郎君は町村制實施の當時村會議員に擧げられ公共の事業に盡瘁せり。

呉服商 **高野喜兵衛君**

新治郡石岡町の人、明治十年九月二十五日を以て生れ、同町の豪商たり、世々呉服商を營み君は實に八代目の當主にして資性穎敏、町會議員所得税調査委員等に擧げられ町民の信用厚く親戚關係ある久慈郡太田町の猿田家、水戸市の中田家孰れも名門にして巨萬の富を積める豪商なり。

市會議員 **田山慶助君**

福島縣石城郡泉村の人、明治六年十一年三日を以て名門に生れ、水戸市大字上市柵町に居住して石炭業を營み、市會議員に推され現に市治に貢献し縣會議員小峰滿男君等と謀りて石炭販賣株式會社を設立し重役たり、君は公共の事業に盡瘁し各種會社重役として令名あり前途有爲の人物なり。

洋服裁縫業 **玉造竹三郎君**

新治郡新治村大字下土田名門玉造家十五代の孫にして明治十一年九月二十三日を以て生る、資性穎敏にして活動家たり嚴父長兵衛君の許諾を得て水戸市大字上市銀杏町に居宅を構へ洋服裁縫業を營み信用厚く徒弟數拾名を使用し當市に於ける唯一の洋服店にして最も高評たり。





町會議員 **田崎寅次郎君**

行方郡潮來の人にして資性盡良義侠心に富み町務に盡瘁し町會議員の要職にあり町民の信頼厚く町の爲めには殆んと寢食を忘れて力を惜まず町務に奔走する處尠なからず常に町民の敬服する處なり。

會社員 **高瀬顯君**

行方郡の人にして幼より學を好み東都に出でゝ明治大學に入り優等の成績を以て卒業し東京府下荏原郡大崎町居木橋五百四十六番地に居住し品川白煉瓦株式會社に入る、君資性穎敏にして令名あり前途有爲の人物たり。

前村長 **立花富次郎君**

多賀郡高鈴村大字助川の人、性温良にして正義常に公共心に富む衆望の選む處となり區長、村會議員に數回當選す、村長に擧られ村の發展に心を傾注し學務、衛生、勸業等に至る迄奔走尠からずして村民の敬服する處なり、又社界事業としては金錢を投ずるを快よしとす、現に日本赤十字特別社員其他百般に支出せり。

前町會議員 **武子源一郎君**

君は明治廿一年三月八日を以て多賀郡平潟町門閥家たる武子家に生る資性穎敏明快にして良く公共の事に心を傾注し町會議員就職中は學務、衛生、勸業等に至る迄町長を補佐し盡力尠なからず故に町民の衆望を以つて現に平潟町消防小頭に擧られ又百般町の公務奔走す將來有爲の人として崇拜する處多ふし。